



みなと新潟

# 北前船

## フォーラム

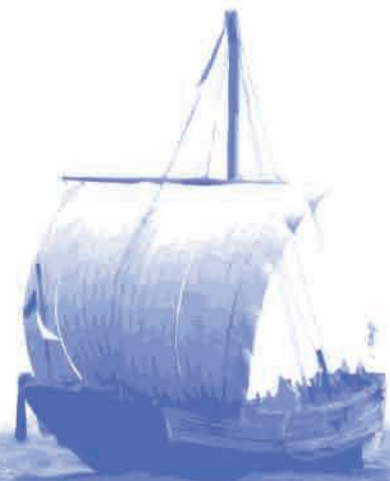
### 報告書

北前船にまつわる歴史・文化資源を  
現代そして未来に向けたまちづくりに活かそう

開催日時 平成 26 年 8 月 31 日(日) 13:30 ~ 16:45

会 場 新潟市民プラザ (NEXT21 ビル 6 階)

主 催 新潟市中央区自治協議会



# 目 次

1. みなと新潟 北前船フォーラムの概要 .....	2
2. 開会あいさつ .....	4
3. 調査報告 .....	5
「平成 25 年度北前船を活かしたまちづくりに関するアンケート調査結果」	
4. 基調講演（要旨） .....	8
「柳都新潟・みなとまち ～歴史的港湾都市の再生～」	
5. パネルディスカッション（要旨） .....	10
「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」	
6. 質疑応答・まとめ .....	14
7. アンケート結果 .....	16

## <資料編>

■ 案内チラシ .....	19
■ 出演者の発表資料	
◇ 基調講演 岡崎 篤行 氏 .....	21
◇ パネルディスカッション 田代 雅春 氏 .....	30
◇ パネルディスカッション 野内 隆裕 氏 .....	36
◇ パネルディスカッション 明間 博隆 氏 .....	40
■ 講演録（原文）	
◇ 基調講演 .....	43
◇ パネルディスカッション .....	54
■ アンケート結果（原文） .....	78



# 1 みなと新潟 北前船フォーラムの概要

## <フォーラム開催概要>

日 時：平成 26 年 8 月 31 日（日）13:30～16:45

会 場：新潟市民プラザ（NEXT21 ビル 6 階）

参加者：232 名（入場無料）

プログラム：

13：00 開場

13：30 開会

13：35 調査報告「平成 25 年度北前船を活かしたまちづくりに関するアンケート調査結果」  
発表：戸川 芳孝（中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」副座長）

13：45 基調講演「柳都新潟・みなとまち～歴史的港湾都市の再生～」  
講師：新潟大学工学部教授 岡崎 篤行 氏

14：50 パネルディスカッション「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」  
パネリスト：田代 雅春 氏（北前船時代館 旧小澤家住宅 館長）

野内 隆裕 氏（路地連新潟メンバー・にいがた観光カリスマ）

明間 博隆 氏（早川堀通り周辺まちづくりを考える会 理事長）

篠田 昭 氏（新潟市長）

コメンテーター：岡崎 篤行 氏（新潟大学工学部教授）

コーディネーター：藤田 孝一（中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」座長）

16：25 質疑応答

16：45 閉会

## <当日配布資料>

- プログラム
- 調査報告「平成 25 年度北前船を活かしたまちづくりに関するアンケート調査結果」資料
- アンケート
- 各種パンフレット

## <プログラム表面>

みなと新潟 北前船フォーラム

### 北前船にまつわる歴史・文化を “みなと新潟のまちづくり”に活かす

開催日時 平成26年8月31日(日)13:30～  
会 場 新潟市民プラザ (NEXT21ビル 6階)

北前船最大の寄港地であった新潟。当時の船は多くの史実や、  
近代以降のまちづくりの歴史を伝える。まちづくりのなかで、  
活かすことができます。町屋や船、日船の存在など、みなと  
新潟を豊かにするまちづくりも考えられています。  
このフォーラムでは、北前船にまつわる歴史・文化・活動  
を今後の新潟のまちづくりに活かすため、食卓の皆さんと共にその  
方を考えていくものです。

13:00 開場  
13:30 開会  
13:35 調査報告「平成25年度 北前船を活かしたまちづくりに関するアンケート調査結果」  
13:45 基調講演  
「柳都新潟・みなとまち～歴史的港湾都市の再生～」  
講師：新潟大学工学部 教授 岡崎 篤行 氏  
14:35 休憩  
14:45 パネルディスカッション  
「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」  
パネリスト：田代 雅春 氏（北前船の時代館 旧小澤家住宅 館長）  
野内 隆裕 氏（路地連新潟メンバー・にいがた観光カリスマ）  
明間 博隆 氏（早川堀通り周辺まちづくりを考える会 理事長）  
篠田 昭 氏（新潟市長）  
コメンテーター：岡崎 篤行 氏（新潟大学工学部 教授）  
コーディネーター：藤田 孝一（中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」座長）  
16:25 質疑応答  
16:45 閉会

主催：新潟市中央区自治協議会  
新潟とみなとまち部会  
協力：新潟市中央区役所地域課

お問い合わせ先：中央区自治協議会事務局（中央区役所地域課）  
〒951-8502 新潟市中央区南大町1-1-1 新潟市民プラザ  
TEL：025-223-7023（直通） FAX：025-223-3560

講師・パネリスト等プロフィール



基調講演 講師、コメンテーター  
おかざき あつゆき  
**岡崎 篤行氏**

新潟大学工学部 教授

昭和40年福岡市生まれ。東京工業大学社会工学科卒業、同大学院 修士課程修了。東京大学大学院博士課程、東京都立大学助手、ボストン大学客員研究員などを経て、現職。博士（工学）。

専門は都市計画で、主に歴史的環境保全、景観計画、住民参加について研究。近年は全国の花街を対象に、町並み景観や料亭建築の共同研究を行っている。全国町並み保存連盟理事、新潟県まちなみネットワーク副会長、新潟まち遺産の会副代表、古町花街の会副会長。

著書に「歴史的遺産の保存・活用とまちづくり」、「都市の風景計画 - 欧米の景観コントロール 手法と実際」（いずれも学芸出版社刊、共著）など。



パネリスト  
たしろ まさはる  
**田代 雅春氏**

北前船の時代館  
旧小澤家住宅 館長

昭和25年新潟市生まれ。昭和52年に新潟市役所入庁、平成16年に新潟市歴史博物館副館長就任。平成23年には 同副館長及び北前船の時代館新潟市文化財旧小澤家住宅館長就任。

■北前船の時代館について

江戸時代後期から新潟町で活躍していた商家・小澤家の店舗兼住宅。かつての新潟町の町家の典型例であり、構成する一連の施設（建物、蔵、庭園等）がほぼそのまま残されている。平成23年7月の開館以来、市民・文化施設・学校・その他の諸団体と連携し共同事業に取り組んでおり、平成26年7月には延入館者数が50,000人を突破。



パネリスト  
の うち たかひろ  
**野内 隆裕氏**

路地連新潟メンバー  
にいがた観光カリスマ

昭和43年新潟市（下町）生まれ。まちあるきグループ「路地連新潟」メンバー。下町界隈を中心にまちづくり活動や情報発信を行う。

■主なとりぐみ

平成9年 ホームページ「にいがたなじらねっと」で下町や日和山を紹介。  
平成13年 「にいがた寺町からの会」を結成、西彌寺町と日和山の顕彰活動を開始。  
平成20年 「路地連新潟」を結成、新潟市と共に「小路めぐり地図」等を手掛ける。  
平成21年 「日和山委員会」と「新潟市」により日和山の整備が完了。  
平成25年 「新潟の町・小路めぐり」が、「グッドデザイン賞（まちづくり部門）受賞」。  
平成26年 日和山の中腹に、まちあるきの拠点「日和山五合目」を建設。



パネリスト  
あけ ま ひろ たか  
**明間 博隆氏**

早川堀通り周辺  
まちづくりを考える会  
理事長

昭和23年小須戸町（現新潟市秋葉区）生まれ。昭和55年から西湊町通4ノ町に居住。平成11年より西湊町通3・4自治会長。ウェルカム下町推進委員会委員、入舟小学校区コミュニティ協議会設立と同時に同副会長就任。

平成18年に新潟市より早川堀通りの改良工事について「地域の意見取りまとめ」の打診を受け、周辺自治・町内会長及び有志約30名を会員とする「早川堀通り周辺まちづくりを考える会」を設立。市役所と地域の懸け橋として活動した結果、300回以上の話し合いを重ねて、市に提言。同会は、昨年より早川堀通りの維持管理も担う。

本年3月に工事が完了し、5月18日に市長を迎えた完成式典を実施。



パネリスト  
しの だ あきら  
**篠田 昭氏**

新潟市長

昭和23年新潟市生まれ。新潟高校、上智大学外国語学部卒業。新潟日报社入社。同社編集局学芸部長兼編集委員、論説委員兼編集委員を経て平成14年より現職。現在3期目。



コーディネーター  
ふじ た こういち  
**藤田 孝一**

中央区自治協議会  
「水辺とみなとのまち部会」  
座長

昭和17年新潟市生まれ。昭和37年新潟日报社に入社。総務局を配属後、広告局編成部、本社広告部、新発田支局、長岡・上越支社など、平均4年の転動を経験。県内各地の市町村と観光地をくまなく取材で回る。さらに、山形県、福島県、長野県の観光課、観光協会、旅館組合等へ新潟県市場を売り込む業務畑を歩む。平成2年以降は、本社開発部に所属、「日報住宅展」「進学、就職相談会」など、数多くの企画事業を手掛ける。退職後、地域活動に専念。現在、弥生有明大橋町町内会長、有明台小学校区コミュニティ協議会副会長、中央区自治協議会委員「水辺とみなとのまち部会」座長。

## 2 開会あいさつ

中央区自治協議会会長 阿部 洋一

皆さま、本日はお忙しいところ、みなと新潟北前船フォーラムにご参加いただきましてありがとうございます。

私は中央区自治協議会の会長を務めさせていただいております阿部と申します。本日は「柳都新潟・みなとまち～歴史的港湾都市の再生～」と題しまして、岡崎先生から基調講演をいただき、続きまして、明間様、田代様、野内様、篠田市長によるパネルディスカッション「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」に入ります。パネリストの皆さまに対し、厚く御礼申し上げます。

中央区自治協議会は、区民と行政が協働しながら地域の特色あるまちづくりを進めるために、地方自治法に基づいて、各区に設置されている新潟市の付属機関です。委員は38名で各地域のコミュニティ協議会や公共団体などの代表者、学識経験者、公募委員で構成され、区民と行政の協働の要としての役割を担っております。

各委員は毎月の全体会議のほか、中央区自治協議会がテーマごとに設置した3つの部会のいずれかに所属し、各部会で地域課題の解決に向けた取り組みを自治協提案事業として実施しております。

本日のフォーラムを企画した「水辺とみなとのまち部会」は、昨年度から委員13名が「新潟島の北前船時代の街並みづくりの提言」と題して提案事業として取り組み、各種調査、研究、検討を行ってまいりました。

折しも、みなとまち新潟は、2019年に開港150周年の節目を迎えます。このフォーラムを通じて北前船にまつわる様々な歴史、文化を今後の新潟まちづくりに活かすため、会場の皆さまもその方策をご一緒に考えていただければと思います。

フォーラムの後に、皆さまから意見を頂戴する時間を設けております。ご意見をいただければ幸いです。長時間になりますが、よろしく願いいたします。



# 3

## 調査報告

平成 25 年度北前船を活かしたまちづくりの関するアンケート調査結果

中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」副座長 戸川 芳孝

「水辺とみなとのまち部会」は、水辺やみなとに係わる事柄を勉強し、具体化の検討をしています。これまでは、海岸林と鳥屋野潟の利活用について提言を行ってきましたが、平成 25 年度からは、北前船にまつわる様々な歴史や文化をみなと新潟のまちづくりに活かしていくため、総勢 14 名で活動しています。

それではこれより、昨年度行った北前船を活かしたまちづくりに関するアンケート結果について、時間の都合上一部分になりますが、結果を発表します。

1

### 実施した調査

#### (1) 北前船寄港地向けアンケート

北前船に関する史跡の有無や他自治体との連携、まちづくりへの活用状況、今後の方針などに関する状況調査。

#### (2) 新潟市中央区民向けアンケート

北前船や港町のイメージ、今後のまちづくりの方向性などに関する地域住民の意向調査。

はじめに、寄港地自治体の中から調査対象として 40 自治体を選定し、このうち回答のあった自治体は地図上に赤色で示したとおり、25 か所でした。

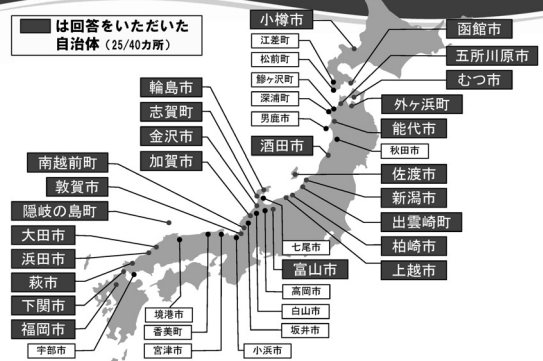
2

### (1) 北前船寄港地向けアンケート 調査概要

- 調査対象：全国の寄港地自治体のうち、関連資料により抽出した40自治体
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（一部 FAX・メール）
- 調査期間：平成26年 2月25日～3月12日（16日間）
- 回収結果：25 通（回収率62.5%）
- 設問項目
  - 北前船に関する取組、始めたきっかけなど [2問]
  - 北前船に関する施設・取り組みの概要 [1問]
  - 寄港地フォーラムへの参加・連携・交流状況 [1問]
  - 北前船をテーマとした整備・取り組み [3問]
  - これまでの経験を踏まえた助言 など [1問]

3

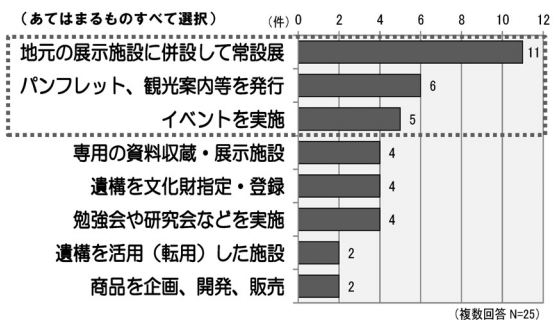
### (1) 北前船寄港地向けアンケート 調査概要



まず、「北前船に関連したまちづくりや観光等の取組状況」については、回答のあった 17 自治体で何らかの取組が行われており、最も多い取組は「地元の収蔵・展示施設に併設して常設展示・収蔵」で、次いで「小冊子、パンフレット、観光案内等を発行」、「イベントを実施」という結果でした。

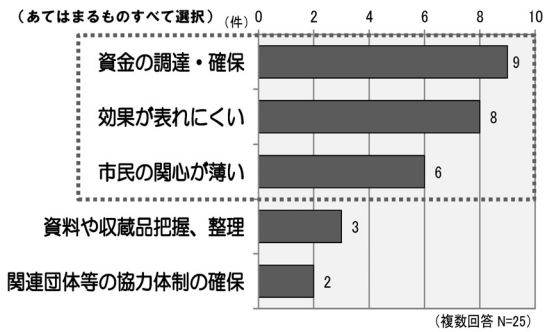
4

#### 問. 北前船に関連したまちづくりや観光等の取り組みを行っていますか？



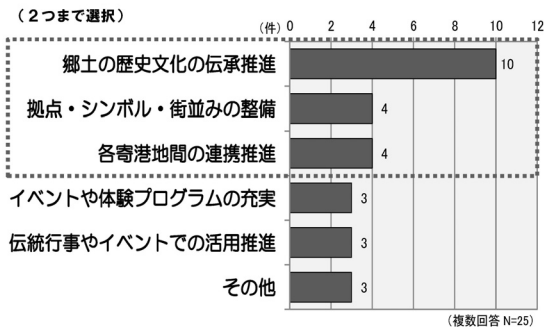
続いて、「北前船に関する施設整備や取組を進める上での課題」については、「資金の調達・確保が困難」が最も多く、次いで「整備や取組の効果が表れにくい」、「市民の関心が薄い」という結果でした。

**問. 北前船に関する施設整備や取り組みを進める上で、課題は何だと思えますか？**



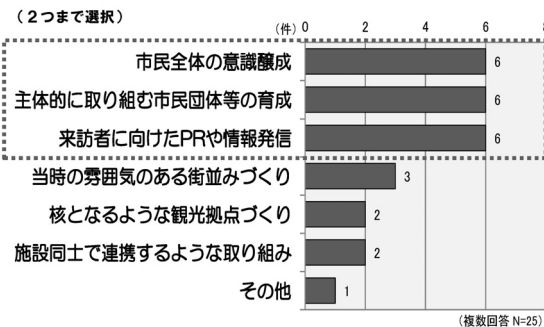
「北前船を今後の観光施設やまちづくりのように活かすか」については、「学校教育や生涯学習を通じた郷土の歴史文化の伝承推進」が最も多く、次いで「北前船をテーマとした拠点・シンボル・街並みの整備」、「広域交流として各寄港地間の連携促進」でした。

**問. 北前船を今後の観光施策やまちづくりにどのように活かしていきたいですか？**



最後に、「北前船に関する街づくりを進める上で、特に重要なこと」については、「市民全体の意識醸成」、「主体的に取り組む市民や市民団体の育成」、「来訪者に向けた効果的なPRや情報発信」が同数で上位を占めました。

**問. 北前船に関するまちづくりを進める上で特に重要なことは何だと思えますか？**



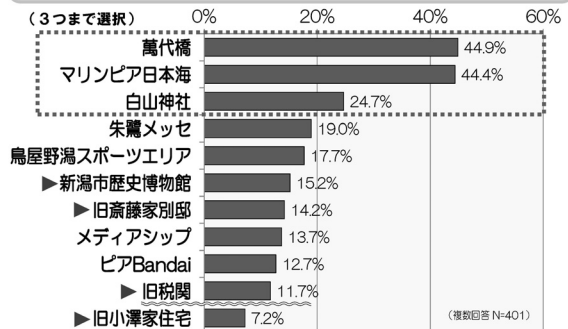
続きまして、中央区民を対象としたアンケート結果です。調査対象は中央区に住む20歳以上の1000人を無作為抽出し、回答率は40.6%でした。設問内容は、中央区の地域資源、北前船や港町のイメージ、今後のまちづくりの方向性などについてです。

**8 (2)新潟市中央区民向けアンケート 調査概要**

- 調査対象：新潟市中央区に住む20歳以上の人から、1,000人を無作為に抽出
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（無記名回答）
- 調査期間：平成26年2月25日～3月7日（11日間）
- 回収結果：406通（回収率40.6%）
- 設問項目
  - 新潟市中央区の地域資源等について [3問]
  - 「みなとまち新潟」を象徴する施設について [1問]
  - 北前船時代の堀割の街並みについて [2問]
  - 「北前船」を活かしたまちづくりについて [2問]
  - ご自身のことについて [4問]

まず、「中央区にあるお勧めの観光スポット」については、「萬代橋」が最も多く、以下「マリニピア日本海」、「白山神社」でした。北前船関連施設では「新潟市歴史博物館」、「旧斎藤家別邸」がそれぞれ6位と7位、旧小澤家住宅が14位に位置しており、魅力的な施設として認識されていることがうかがえます。

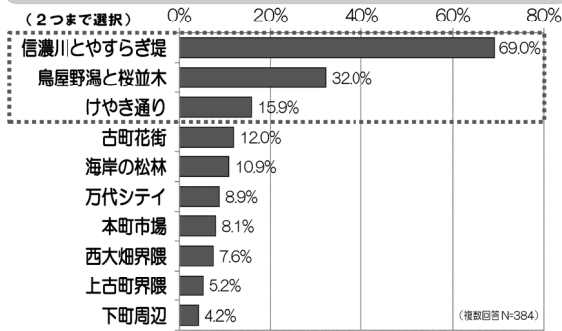
**問. 中央区にあるお勧めの観光スポットは何処ですか？**



続いて、「中央区の魅力的な景観や街並み」については、「信濃川とやすらぎ堤」が最も多く、次いで「鳥屋野潟と桜並木」、「けやき通り」となっています。



### 問. 中央区の魅力な景観や街並みは何処ですか？

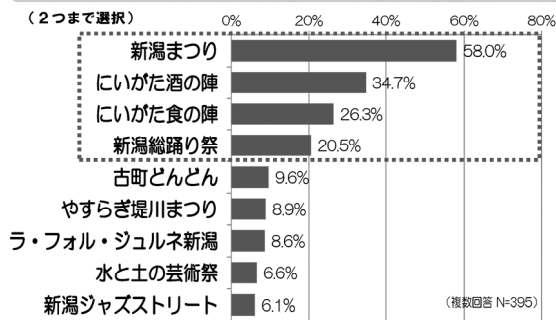


この2つの結果をみると、観光スポットでは「萬代橋」や「マリンピア日本海」、景観では「信濃川とやすらぎ堤」、「鳥屋野潟と桜並木」の回答が多いことから、中央区における観光資源としては、「水」や「水辺」が深く関わっていることが再認識できました。

続いて、「中央区を会場とする代表的なイベント」については、「新潟まつり」が最も多く、次いで「にいがた酒の陣」、「にいがた食の陣」となっています。

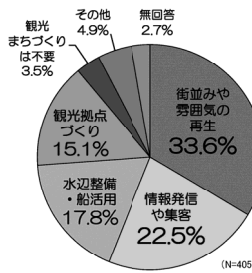
11

### 問. 中央区を会場とする代表的な観光資源として、魅力な行事・イベントは何ですか？



「全国に誇れる観光拠点づくりを目指す場合、中央区での望ましい観光まちづくり」については、「みなとまち新潟の情緒豊かな街並みや雰囲気を再生する」という回答が最も多く、以下「他の取組やイベントと連携しながら、情報発信や集客をはかる」、「みなとまち新潟が感じられるよう、水辺の整備や船（舟運）を活用する」、「北前船時代からの観光資源を活かしながら、核となる観光拠点を創り出す」と続きます。

### 問. 中央区では、どのような観光まちづくりが望ましいと思いますか？



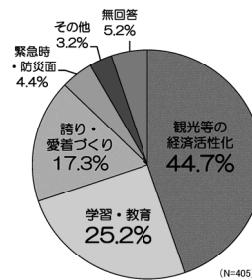
#### <その他のご意見(抜粋)>

- わざとらしい復元や再生は反対。
- 堀の復活・再生。
- 観光資源の連携と交通。
- 誰からもわかりやすく、子ども達が楽しめること。など

最後に、「北前船を現代や未来にどのように活かしていくべきか」について、「観光等の経済活性化に活用すべき」が最も多く、以下、「教育等の学習・教育で活用すべき」、「市民の誇りや地域の愛着づくりに活用すべき」と続きました。

13

### 問. “北前船”を現代や未来にどのように活かしていくべきだと思いますか？



#### <その他のご意見(抜粋)>

- 昔の街並み等を映像にして教材化。
- 北前船を新造して信濃川で乗船。
- 他都市との密接な連携。
- まず市民全体に伝えること。
- 水をテーマに催し物を開催。
- 旧税関、旧小澤家住宅を中心に物産販売やイベント、徒歩で探索。
- 中央区の“ブランド化”。など

なお、本日は時間の都合上、寄港地向け、区民向けの両方のアンケートの調査内容と結果を全てご紹介する事ができませんでしたが、お知りになりたい方がおられましたら、区役所地域課の担当まで、お問い合わせ下さい。

ご清聴ありがとうございました。



# 4

## 基調講演（要旨）

### 「柳都新潟・みなとまち ～歴史的港湾都市の再生～」

新潟大学工学部 教授 岡崎 篤行 氏

#### 1. 柳都新潟の今昔

##### ～まちのイメージが弱くなった新潟～

##### ●新潟のイメージ

→昔は「柳都新潟」：堀・柳並木・古町芸妓の絵はがき、魅力的なまち。

→今は「酒」「米」「魚」：新潟県全体のイメージで他都市でも当てはまる。新潟市のまちとしてのイメージは希薄、日本海側でイメージが伝わりにくい、行きたいと思ってもらえない。

##### ●北前船で栄えた「みなとまち新潟」というイメージがほとんどない。

→戦略的な働きかけが必要（航空会社パンフなどを通じて）。



#### 2. 近世屈指のみなとまち新潟

##### ●日本海側特有のニュータウン港町（江戸時代初期、川湊）。

##### ●港町としての歴史は古く（沼垂城、蒲原津）、北前船の交易で繁栄した近世港町の代表格。

##### ●開港5都市新潟というイメージがない。

→市民一丸となった戦略的アピールが必要。

#### 3. 大規模で完璧な町人町（世界遺産都市に類似）

##### ●商業地としての巨大さ、格子状の合理的街区、包括的な妻入り町家、路地の界限性。

##### ●寺院も武家地も含めて近代的な町空間が卓越。

##### ●世界遺産都市アムステルダムと類似（近世発達の港町、商人都市、低湿地のニュータウン、格子状街区、運河（≡堀割）、妻入り町家、特産はチューリップ）。

##### ●被害が限定的であった歴史都市なのに、大火、震災による壊滅都市のイメージが強い。

→歴史都市新潟を活かしたまちづくりへ。

（多数の歴史的建築や独特な路地の保存・再生・創生・活用）

#### 4. 歴史都市新潟が凝縮された3つの景観エリア

##### ●新潟島の特徴的な景観エリア（下町、旭町・西大畑町、古町花街）

##### ●その中心部に国の重要文化財が3つ（旧新潟税関庁舎、萬代橋、旧県会議事堂）

##### ① 下（しも）町

##### ●新潟中心部に古い建物が集積。町家が連続して残存。

##### ●旧小澤家住宅の特徴：新潟に唯一残存の廻船問屋（市指定文化財 北前船の時代館）。

→典型的・特徴的な新潟町家の建物（丁字型町家、高窓付き雨戸、張出し二階、縦羽目板丁）。

##### ●下町界限に残る歴史的な建物：片桐邸など（まち遺産の会マップ参照）。

→旧小澤家住宅の認知度アップ、活用促進。

## ② 旭町・西大畑町

- 西洋文化が入ったハイカラな新潟。
- 旧官立六大学の一つである旧制新潟医科大学（現新潟大学医学部）は重要都市の証拠。
- どっぺり坂、カトリック教会、異人池（←池が消失してもストーリーがブランド化）、白壁通り、旧齋藤家別邸、行形亭（登録文化財）、金井文化財館、新津記念館、旧日銀支店長役宅（砂丘館）、洋館付き和風住宅（市長公舎、旧副知事公舎）。
- 旧齋藤家別邸の特徴：廻船問屋齋藤家の夏の別荘、国の登録記念物（名勝地関係）。

## ③ 古町花街

- 花街は確実に新潟がよそに勝てる資源。昔は古町といえは花柳界。
- 花柳界はあらゆる日本の伝統文化を包括的に継承している。
- 花街（かがい）の語源は漢語「花街柳巷」（かがいりゅうこう）。花街（はなまち）とも。
- 場所を指す際は花街、業界を指す際は花柳界。江戸期の遊所吉原は文化流行発信地。近代以降、芸妓の花街・娼妓の遊郭を分離。
- 新潟には昔の木造の建物が約3割残存（全国的にかなり高い割合）。
- 花街（花柳界）は都市において普遍的な日本文化であったが、西洋化が進み減退。  
（あらゆる日本の伝統文化を包括的に継承：数寄屋、邦楽、日本髪、和食、新潟漆器、日本画、書、茶道、華道、香道、地元文化：方言、民謡、郷土料理、祭りなど）
- 全国の現役花街は約40カ所（京都に5、東京に6、金沢に3）。  
京都・金沢は茶屋街、新潟・東京は料亭街。新潟は料亭中心の伝統的花街では全国随一。
- 鍋茶屋の3階200畳大広間（国登録文化財）、行形亭の2000坪、それらの間に路地が縫う面白さなども大事な資源。
- 組織化（家元市山流、柳都振興株式会社）、後継者育成、稽古発表会
- 新潟市のなじらね協定による景観整備  
→エアコン目隠し、数寄屋造りの意匠、東新道の石畳化と道標設置
- 提言：「ふるまち新潟をどり」を京都の「都をどり」のような賑わいに。  
全国的に景観事業の拡充を。



## 5 パネルディスカッション（要旨） 「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」

### <出演者>

パネリスト	田代 雅春 氏（北前船の時代館 旧小澤家住宅 館長）
	野内 隆裕 氏（路地連新潟メンバー・にいがた観光カリスマ）
	明間 博隆 氏（早川堀通り周辺まちづくりを考える会 理事長）
	篠田 昭 氏（新潟市長）
コメンテーター	岡崎 篤行 氏（新潟大学工学部教授）
コーディネーター	藤田 孝一（中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」座長）

### ■前半：それぞれの立場で、これまでの活動経緯について

#### 田代 雅春 氏

- ・小澤家の歴史紹介。住宅建築の特徴説明。市指定伝統工芸品「新潟漆器」の町家商店街。
- ・新たな取組み：気軽に来てもらうための「庭園コンサート」  
新大学生と一緒に「来なせやしもまち」（景観ライティング実験）
- ・新たな発見：道具蔵の建立時代の変更（明治13年以前→江戸時代幕末期）。
- ・旧小澤家住宅は、みなとぴあ～旧税関～早川堀～旧齋藤家住宅とつながる関係構築を念頭。
- ・ウォーターフロントの朱鷺メッセや対岸のメディアシップなどの新しい今と比較しながら考えていくことも大切。
- ・廻船問屋、北前船の繁栄の裏には、蒲原平野、西会津、信州などの内水面の豊かな基盤にもとづく港の発展があり、北前船の意味する範囲はとても大きい。下町のある「みなとまち文化景観ゾーン」の背景に豊かな「田園文化景観ゾーン」があり、水と土の自然力、治水、内水面地域の繁栄、越後山脈の自然の力の恩恵、つまり、水と共に戦い、水と共に発展してきたみなとまちということである。
- ・子どもたちが日本和風建築の歴史と文化を知ることが大事ということで、体験合宿、肝試し、下町散歩、日和山登山など、他校の子供たちとの交流も含めて継続していきたい。

#### 野内 隆裕 氏

- ・今現在自分のまちにいいものがある、大事にした方がいいと思うものがある。「何々が魅力的な新潟」を前面に発信、大事にしていきたいと活動。それが、小路めぐり、日和山。
- ・日和山は、住吉祭の復活、チューリップの花絵づくり、方角石の装飾など、手づくりのイベントを通じてまち歩きの拠点となる。その後、樹木の剪定を吟味した眺望の確保、夜の照明デザインなど、歴史的文化的価値を損なわない設計に配慮し、「にいがた寺町からの会」など地元の熱意が高まる。「日和山登山のしおり」を作成。
- ・みなとぴあ～日和山～下本町市場～旧小澤家住宅～早川堀～みなとぴあ は一番人気のまちあるきコース。

## 明間 博隆 氏

- ・早川堀の再生にあたっては、当初はかつての早川堀の悪いイメージから地元住民の反対があったが、地域を皆で再認識し、新潟市に提言書を提出。
- ・提言の内容：人中心の道路、下町情緒あふれる町、沿線住民や若者が集える場、やすらぎある水辺空間、四季を感じる緑の計画・設計を要望。
- ・計画・設計にあたって、先進事例の勉強、設計模型で実感・確認、早川堀に合った植栽や街灯デザイン、既存の伐採樹木（イヌエンジュ）をベンチとして再利用、工事実施前に各戸訪問。
- ・工事に関しては、小さなことでも何でも皆で話し合い、住民全員が納得した上で進めた。  
（8年間で333回の協議）
- ・今後の道路の維持管理に向けて、団体の組織化。

## 篠田市長（感想・意見）

- ・まちづくりの最前線で、住民の声をしっかり聞きながら住民と共に頑張るリーダー、牽引役がいることがまちづくりの大きなポイント。
- ・江戸時代に北前船で最も栄えたみなとまちであることが、今の新潟に伝わってこない。
- ・かつての新潟は「行ってみないと」、「行ってみたいまち」。幕末から明治、大正、昭和の初めまで、吉田松陰、清河八郎、竹内式部をはじめとする多くの著名人・文化人が訪れた。ブルーノ・タウトの言う「日本一俗悪なまち新潟」に対して、坂口安吾が「日本文化私観」で日本人本来の良さをもって批判。
- ・しかし、昭和30年代以降に高度成長期とあいまって新潟市はリトル東京化。古いもの（堀、屋台など）は嫌悪として消失。人情横丁は残存。
- ・平成になって、堀の再生が早川堀で実現、歴史を大事にした昔の新潟、個性的なまちづくりの重要性を認識。
- ・新潟は見るところがないという人は、その人が知らないだけ。あるもの探し、あるもの磨き、案内人（シティガイド）の育成。
- ・点在する新潟のいいものをラインにし、ゾーニングにしていくことが必要。早川堀の再生により、みなとぴあ～旧小澤家住宅がラインとして結ばれ、西大畑、花街、下町というゾーニングができつつあることから、「行ってみたいまち」になれる可能性がある。

## 岡崎教授（コメント）

- ・アピールが大事。市民がまずよく認識して、それを言わなければいけない。
- ・京都の花柳界では国の予算等も投入しながら、地元での話し合いを盛んにやってきた。五花街を無形文化遺産にするなど、文化遺産として全面的に押し出していこうと進んでいる。
- ・何かをアピールするためには、市民への働きかけとともに、何らかの国の事業等を投入していくことも大事。新潟はその点がまだ弱い。





## ■後半：北前船の歴史・遺産を、現代・未来のみなと新潟のまちづくりにどのように活かしていくか、その方策について

### 田代 雅春 氏

- ・様々な資源（点）をライン（線）で結び、このラインを大きな軸として、個々の道やそこに住む市民一人一人が繋がらないと、ゾーン化はできても実際につながらない。
- ・私たちは新潟の歴史といっても意外に知らないし、みなとまちであることの誇りと文化を実は捨てている。そこで、北前船をシンボルとして連携していくことが望ましい。ボランティアの活動も結んでいくことも大事。
- ・現代の建築と歴史的建造物の対比を明らかにして、互いに質の高い魅力をマッチングさせ、整備された観光まちづくりにすることがいい。
- ・文化資材を失わず掘り起こして市民主体で活用する。
- ・究極は至福の時間を自然に過ごせるまちにすること。私たちの心の文化を豊かにする、楽しむ、そのことがまちづくりの原点。
- ・行動、小さなところでいいからまず始めることが大事。「小澤住宅周辺の歴史的町並みを考える会」を8月に設立。官民大学などが力を合わせて景観を考え、景観が変わり、皆が知りあうことを通じて本当に誇れるまちになってくるのではないか。
- ・新潟港開港150年祭を契機に、持続可能な観光シンボルの整備を行って、県内外にみなとまち新潟、北前船のふるさととして観光デビューする秘策を皆と考えていきたい。

### 野内 隆裕 氏

- ・今やっていることを大事にしてほしい。新しいチャレンジも必要だが。方向性を定めて始めたのであれば、それをある程度継続していくことが大事。
- ・関心のない人たちや、まちで商売をしている人たち、子どもたちに興味を持ってもらい、新潟を感じてもらうことが大事。興味を持てるように、工夫を加えて伝えることも必要。
- ・小路めぐりの地図（小5の総合学習の素材）、えんでこ（まち歩き）、スタンプラリーを続けている。ネット発信も大事。
- ・まちを楽しそうに案内する仕掛け、そしてガイドがいる新潟というものを一つの新潟のまちの遺産として活かせる支援がほしい。



## 明間 博隆 氏

- ・毎月第二、第四日曜に早川堀を清掃している。堀や水辺に無関心か反対していた人々も早川堀が実際にできると愛着が湧いて、ボランティアとして参加するようになった。
- ・今後の活用策や課題解決も含めて、勉強会を開きながら地域の住民と話し合いながら考えていきたい。

## 篠田市長

- ・地域を知ること、愛することから始まる。それを学習、子どもたちの教育に活かしていくことを常に意識していく必要がある。東京への人口流出は地方で大きな問題。
- ・小学生には、地域の歴史、地域の良さ、地域の取組みを総合学習などで知ってもらうことが大事。新潟は大農業都市でもあるので、農業体験も。農業とまちがつながっていて北前船の繁栄があったことから。
- ・中学生に対しては、どんな大人になりたいか、大人として暮らす場所はどこか、それは新潟だ、と言ってもらえるよう、21世紀の生き方も含めてデータ比較などによってアピールしていく必要がある。
- ・空白ゾーンになっている高校生についても、地方で暮らす素晴らしさをしっかり伝えていく。そして新潟大学で学び、新潟で就職し、新潟で暮らしていく。中小企業などを掘り起こしてアピールしていく必要がある。
- ・意識の高い人、取り組んでいる人などは十分分かっているので、これは大いに継続していく必要があるが、行政のリーダーとしては、分かりやすさや演出も一方で求めなければならない。
- ・新潟の歴史を感じるまちの一番の早道は花街、それを日本酒とむすびつけたのが「古町ぶらり酒」のソフト。日本酒通り、ぽん酒通りになれば。
- ・光の演出により、新潟の暗い夜のイメージが変わる（萬代橋、みなとぴあ、旧小澤家住宅、いくとぴあ、今後は鳥屋野潟に）。

## 岡崎教授

- ・花街を訪れる観光客が増加していることから、古町花街の会などを通じて景観整備を進めなければならない。また、昼間でもいつでも入れる場所、芸妓さんの踊りを見られる場所が必要。そのためにも三業会館の老朽化対策と活用策の検討を市に依頼した。
- ・交通アクセスの改善が必要。現状のバスの乗り継ぎが困難、運賃も高額なのでBRTも絡めて改善を。古町に空港リムジンを通すことで古町を大事にする。
- ・国の制度の活用（重要文化的景観、歴史まちづくり法など）。

## 6 質疑応答・まとめ

### ■質疑応答

会場 1 : 観光にはおいしい食べ物やお酒、土産がつきものなので、北前船が運んだ北や南の物産を集めてほしい。

会場 2 : 新潟漆器をはじめ新潟県は京都に次いで伝統工芸品や古いものが伝わっている。職人も多く、新潟市に税金を沢山納めていた。そういう頑張った昔の新潟をこれから掘り下げてもらいたい。

市長 : 青柳文化庁長官の提唱による国立デザイン美術館に工芸も入れてデザイン工芸美術館を提案。箱物でないネットワーク型の工芸デザイン美術館の計画を詰めているとのことで、県内の伝統工芸産地や亀倉雄策デザインカリスマにより新潟は相当アピールが可能。

土産品についても、専門家とともに磨きをかけていく。

会場 3 : 全国的な流れで見ると、伝統的な街並み景観を含め、その構成要素となる建物を守るという機運が高まっている一方で、建築行政的には耐震診断や空き家条例などで解体撤去される場合がある。制度の一貫性、連携を持ちながら街並み保全に活かしてもらいたい。新津工業高校の日本建築科に学ぶ生徒らが素直に街並み保全に向かえるよう、耐震化や空き家条例を古い建物を守る手法に活かされる形で施策・運営をお願いしたい。京都では京町家の保全に懸命な工務店やNPOがあるので、そうした育成をお願いしたい。

市長 : 県内でも空き家条例は制定されており、豪雪地帯での危険家屋については条例を迅速に行わなければならないが、新潟市内では雪の心配はそれほどでもない。空き家は使いようで財産になるということで、権利関係を整理し、うまく活用していきたい。

会場 4 : 少子高齢化の問題から、皆さんの活動を受け継いでいくにあたり、若者をうまく取り入れるためにどのような活動をされているか。

田代氏 : 子どもたちを対象とした宿泊体験が両親に伝わり、親子で参加されるようになった。

野内氏 : スタンプラリーに参加するのは子どもとその親御さん(20代後半~30代)なので、親御さんにもまちに関心をもってもらうきっかけになればと思う。しかし20代初めにも働きかけが必要なので、若者からこういうものがあると興味を持てるという提案や実践をみせてもらいたい。

## ■フォーラムのまとめ

- ① 北前船は新潟の発展に大きな影響を与えたが、それを知らない市民が多い。
- ② 北前船の交易がもたらした新潟市の文化遺産を大切に活かして、将来のみならず新潟のシンボルに育てていくことが大切。
- ③ 全国の北前船寄港地との交流を深めて学習していくことが必要。
- ④ 各種のまちづくり団体の連携を強め、情報交換の場を設定し、行政も入ってもらい北前船時代の街並みづくりに頑張っていきたい。その一つの大事な点が開港 150 年祭。北前船まつりのような祭りも仕掛けていきたい。

これからもお互いに手を携えて、私たちふるさと新潟に夢とロマンを持ち、素晴らしいみならず新潟の建設に力を合わせてまい進しようではありませんか！



# 7 アンケート結果

## アンケート実施の目的

フォーラム参加者に対して基調講演やパネルディスカッション等の内容に関する感想と、それらを聞いて今後の“みなと新潟のまちづくり”にどのような思いを抱いたかを把握し、提言書に反映させることを目的とする。また、フォーラム参加のきっかけとなった媒体を把握することにより、今後の周知方法の参考とする。

## アンケート実施概要

- 調査実施日 : 平成26年8月31日(日)「新潟みなと北前船フォーラム」開催時
- 対象 : フォーラムの一般参加者
- 配布数 : 232通
- 回収枚数 : 185通(回収率: 79.7%)

## アンケート設問

- 選択設問 : フォーラムを知ったきっかけ  
フォーラムについての感想(基調講演・パネルディスカッション)
- 記述設問 : “みなと新潟”のまちづくりのあり方や望むことなどについて
- 回答者属性 : 性別、年代、お住まい

**新潟みなと 北前船フォーラム アンケート**

本日も参加いただいたご感想、お気づきになったことなどを、お聞かせください。

(1) 当フォーラムを何で知りましたか？(該当するすべてに○)

① チラシ	② ポスター	③ 自治協だより	④ コミ協からの紹介
⑤ 市の広報(市報にいがた、区民だより)	⑥ 市のホームページ	⑦ 新聞等のマスコミ報道	⑧ 友人・知人等からの紹介
⑨ その他( )			

(2) 本日参加された感想をお聞かせください。(それぞれ1つだけに○)

■ 基調講演「柳都新潟・みなとまち ～歴史的港湾都市の再生～」

① 大変よかった	② よかった	③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった	⑤ 参考にならなかった	

■ パネルディスカッション「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」

① 大変よかった	② よかった	③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった	⑤ 参考にならなかった	

(3) これからの“みなと新潟”のまちづくりのあり方、望むことなど、ご自由にお書き下さい。

(4) 最後にあなたのことをお聞かせください。(それぞれ1つだけに○)

■ 性別	① 男性	② 女性		
■ 年代	① 10～20代	② 30～40代	③ 50～60代	④ 70代以上
■ お住まい	① 中央区内	② 中央区以外の新潟市内	③ 新潟市外	

～ ご協力ありがとうございました ～

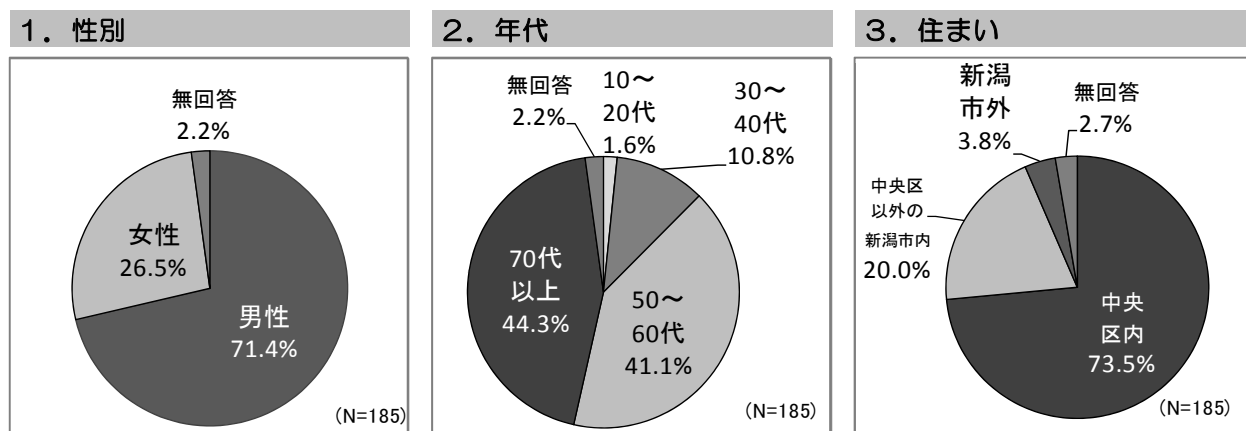
本紙及びパンは会場ロビーにある「アンケート回収箱」で回収しています。

<アンケート調査票>

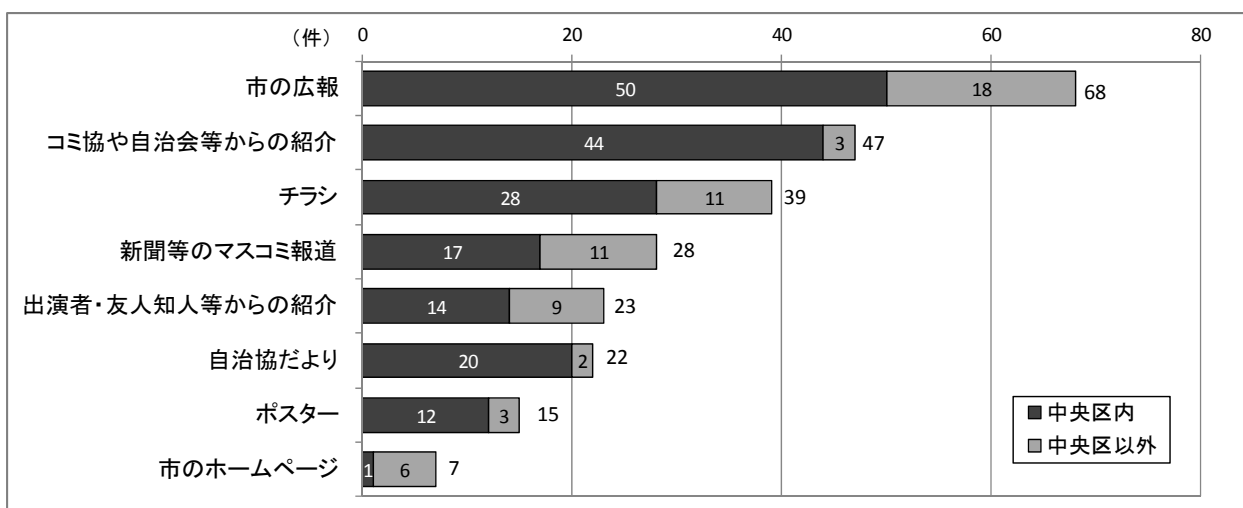


## <会場アンケート結果概要>

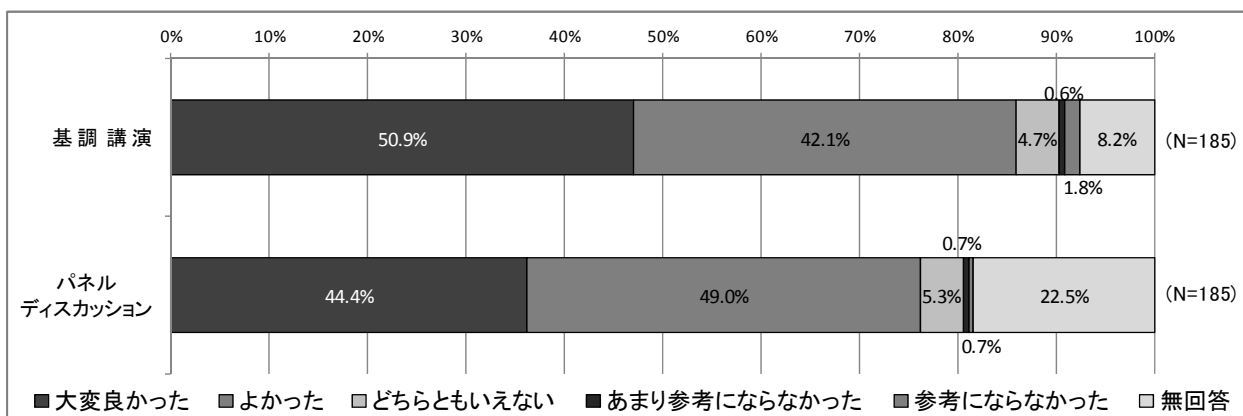
### ■ あなたご自身のことについて、おたずねします。



### (1) 当フォーラムを何で知りましたか？



### (2) 本日参加された感想をお聞かせください



### (3) これからの“みなと新潟”のまちづくりのあり方、望むことなど、ご自由にお書き下さい。

#### <提 案>

##### ～関心・誇り・愛着の醸成～

- 市民、住民が知らなければ町のよさを発信できないため、新潟の歴史を子どもたちにはわかりやすく、また若者には関心をもって知ってもらい、誇りと愛着を育む施策を望む。
- 昔からあるものを大切にし、保存していくことが今の時代に大切。
- 新潟の歴史を大切に、地域ぐるみ、官民協力して継続した取り組みが大事。
- 定期的にフォーラムを実施し、歴史的な湊町・柳都を実感できる広報や企画を。
- 多方面の活動を連携させるため、基本的な軸となるテーマ・ストーリーを決めた活動を。

##### ～まちづくり・観光・PRについて～

###### ■みなと～下町～古町全般のまちづくり・観光について

- 食との連携。歴史・文化を生かした「あるものさがし」のまちづくりを！
- 民間活力の導入により市内の町の案内人を増やし、まち歩きを発展させる。
- 古町の地下街の活用（北前船のPRの場、芸妓のPRの場）。
- みなと新潟のイメージには花街や旧小澤家の景観整備とそれを生かしたソフト事業が必要。
- 湊町の伝統を引き継ぐ遺産を大切にすることは重要だが、信濃川や西港を現代の港湾として生かす（クルーズ船の寄港やヨット・水上バス、屋形船が行き交う、人の集まる港）。
- 旧小澤家で恒久的なライトアップを。
- 西堀に堀の復活を。花街に芸妓を増やし活気をつける。気軽に利用できるように。
- AKB48のように会いに行ける芸妓と劇場等の整備。

###### ■北前船関連について

- 北前船を建造し（実物大）、信濃川で乗船、みなとぴあに浮かべる、寄港地の持ち回りでPR。
- 信濃川左岸は北前船を生かした新潟みなとの伝統的景観、信濃川右岸は日本海随一の商業施設、といった区分けが今の時代必要。
- 北前船の文化遺産として現在も現存している「新潟漆器」を生かしたまちづくりも含めて今後の「文化観光都市新潟」の中味の充実を。
- 旧小澤家住宅を中心に北前船で運ばれた物品の販売、花街での昼食をとれる場所の開設。
- 観光都市新潟の中味の充実を。
- 旧小澤家住宅を中心に北前船で運ばれた物品の販売、花街での昼食をとれる場所の開設。

## 資料編

- 案内チラシ
- 出演者の発表資料
- 講演録（基調講演・パネルディスカッション）
- アンケート結果（原文）

## 案内チラシ



みなと新潟

# 北前船

## フォーラム

入場無料  
申込不要  
直接会場に  
お越しください

北前船にまつわる歴史・文化資源を、  
現代そして未来に向けたまちづくりに活かそう

**開催日時** 平成26年  
8月31日(日)  
13:30~

**会場** 新潟市民プラザ  
〒951-8061 新潟市中央区西堀通 6-866  
NEXT21ビル 6階

### 主なプログラム

- 13:00 開場  
13:30 開会  
13:35 調査報告  
13:45 基調講演  
「柳都新潟・みなとまち ~歴史的港湾都市の再生~」  
講師：新潟大学工学部 教授 岡崎 篤行 氏
- 14:45 パネルディスカッション  
「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」  
パネリスト：明間 博隆 氏（早川堀通り周辺まちづくりを考える会 理事長）  
田代 雅春 氏（北前船の時代館 旧小澤家住宅 館長）  
野内 隆裕 氏（路地連新潟）  
篠田 昭 氏（新潟市長）  
コメンテーター：岡崎 篤行 氏（新潟大学工学部 教授）  
コーディネーター：藤田 孝一（中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」座長）
- 16:45 閉会

主催：新潟市中央区自治協議会  
水辺とみなとのまち部会  
協力：新潟市中央区役所地域課

お問い合わせ先：中央区自治協議会事務局（中央区役所地域課）  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町 602 番地1  
TEL：025-223-7023（直通） FAX：025-223-3660

<表>

## みなと新潟 北前船フォーラム

平成26年8月31日(日) 13:30~

### 開催趣旨 北前船とみなと新潟

新潟は北前船の最大の寄港地でした。海を越えた交流で賑わったみなとまち、物資と情報の集積地、そして発信地でもあり、長い歴史の中で新潟ならではの文化がはぐくまれてきました。

近年、<sup>しもまち</sup>下町では当時の様子がうかがえる豪商の館や新潟独特の建築様式を持った町屋を活かしたり、堀割再生などのまちづくりが盛んであり、全国の北前船寄港地でもそれぞれ特色ある観光振興やまちづくりが展開されています。

中央区自治協議会の「水辺とみなとのまち部会」では、北前船にまつわる歴史・文化資源を、現代そして未来に向けたまちづくりに活かそうと話し合いを進めています。市民の皆さまをはじめ、寄港地の方々の知恵と熱意を結集して、未来遺産づくりの新たな船出を始めようではありませんか！



旧小澤家住宅での勉強会

### 中央区自治協議会の取り組み

中央区自治協議会は、区民と行政が協働しながら地域の特色あるまちづくりをすすめるために、地方自治法に基づいて各区に設置されている新潟市の附属機関です。自治協議会の委員は、各地域のコミュニティ協議会や公共的団体などの代表者、学識経験者、公募委員などで構成され、区民と行政の協働の要として大きな役割を担っています。

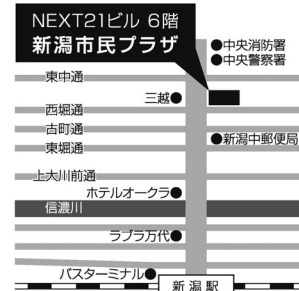
「水辺とみなとのまち部会」は、中央区自治協議会にある常設3部会の1つであり、かつて新潟島が北前船の寄港地として繁栄していた時代の名所、旧跡、貴重な歴史的文化を生かした新たな観光名所を創出するまちづくりを提言するために、調査・研究等の活動を行っています。

### 会場アクセス

JR新潟駅万代口(北口) 駅前バスターミナルより、西循環線、中央循環線で「古町」バス停下車、徒歩1分  
※無料駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催：新潟市中央区自治協議会 協力：新潟市中央区役所地域課  
水辺とみなとのまち部会

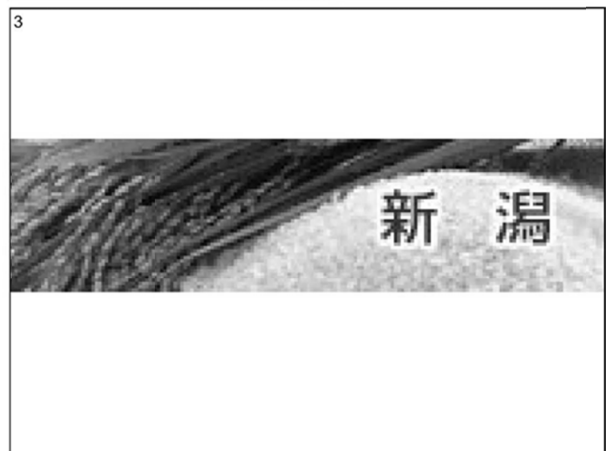
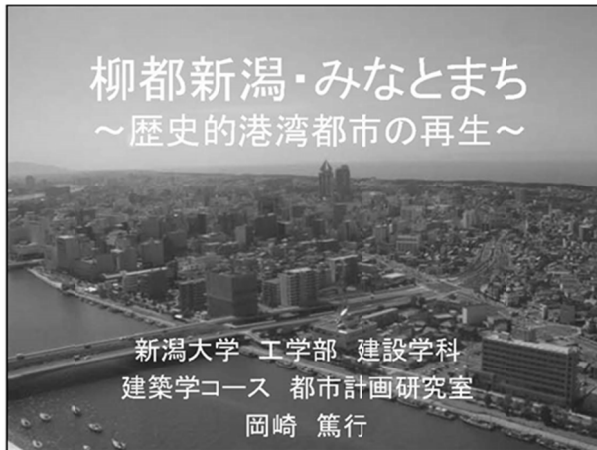
お問い合わせ先：中央区自治協議会事務局（中央区役所地域課）  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1  
TEL：025-223-7023（直通） FAX：025-223-3660





■出演者の発表資料

基調講演 岡崎 篤行 氏



4  
都市イメージが弱い？政令市(7/20)

新潟市 (萬代橋、信濃川)  
さいたま市(さいたま新都心、氷川神社)  
川崎市 (京浜工業地帯、多摩川、川崎大師)  
相模原市(丹沢山、相模湖)  
千葉市 (ポートタワー、幕張新都心)  
浜松市 (浜松城、浜名湖)  
堺市 (百舌鳥古墳群)



6  
1. 歴史的港町・新潟

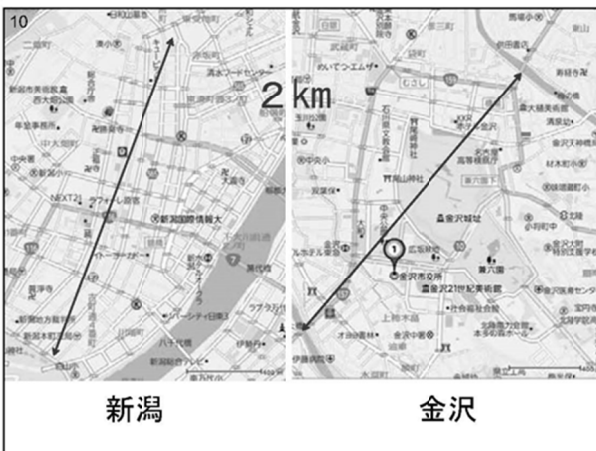
7

- 1)中世の骨格を継承  
例) 鞆、尾道など瀬戸内海沿岸に多い
- 2)近世初頭に城下町の外港などとして  
新たに建設・整備  
例) 長岡藩新潟、庄内藩酒田、弘前藩青森
- 3)近代の港湾都市  
例) 函館、横浜、神戸など



河口港 新潟西港

- 9
- ・長岡藩7万石の外港として建設
- ・1655年(明暦)に移転 =城下町に匹敵
- ・近世湊町の代表例
- 「近世都市のひとつの到達点」(宮本雅明先生)
- ・北前船交易による繁栄
- ・幕末の開港五港に指定



新潟 金沢

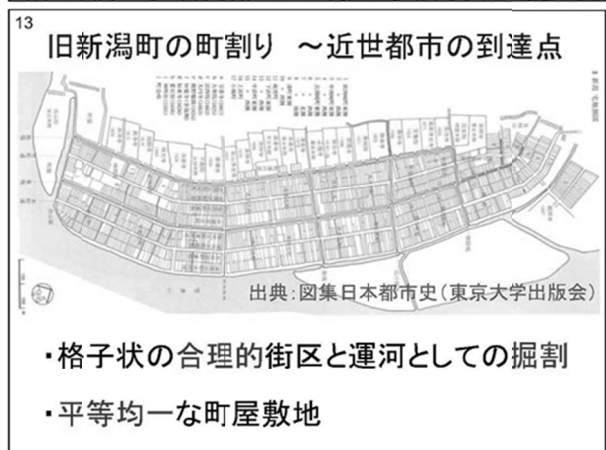


11 新潟市中心部(明暦の町立て)

→計画的街区割り  
南北=通り  
東西=小路  
縦横の掘割

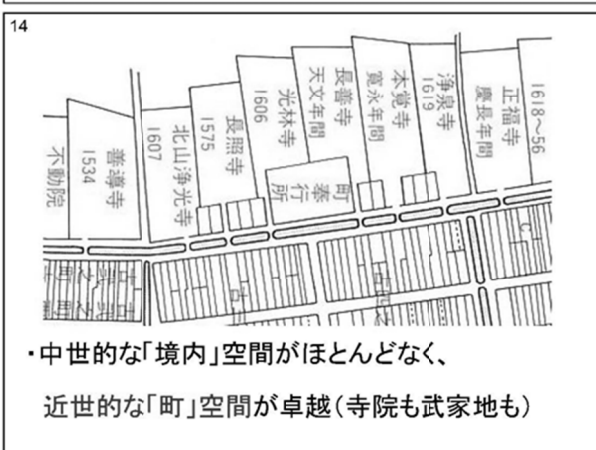


一直線に並ぶ寺院群



13 旧新潟町の町割り ~近世都市の到達点

- ・格子状の合理的街区と運河としての掘割
- ・平等均一な町屋敷地




- ・中世的な「境内」空間がほとんどなく、  
近世的な「町」空間が卓越(寺院も武家地も)




世界遺産アムステルダム

16



アムステルダム  
(1538)



新潟  
(1655)

新潟の町小路めぐりマップより

17

アムステルダムと類似

- ・近世に発達した港町
- ・商人の都市
- ・低湿地の計画都市
- ・格子状の合理的街区
- ・運河としての掘割
- ・妻入りの町屋
- ・チューリップが特産




18

歴史都市新潟

- ・大規模戦災を回避  
(他には京都、金沢、札幌)
- ・新潟大火、新潟地震も限定的被害  
↓
- ・多数の歴史的建築や  
独特な路地 ~へやなかさ(出し合い)

19

旭町・西大畑町 ※青字は重要文化財

下町

新大医学部  
(新潟医学専門学校)

NEXT21  
(奉行事所)

市役所

白山神社

旧県会議事堂

古町花街

旧新潟町

萬代橋

旧税関





20

まち遺産マップ  
シリーズ





21

## 2. 町屋が残る「下町」

22

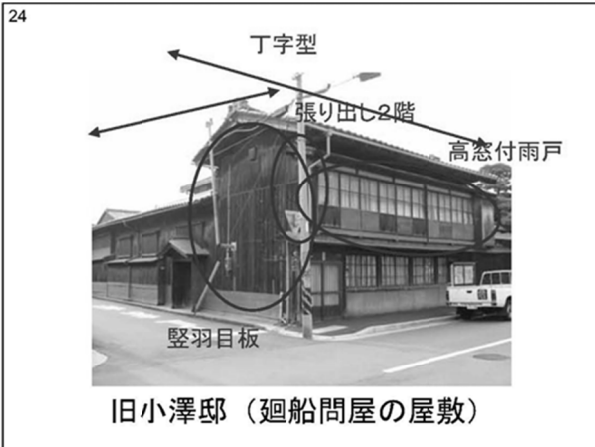


下町界限 (上大川前通12番町)

23

市指定文化財 旧小澤家住宅  
(北前船の時代館)





26

### 3. 洋風のお屋敷町 「旭町・西大畑町」





旧斉藤家夏の別邸の庭園(登録名勝)



元禄からの料亭「行形亭」(登録文化財)



金井文化財館



新津記念館



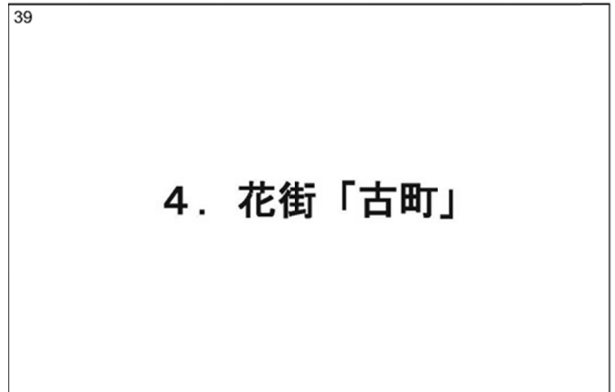
砂丘館(旧日銀支店長役宅)



洋館付き和風住宅：旧市長公舎 (T11)



洋館付き和風住宅 旧副知事公舎(T10)



#### 4. 花街「古町」



40



古町通 8、9 番町一帯

42

### 花街とは？

- ・「かがい」が正式な呼称 → 花街柳巷  
(かがいりゆうこう)
- ・昭和からは、俗に「はなまち」とも
- ・「花街」=場所、「花柳界」=業界
- ・江戸期の遊所・吉原 ~文化・流行の発進地
- ・近代 ~芸妓の「花街」と娼妓の「遊郭」
- ・戦後まで全国各都市に存在 → 大多数が消滅

44

花街=最後？の純和風空間

かつ

貴重な地元文化

~方言、民謡、地元作家の書画、  
地元料理、祭・・・

芸妓の職能=「伝統伎芸」と「おもてなし」

46



毎年6月  
ふるまち新潟をどり  
(りゅーとぴあ)

6月16日(日)

41



43

花街=あらゆる日本の伝統文化を  
包括的に継承する唯一の？システム

- ・日本建築(数寄屋)、日本庭園
- ・日本舞踊、邦楽、和楽器
- ・和服、日本髪
- ・日本料理、日本酒
- ・伝統食器、骨董
- ・日本画、書
- ・茶道、華道、香道

45



都をどり開催時の額提灯

47



新潟まつりでの古町芸妓

48 **全国の現役花街(約40箇所?)**

京都五花街  
 ~祇園甲部、祇園東、先斗町、宮川町、上七軒

東京六花街  
 ~新橋、赤坂、神楽坂、霞町、浅草、向島

その他都内:八王子、大井海岸、渋谷円山、大塚  
 金沢三茶屋街 ~ひがし、にし、主計(かずえ)町  
 札幌、盛岡、山形、酒田、新潟、小浜、水戸、木更津、  
 静岡、名古屋、岐阜、愛媛、博多、長崎...



52 **戦災を免れた伝統的花街の代表例**

京都、金沢=茶屋街      新潟=料亭街



55 **古町花街**

- ・江戸期:古町、寺町、下町、嶋の4ヶ所
- ・現在:古町通(8・9番町)を挟む東西新道
- ・昭和初期には、料亭9軒、待合26軒
- ・昭和初期の芸妓300人
  - 昭和51年110人    →現在約25人
- ・現在、料亭約16軒(周辺含む) →全国有数
- ・料亭中心の伝統的花街では全国随一



鍋茶屋（木造3階、200畳の大広間）



元禄からの料亭「行形亭」(西大畑地区)



2000坪の敷地に離れが点在

60

街区構成

- 1.表通り＝古町通  
→商店街
- 2.小路＝坂内小路
- 3.東西の新道  
→花街
- 4.さらに細い路地  
→「へやなかさ」



62

古町花柳会

- ・日本舞踊市山流(新潟市指定無形文化財)  
～18世紀に大坂で興る  
幕末維新期に新潟に移る
- ・柳都振興株式会社(1987年設立)  
～地元有力企業約80社が出資、  
全国初の株式会社の芸妓養成  
および派遣会社(置屋)



市山邸  
(踊りの師匠宅)





64  
留袖さん(黒の引きずり)と振袖さん



65  
お稽古発表会「華つなぐ道」



66  
六軒小路: before

東新道の石畳化と道標設置



67  
六軒小路: after



69  
ご清聴ありがとうございました

■出演者の発表資料

パネルディスカッション 田代 雅春 氏

1

北前船の時代館  
みなと新潟 北前船フォーラム  
資料 2014.08.31



新潟市文化財  
旧小澤家住宅

←端午の節句 天高く飛べ!  
(こいのぼりと歳の鬼瓦)



雪の庭 (藤棚と虎の尾/黒松)

2

前半

小澤家の歴史と併せて、現在旧小澤家住宅でみなと新潟の歴史と文化遺産の継承のために、どのような企画を実施しているのか？

3

新潟島にある歴史的建造物の一つ  
新潟市文化財旧小澤家住宅

江戸時代後期から商家・小澤家の店舗兼住宅



上大川前通





4



幕末から小澤家は経営規模を大きくしていった。  
「年々調控帳」  
右から嘉永3(1850)年、元治2(1865)年、明治10(1877)年

5



初代小澤七三郎は、所有する回船「幸運丸」の模型を金刀比羅(ことひら)神社に奉納した。

奉納模型和船  
明治11(1878)年  
金刀比羅神社(西蔵島町)所蔵

6

大新潟展で展示公開



注目箇所

小澤家は各地の取引相手に年賀の引き札を届けた。  
「小澤商店引札」 明治26(1893)年 加賀市北前船の里資料館所蔵

7

田小澤家住宅  
MUSEUM OF THE OLD OZAWA HOUSE



庭園コンサート開場前

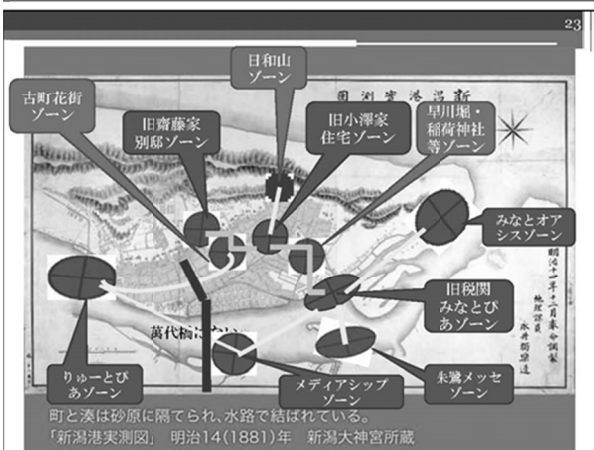


8

北前船の時代館 新潟市文化財旧小澤家住宅

概要	内容	規模
敷地 /位置と概要	上大川前通と本町通の間に位置し、浅作小路と思案小路に挟まれた敷地で、米鍛屋、通船業、通船問屋数々の歴々の繁栄をもとに、現在の敷地となる。 庭園は江戸中期に成熟した庭園技法の影響の色遣い和風庭園(平庭手法)といわれている。	約500坪  約1600㎡ (≒484坪)
主屋・土蔵等 /一連の施設 がほぼそのまま 残っている	主屋(店舗、座敷、茶の間、次の間、寝間、袋の間、台所等)、新座敷、離座敷、道徳蔵、家形蔵、蔵前、渡り廊下、門・塀等かつての前通にみける町家の典型形を直に見ることができる。	約260坪  約860㎡
市文化財指定 (寄贈年)	平成18年8月24日 (平成14年、小澤辰男ご夫妻から新潟市に寄贈された)	建造物7棟と庭を含む、 すべての敷地が指定される
開館日	平成23年1月1日 式典 平成23年1月2日 長蛇の列で開館	





24

□旧小澤家住宅とは？

→江戸時代後期から新潟町で活躍していた商家 小澤家の店舗兼住宅で、かつての新潟町における町家の典型例であり、一連の施設がほぼそのまま残っています。

みなとまち新潟の歴史と文化を垣間見ることができます。

□かつての新潟町とは？

→信濃川の左岸に位置し、江戸時代に都市計画化されたみなとまちで堀と柳のまちであった。

現在、堀は埋められたが、小路・通り(堀)等の都市計画は江戸時代のままの姿を残している。

かつての新潟町のところは江戸時代からの街並みが現在もそのまま残っている。また、明治、大正、昭和の歴史的建造物や文化財、文化資源等が徐々に失われながらもまだ残っている貴重なゾーンである





25

学生と地域の連携事業第2弾 おいでよ下町  
～「しん」のまちづくりを促す・実現します～

2月2日  
会場：旧小澤家住宅

11:00～15:30  
17:00～18:00

2月2日(土)  
会場：旧小澤家住宅

11:00～15:30  
17:00～18:00

3. 旧小澤家住宅サイキョウ

11:00～15:30  
17:00～18:00

新設小澤家住宅の歴史と文化を伝えるための展示と、地域の活性化を促すためのワークショップを開催します。

新設小澤家住宅の歴史と文化を伝えるための展示と、地域の活性化を促すためのワークショップを開催します。

26

学生と地域の連携事業第2弾 おいでよ下町  
～「しん」のまちづくりを促す・実現します～

2月2日  
会場：旧小澤家住宅

11:00～15:30  
17:00～18:00

2月2日(土)  
会場：旧小澤家住宅

11:00～15:30  
17:00～18:00

3. 旧小澤家住宅サイキョウ

11:00～15:30  
17:00～18:00

新設小澤家住宅の歴史と文化を伝えるための展示と、地域の活性化を促すためのワークショップを開催します。

新設小澤家住宅の歴史と文化を伝えるための展示と、地域の活性化を促すためのワークショップを開催します。



28

### 北前船と廻船問屋の繁栄の裏には 蒲原平野、西会津、信州などの 内水面の豊かな基盤があった

北前船 ものや文化の出入りがあった。  
北前船 そこには繁栄があった。  
みなとの繁栄の底辺には、蒲原平野をはじめ西会津、信州と信濃川でつながる内水面の経済と文化とのつながりが重要であった・・・再認識が必要→北前船+内陸・内水面ゾーン=みなとまち新潟ゾーン（北前船の意味する範囲は大きい）



30

### 日本和風建築と歴史と文化を知る

もともと小澤家は何屋だったの？  
新産業の建築と庭園を見学

①やおや ②みや ③魚や

31

### 文化財の中で学ぶ宿泊体験

新潟漆器のお膳を使って夕ご飯  
身近に見るからくり人形の熱演

32

### 怖い話の誘いと蚊帳（かや）の魅力

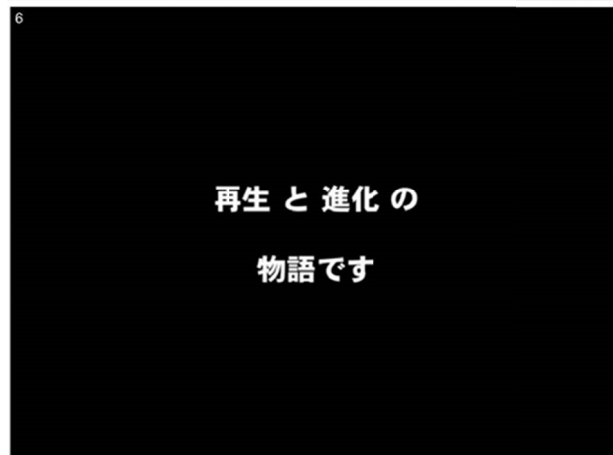
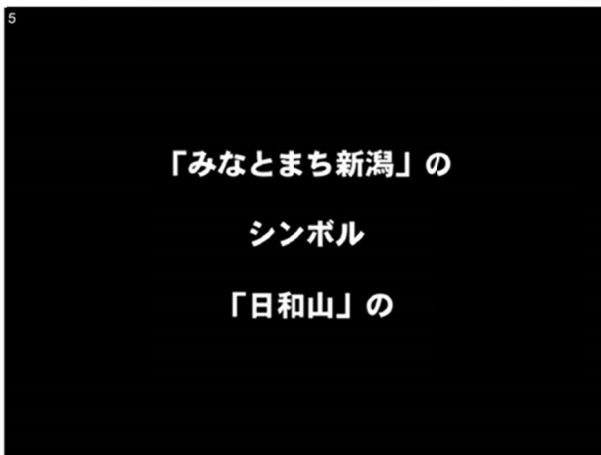
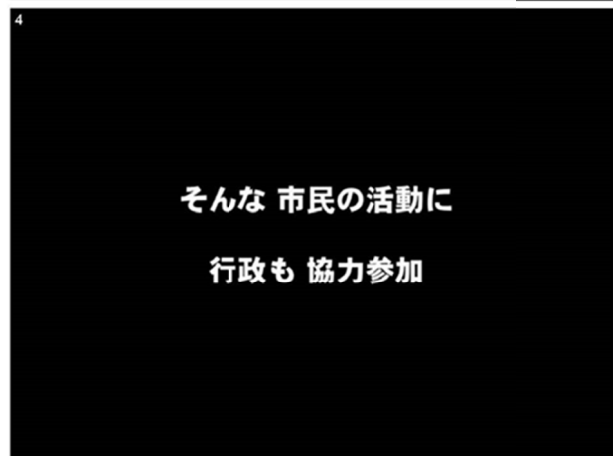
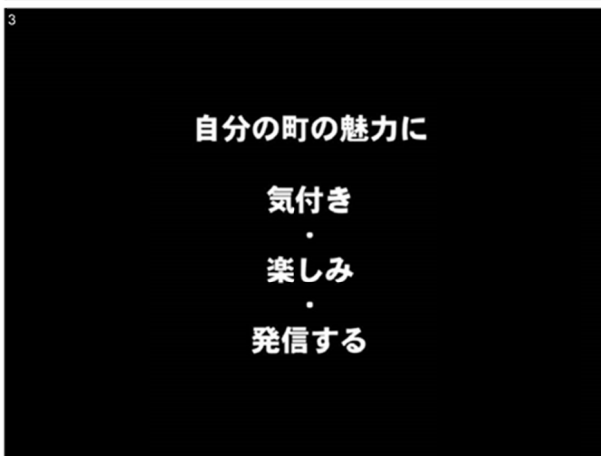
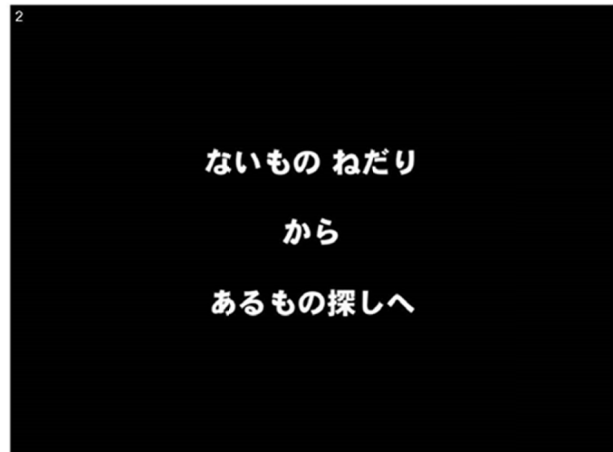
からくり人形 狐変身回り灯籠  
蚊帳の中 なぜか楽しそう！





■出演者の発表資料

パネルディスカッション 野内 隆裕 氏





9

**02** 新潟の町にもあり  
水先案内の場、名所として  
賑わっていました




1831年(天保2)の日和山  
江戸の地図 長瀬川流注 画「北条一策 長瀬川流注」より

大正期の日和山 名所絵葉書

10

**03** しかし、まちの変化により  
人々から忘れられ



1831年(天保2)の日和山  
江戸の地図 長瀬川流注 画「北条一策 長瀬川流注」より

2006年頃の↑日和山

11

**04** 山頂の住吉神社と共に  
荒廃していました

2000年




2000年の日和山と山頂の住吉神社

山頂の方角石

12

**05** 有志により日和山の祭典は  
昭和42年～ 復活されましたが

1967年



日和山住吉祭 大黒舞

日和山住吉祭

新潟下町をよくなる会 日和山住吉神社青年部

日和山住吉祭 エビ入舞

13

**06** 日和山の荒廃は  
すすんでいました



荒廃する2000年の日和山住吉神社

新潟のみなとを  
語る上で欠かせない場所  
それが日和山!

水先案内発祥の地  
下町に光を!



日和山住吉神社  
久保隆博

新潟下町をよくなる会  
高江東浩

14

**07** そんな中、自作の地図等で  
案内する者が現れると

1997年～



下町ある者

自作の案内板  
日和山の面白さを  
市民に伝えよう

野内隆裕のいいがたならねっと

2002年新潟日報

まちあるき地図 日和山住吉山のしおり

15

**08** 日和山の顕彰を  
手伝う仲間が集まります

2003年



寺町談義  
2003

寺町から  
2001年～2013年

寺町談義「新潟の日和山」

日和山頂にて

日和山の面白さを  
市民に伝えよう

野内隆裕＆いいがた寺町からの会

2003年 いいがた寺町からの会  
寺町談義  
日和山フィールドワーク

16

**09** 町の楽しさを発信すると  
協力の輪はひろがり

2004年



にいがた  
寺町からの会  
2001年～2013年

2004年 花籠寺日和山 長岡造形大学O6松大鼓舞&秋大っ鼓 の大鼓鼓舞

2004年 花籠寺日和山 チューリップの土籠で飾られた北熊船 と方角石

17

**10 日和尚の新たな活用が始まりました**

2005年～2008年

2005年 花巻市日和尚  
高岡造形大学OH 拡大調査A棟大・B棟の大規模調査

2006年 花巻市日和尚  
新潟大学工学部建築学科 総合研究室  
にいがた寺町の会

2007年 花巻市日和尚

にいがた寺町の会  
2001年～2013年

18

**11 手作りの活動は市民に山を再認識させます**

2005年～2008年

港の安全を支えた水戸教発祥の地  
**日和尚を文化財に**  
地元住民、市に保護要望

「みなとの香り」感じて

下町の魅力づくり目指す

2005年 新潟日報

19

**12 そんな市民の活動に行政も協力参加**

2007年～

みなとまちにいがたのプラン

憩いの場へ  
頂上広げ眺め良く  
地域住民と検討重ねる

2008年 新潟日報

これは是非整備すべきだ！

20

**13 官民一体となり整備する日和尚委員会が誕生！**

2007年～

2007年 日和尚委員会 + 新潟市  
新潟大学工学部建築学科 総合研究室  
日和尚広益会 での検討会

2007年 日和尚委員会 + 新潟市  
新潟大学工学部建築学科 総合研究室  
日和尚広益会 での検討会

**日和尚 Project**

21

**14 みなとまちの歴史や景観を楽しむ場へと**

2007年～

映り保ちまちの象徴に

新潟大学工学部建築学科  
総合研究室教授

22

**15 日和尚の魅力を活かした整備がされると**

2009年再生！

日和尚

日和尚の魅力(眺望・歴史・建物)を最大限に活かした場所の整備

日和尚七丁目

歴史アーカイブ

株式会社フォーライフ  
編集 堀

日和尚の魅力を最大限に活かした場所へ

新潟大学工学部建築学科  
総合研究室教授

日和尚からの眺望の整備

夜の日和尚の照明デザイン

23

**16 山頂の住吉神社も有志によって再建されます**

2009年再生！

日和尚 住吉神社

歴史的・文化的価値を損なわず利用機能も充実

住吉神社再建委員会

「歴史資産」専門の建築家 田中 龍さん(32)

次世代に伝わるように

2008年 新潟日報

2009年 上棟式

2009年 毎日新聞

24

**17 数多くの人々の熱意により日和尚は再生されました**

2009年再生！

新潟県の水災被災地  
「水戸教」発祥地

町歩きスポット復活

**日和尚の整備完了**

2009年 住吉祭

2009年 浪江復興

2009年 大見舞

2009年 新潟日報

25

18 evolution 2010年

# 進化する日和山

2010年～ 日和山登山  
2014年～ 日和山五合目

26

18 evolution 2010年

# まちあるきの拠点としても 日和山は進化しています

2010年 越後通新2+新潟市 発行 新潟下町あるき 日和山登山のしおり

新潟の町の 小路をめぐって 日和山へ!

新潟の町で名所紹介  
にいがちならぬと書家  
野内 隆裕さん(42)

まちあるきで魅力再発見

2010年 毎日新聞

27

19 evolution 2014年

# 日和山を堪能する 場所も 有志により完成しました

日和山五合目

日和山五合目に向ける 高度な観光の拠点に創れる場

日和山を知る・楽しむ・繋げる施設 2014年 開館

日和山から みなとまち新潟を 楽しもう!

日和山にちなんだグッズも登場! 日和山方角印せんべい

日和山からの景観を損なわない設計 まちあるきで日和山に訪れた人々をもてなす場

新潟通新2 野内隆裕

28

20 evolution 2014年

# これからも 日和山の物語は 進化し続けて ゆくでしょう

日和山 Project

2000 2005 2007 2008 2009 2010 2014

みなとまち・新潟 日和山 進化する 日和山物語

日和山委員会 + 新潟市

29

2000 2014

進化する 日和山 物語

みなとまち・新潟 日和山

日和山委員会+新潟市

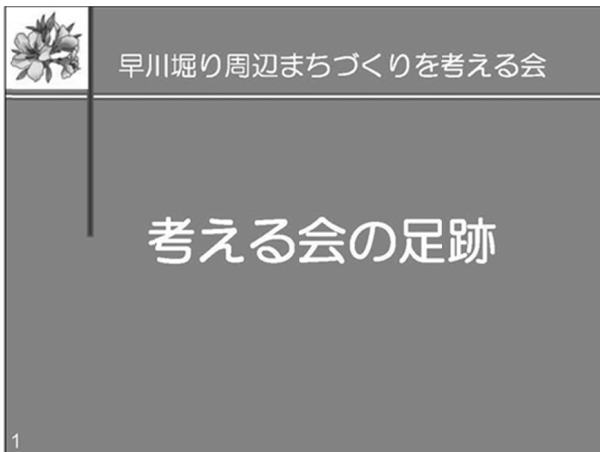
30

新潟 日和山 上空から hiyoriyama5

新潟の町と日和山 2014

■出演者の発表資料

パネルディスカッション 明間 博隆 氏



早川通り周辺まちづくりを考える会の設立と活動

**1. 早川堀通りの復元の話は過去にもあった。**

- 1994 (平成6) 年から6年間、当時の新潟市西港周辺整備対策課の主導で早川堀周辺の町内会長・自治会長と、関係する町づくりグループによる勉強会が開かれていた。
- 早川堀復元のイメージまで煮詰めた話し合いだったが、沿線の町内会長が絶対反対を証明し、決まりかけた復元計画は実現することに至らなかった。
- 早川堀が埋められた当時の「臭い」「汚い」の印象を払拭できなかったこと、勉強会が行政主導で行われ公開されなかったこと、うっせきしている行政不信、などにより住民レベルの議論にならなかったこと、等々が背景にあったものと考えられる。

3

早川通り周辺まちづくりを考える会の設立と活動

**2. 新潟市は「古町周辺地区まちづくり基本計画」の中で早川堀通りの整備を「湊町新潟散歩道整備事業」に位置づけた。**

- 13年前の教訓から「住民レベルの議論と意見を積み上げることが基本」「住民主体の町づくりで水と緑の道路整備にする」決意を渗ませながら、「地域の意見を尊重した事業を進めたいので、意見集約・合意形成を図る『場』を設けられないか」と住民有志に呼びかけた。
- 呼びかけを受けた沿線町内・自治会長・下町の有志が発起人会を立ち上げ、その後話し合いを重ね2006 (平成18) 年6月11日に湊稲荷神社事務所で「早川堀通り周辺まちづくりを考える会」を設立を行った。

4



2006 (平成18) 新潟市長に提言書を提出

1. 早川堀通りは、みなとまち新潟の原点・下町の中心に位置しています。その下町のなかで「みなとびあ」と「旧小澤邸」を結ぶ軸線になっています。同時に沿線住民の生活道路です。早川堀通りの整備にあたっては、地域の暮らし、特に高齢者や交通弱者の安全を損なうことのないように計画して下さい。
2. 早川堀通りの整備にあたっては、次の5項目を基本に計画して下さい。
  - (1) 人中心の道路として計画して下さい。
  - (2) 下町情緒あふれる町に相應しい計画にして下さい。
  - (3) 沿線住民・若者が集える場を計画して下さい。
  - (4) やすらげる水辺空間を計画して下さい。
  - (5) 四季を感じる緑を計画して下さい。
3. 沿線住民の合意を得る前提条件として「考える会」が提示した事柄は次のとおりです。整備計画の策定にあたって十分に配慮して下さい。
  - (1) 現在の歩道幅を狭めないこと。
  - (2) 生活道路として車道を確保すること。(中央・若しくは両側)
  - (3) 上記(1)(2)を基本に、そのうえで生み出され活用できる空間を前記5項目を踏まえた計画とする。

6

全国の先進事例を説明を聞き勉強に成りました。ただし工事に地域との話し合いの上で、進行していった方が完成後には、地域住民始め下町全体の誇れる通りになり、通りに対する気持ちや愛情の入れ方が違ってきます。

第20回の勉強会で、道路設計者の小野寺さんより完成予定の模型が提示された、地域住民は初めて見る模型を食い入るように興味を表していました。模型を見た、住民より細かい質問が飛び交っていて、「ここは何ですか」と聞かれ、設計者はひとつひとつ丁寧に説明を行っていました。





**歩道・照明現地説明会**

歩道に敷きしめるレンガの色あいを、何色か見ていただき地域住民が希望する色を基にしたレンガで施行していただく。  
通りに街路灯(防犯灯)の明るさを見ていただき、地域住民の方より決めていただきたいと思います。一日では、決めかねない為に、事務局宅の前においていただき数日後に判断していただきました。



9

**エヌエンジュの伐採及び活用法**

早川堀に植えられていたエヌエンジュの伐採を大沢材木に、伐採様子及び製材乾燥をしている様子を見学に行く



10

**工事請負業者の説明会**



11

**第1期定期総会開催**

**議案**

第1号議案	第1期	平成24年度事業報告
第2号議案	第1期	平成24年度収支決算報告及び監査報告
第3号議案	第2期	平成25年度事業計画(案)
第4号議案	第2期	平成25年度収支(案)
第5号議案		「早川堀通り維持管理に関わる協定書」締結の件
第6号議案		「早川堀通りの業務委託契約書」締結の件



12

**整備工事に付いてのお話はこれで終わりになります**

13

**つつじ祭り前夜祭キャンドルナイト**



14

**5月18日早川堀通り整備完成テープカット**



15

**新生早川堀通りにて第9回「新潟・下町」早川堀通りつつじ祭り執り行われる**



16

つつじ祭りに華添える古町遊技



17

水辺に風鈴を飾る



18

景観にとけこむ水辺



19

災害時用手押しポンプ 恋のまち ハッピーベル



20

### 早川通り周辺まちづくりを考える会の設立と活動

- 整備工事に付いて完成まで8年間の話し合いを333会をしてまいりましたが、その結果完成後の地域及び下町全体の活性化が図られると実感しております。
- この通りが皆様方(下町)が誇れる通りになるようにいたしたいと思っております。

21

## 終わり

ご静聴ありがとうございました

早川通り周辺まちづくりを考える会

22

■講演録  
基調講演

## 「柳都新潟・みなとまち ～歴史的港湾都市の再生～」

新潟大学工学部 教授 岡崎 篤行 氏

皆さん、こんにちは。岡崎と申します。

今日は北前船フォーラムということですが、私の専門が都市計画で、この北前船などを含めた歴史を活かしたまちづくりをやっていますので、今日は「柳都新潟・みなとまち～歴史的港湾都市の再生～」という、お話しさせていただきたいと思います。

中央区にお住まいの方々にとっては当たり前だと思いますが、「柳都新潟」という言葉です。なるべく、新潟以外に話すときにはこの「柳都新潟」という言葉を使うようにしていますが、そもそも、「これは何と読むのですか？」と、よその人には聞かれます。昔は堀があって、柳の並木が植わっていて、そこにこの写真のように古町芸妓がたたずんでいるのが絵はがきにもなるような新潟は、昔はそういう魅力的なまちというイメージが全国的にも普及していたようです。

これも古町のお姉さんから伺ったお話ですと、昔は学会とか大会があるときに、京都と新潟でやるときは、よそでやるときよりも参加率が高かったそうです。なぜなら、京都であれば芸子さん、舞妓さん、古町芸妓に会えるからという時代もあったそうです。

しかし、この新潟というのは、まちのイメージが弱くなってしまったわけです。私はもともと、新潟の人間ではありません。九州の福岡出身で、その後東京にいて新潟にやって来たのですが、それまで新潟がどういうところかという情報が全くありませんでした。

例え話ですが、某航空会社で飛行機を買って予約が終わると最後に行き先のまちのイメージ画像が出てくるものを見せています。札幌では時計台、大阪は大阪城が出てきます。

新潟は何が出てくるかご存じでしょうか？想像していただきたいのですが、これが答えです。私もあ然としました。なるほどと。

よそのお客さんをご案内すると、新潟は「お米がおいしいですね、お酒がおいしいですね、魚がおいしいですね」と新潟に来て褒めてくださるわけですが、私はそれを喜んではいけません。なぜなら、その人はよそでも同じことを言っているからです。お酒、お米、魚がおいしいのは新潟に限ったことではありません。残念ながら、悪いことではないのですが、それで喜んでいてはいけません。

実は、まちのイメージが希薄なのは、新潟だけではなくさそうです。政令市20市中、弱そうだと思うものをリストアップしました。さいたま市、川崎市、相模原市、千葉市、浜松市、堺市辺りは、ちょっと弱そうかな。ホームページ等で検索すると、シンボルになりそうなものには、こんなものが挙がってくるわけですが、あまり定着していないかもしれません。だから新潟だけの問題ではないのです。

例えば、千葉県。新潟が米だとすると千葉はピーナッツだそうです。それは千葉市と関係ないわけですから、千葉市のまちのイメージは希薄なのです。千葉、相模原、さいたま、川崎、いわゆるベッドタウンで都市圏として栄えているところは別にイメージが多少弱くてもいいとしても、新潟は日本海側にあるということもあってイメージが伝わりにくい。つまり、行きたいと思ってももらえないわけです。やはり新潟としては、都市イメージが希薄というのは深刻な問題だと思っています。

先ほどのアンケート結果にもあったとおり、新潟を紹介する画像でお米に代わるものとし

て何がふさわしいか？私は萬代橋のようなものの方がいいのではと思っています。航空会社の人にこの画像を採用してもらうにはどうしたらいいのかわかりませんが、戦略的に働きかけていかなければいけないと思っています。

そもそも、北前船で栄えた「みなとまち新潟」というイメージが全体的にはほとんどないわけです。先ほどのアンケートは中央区のものでしたので、これが新潟市全体となった時にどうなのかという問題もありますので、「みなとまち新潟とは何か？」というお話ししたいと思います。

## 1. 歴史的港町・新潟

そもそも、「みなとまちは何だ」ということになります。細かく言うといろいろありますが、大きく整理するとこの3つに分けていいのではないかと思います。

1つは、いつできたかという年代と関連していますが、中世からあるような古いみなとまちです。自然の地形を活かして、入り江の奥の、谷間の狭い平地に密集してできるみなとまちが典型的です。これは瀬戸内地方に多いのですが、広島県福山市にある鞆（とも）や尾道をご存じでしょうか。これも有名なみなとまちです。

2つ目は飛ばして先に3つ目です。近代に入って、明治時代以降に新しく整備されたみなとまち。函館、横浜、神戸が有名です。

ところが、ほとんどの日本人が忘れたみなとまちがあって、それが2つ目です。近世初頭にもっぱら城下町の外に、城下町が自分のまちに港がないがために、みなとまちを新しく自分のまちの外につくったものです。日本海側にこれが多いのですが、その例が長岡藩の新潟、庄内藩の酒田、弘前藩の青森です。中でも新潟が断トツトップなわけですが、この一群は日本人が忘れてしまった第3のみなとまちだと思います。ですから、ここら辺を連携してアピールしていく必要があると思

います。何しろ、日本人のほとんどは新潟をみなとまちと認識していないと思います。

それから、江戸時代の初めに新しくニュータウンとしてつくったみなとまちの一群は、いずれも河口、川にあります。ですから、信濃川は左手に朱鷺メッセが見えて、佐渡汽船がとまっている風景になってわけです。地元の人にとっては当たり前の風景だから何とも思わないかもしれませんが、私が初めてこの風景を見た時、何で船が海じゃなくて、川にいるのかとびっくり仰天しました。これが福岡や東京で育った人間の感覚です。

これは歴史的な経緯もあり日本海側特有なのです。季節風で砂丘地ですから、基本的に海に港をつくれなわけです。能登半島は別ですが、そういうことかとびっくりしたので。砂丘やそういうことも含め、これも日本海側の特徴で、ほとんどの日本人は知らないはず。ここら辺をうまいこと、特徴としてアピールしたいと思っています。

少しおさらいしますと、中央区の方々によくご存じだと思いますが、長岡藩の7万石の外港として建設されました。今の場所に移って本格的に整備されたのが、1655年までです。1655年と言いますと、江戸時代の初めです。全国の城下町とほとんど変わりません。日本中の城下町が、当然、江戸時代に徳川政権になってからつくられたので、1600年以降ということになります。1610年だったり、1620年、1630年だったり。ですからその城下町と新潟は歴史的に見てほとんど変わりません。

何となく新潟は城下町では新しいイメージがありますが、そうではありません。同じ時期にできています。ですから、新潟は十分に歴史があります。もちろん、もっとさかのぼれば沼垂城（滄足柵：ぬたりのき）のこともあるし、蒲原津（かんばらのつ）のこともあるわけですから、それも含めて新潟は歴史的なみなとまちだという事実が、新潟市の中央区以外の人々がどのくらい認識しているか。あ



るいは日本全体で言えば、ほとんど認知がないという状態を何とか変えないといけないのではないかと思っています。

ちなみに、1655年なので、来年は360年です。これも記念すべき年なので、何かしなければいけないと思っています。

新潟は近世港町の代表例です。都市計画の歴史、都市の歴史の専門の方々をよく知っている話なのです。残念ながらお亡くなりになったのですが、九州大学の宮本雅明先生、数年前にクロスパルで講演もしていただき「新潟は日本の近世都市の1つの到達点である」とまでおっしゃっています。なぜかは後でお話しします。

北前船の交易によって繁栄しましたし、幕末開港5港にも指定されています。残念なことに、開港5港に新潟が含まれているという意識も、ほとんど日本人にはありません。ほかの4都市、長崎、函館、横浜、神戸は誰でも知っていますが、みなとまち新潟というイメージが全くありませんので、開港5都市新潟というイメージも残念ながらないのです。ですから、ここら辺をアピールする。この宣伝は難しいと思いますが、戦略的に頑張って市民一丸でやっていかなければいけないのではないかと思っています。

次に新潟がいかによかったかということですが、1つは金沢と比べてみます。現在の地図ですが、赤い矢印がだいたい2kmです。左側の白山公園から本町13番地、14番地辺りまでの、つまり当時できたときの、新潟の端から端までがだいたい2km。同じく金沢も浅野川と犀川に挟まれた城下町の中心部がだいたい2kmです。面積から言うと、金沢は城下町で面的に広がっていますので、金沢の方が大きいと思いますが、長さはだいたい同じくらいです。ただし、町人のまち、つまり商業地で見ると新潟がいかによかったかというのは、これを見ても分かります。

なぜかというと、金沢はお城が真ん中にあ

って、こちらは武家地です。町人町は街道に沿ってあり、この線上に長いのですが、広がりがあまりない。新潟は純粋に町人町で、この線上にメインの通りが古町、本町、上大川と何本もあって、かなりの広さの商業地です。商業地だけで見たら、金沢よりかなり大きそうに見えます。しかも金沢は百万石の大都市です。今や、一地方都市になってしまいましたが、江戸時代は日本有数の大都市で、人口的に見ても日本トップクラスの大都市です。その金沢と比べても、かなり新潟の商業地というのは大きかったということが分かります。

新潟、明暦1655年に町建てされた地域が、このエリアです。南北に通りがあって、東西に小路があってという話は、ご存じだと思います。それから縦横に堀割がめぐらされて、今いるNEXT21のところは奉行所でしたから、ちょうど真ん中で、榎谷小路を境に川上側と川下側でまちが構成されていたわけです。

寺町が一直線にずらっと並んでいる。寺町が一直線に並んでいるところは他にもあります。先ほどの堺や京都もそうですが、こんなに分かりやすいものはない。今でもNEXT21の展望台から見ると一直線に並んでいる。こういう景色はなかなかありませんので貴重な資源だと思います。よその人を案内すると、みんな感激してくださいます。

この1655年の町をつくるのを町建てといえますし、まちの都市計画の図を引くことを町割りといいます。この町割りがちゃんと『図集日本都市史』という教科書に出ています。図書館にあれば見ていただきたいと思います。これにちゃんと新潟が、日本の港町の代表例として出ています。それくらい、新潟は都市史上重要なまちだったということです。

この格子状の合理的街区が特徴です。碁盤の目のようにまちがきれいにできていて、そこに運河としての堀割がめぐらされているという、理想的な都市計画を実現しているところ。非常に合理的です。

それから町人町なので、武家屋敷はほとんどなくて、町家、商人の家がずらっと並んでいて、平等、均一な町家の敷地があります。見ても分かる通り、多少の大小はありますがほとんど均一です。これを都市史的に言うと、近世的なので、「近世の町の代表」と言われるわけですが、その近世的でない町は何かというと、中世的ということですよ。

中世的な空間というのは、少し難しくなるのですが、いわゆる東京大学の伊藤毅先生が言う「境内空間が中世的である」ということです。つまり、囲われた、お寺や武家屋敷、中世のお城もそうですが、囲まれているという空間です。建物の周りに多少空地がありまして、そういう境内的空間がほとんど新潟にはない。武家地がないからということもあるのですが、伊藤先生に聞いたところ、「新潟の場合はお寺ですら町家のように」と言うわけですよ。お寺ですら、このように短冊状の敷地でほとんど同じ間口でずっと並んでいてまるで町家みたいですよ。

つまり、近世的都市空間が完全に卓越している。ここに奉行所があって、武家地らしき敷地も多少見えますが、こんなに完璧に近世的な空間の町は新潟しかないと思います。似たようなところでは青森や酒田など多少ありますが、ここまで完璧にきれいに設計された都市はないという意味で、近世都市のまの到達点で、城下町とはまた違った近世都市の完成形ではないかと言われているわけですよ。よろしければ、宮本先生や伊藤先生の本を見ていただければと思います。

また、突拍子もないように聞こえるかもしれませんが、新潟のまちとしての性質を理解する上で、知っていただきたいのがオランダのアムステルダムです。アムステルダムは、私も行ったことはないのですが、画像や図面を見て気づいたのです。世界遺産にもなっているアムステルダムが新潟にそっくりで、いろんな意味で非常によく似ています。

この緑に見えるのは全部運河です。運河に並木があるので緑に見えるのが、全部運河ですよ。アムステルダムは一応、中世からあるのですが、もっぱら近世に発展しました。1538年時点でこんな感じですよ。この時点では、運河がこのくらいで、その後、周りにどんどん、何重にも広がっていくのです。

路地連新潟さんがつくった小路マップの図を拝借しましたが、このようになっています。何となく雰囲気は似ていますけれども、もう少し詳しく考えると、近世に発達した港町という点で同じですよ。商人の都市だということもそうです。それから低湿地なのです。そこに新しく計画的につくったニュータウンという意味でも同じですよ。これは今の地図ですが、格子状の合理的な街区であって、運河としての堀割がある。これは偶然だと思いますが、町家が妻入り（つまいり）なのです。妻入りはわかりますでしょうか？三角形が表に出ている。三角形が表に出るか横を向くかで、妻入りと平入りと2タイプあるのですが、何と妻入りですよ。これも見て感激しました。

さらに、おまけに言うとチューリップまで同じという、こんなに似ているまちはそうそうありません。ぜひ姉妹都市になったらいいのではないかと、勝手なことを思っています。これは新潟を理解するでも、アムステルダムと似ているというの、よその人に言うときには使えるかもしれないと思います。

新潟はつまり、このように歴史都市なわけですよ。幸い、大規模な震災も回避しました。原爆の候補というおそろしいことも含め回避しまして、これだけの規模の都市で空襲を受けていないのは、京都、金沢、札幌、新潟くらいだと言われているんですよ。

だから、新潟は京都、金沢の仲間なわけですよ。残念ながらそういうイメージは日本人にはありません。それから、新潟大火と新潟地震がありました。もちろん被害は甚大でしたけれども、建物という意味においては限定

的だったわけです。

これがイメージのおそろしさで、東京の方と話をすると、「新潟は大火もあったし、地震もあったし、古いものは何も残っていないんでしょ？」と、言われるのです。被害甚大ということを当然ニュースで言うわけですが、それが悪い方のイメージとして浸透しすぎて、川岸町の県営アパートが倒れたのを見て、残念ながら、まちは壊滅したというイメージを与えてしまっています。

いやいや、「違うんですよ、多数の歴史的な建物があるし、路地がたくさんあって面白いんですよ」と。路地も、最近分かってきました、全国の、よそにはない路地があるのです。「へやなかさ」、「出し合い」などとも言われますが、これはつまり、妻入りの敷地だからこそ発生する、建物と建物の隙間、これが路地になっていて、敷地としてはお隣さん同士、半分ずつ出し合っているわけです。調べたところ、こういうものが不思議なことによそにはほとんど見つかりません。

つまり、歴史的都市新潟というものを活かしてまちづくりをやる場合、景観として考えたときには、まち全体をよくするのはそう簡単ではありませんから、まち全体としてあまり変にならないように景観のルールをつくるというのは当然必要です。それだけだと新潟らしさは出ませんので、重点地区を設定して、そこは集中的に細かいルールも必要だし、助成金も出してやるというのが一般的な世界共通の手法です。

では、その時に新潟はどこをやったらいいかということになります。新潟島で言えば、少なくとも3地区は大事だと思います。それは、古町一帯であれば古町花街というもの。それから、下（しも）です。よその人に下といっても難しいので下町（しもまち）と言っています。下町、旭町、西大畑一帯、この3地区は歴史的資源が集中しています。比較的よく残っているので、磨けば光るまちの界限

ができるだろうと思われま。

しかも、この中心部には旧新潟税関庁舎、萬代橋、旧県会議事堂と重要文化財になっている建物、建造物が3つもあるわけです。金沢も、もちろんたくさんありますが、全国的に見て、まちの中心に3つも重要文化財が集中して近くにあるということも、そんなに多いことではないと思います。

私は、新潟まち遺産の会という団体も2004年からやっています。そこでは、我々は建物を中心に、「まち遺産マップシリーズ」として一番左は町家マップ、真ん中が西大畑のマップ、一番右が古町花街のマップを作成しています。いずれも砂丘館で販売していますので、よろしければご覧いただきたいと思います。

この3地区をアピールしていきたいので、順番にお話しさせていただきます。

## 2. 町家が残る「下町」

まずは下（しも）、あるいは下町です。下町といえば、旧小澤家住宅があります。この辺りは、我々が調査したところ、新潟の中心部で一番古い建物が集中して残っているエリアです。真ん中が旧小澤家住宅ですが、その近辺にはわりと町家が連続して残っていますので、ここは磨けば光るはずですし、よその方をご案内できるエリアになるはずで。

その中心になるのが、市の指定文化財の旧小澤家住宅・北前船の時代館です。この建物は市に寄付される前から知っていましたが、私は「この建物がもし壊されていたら、新潟の未来はない」というぐらいに思っていました。なぜかというと、歴史的みなとまち新潟を支えたのは北前船であり、廻船問屋さんなのです。それを説明できる建物が、これが最後だったからです。

廻船問屋さんの遺構がちゃんと残っているのがここしかなかったのも、もしこれがなくなってしまうたら、新潟の未来はないと、私の専門分野では考えておりました。幸い、こ

れは市に寄付していただき、こうして整備されたので、本当によかったなと思っています。まだまだ市民全体からすると認知度が低いようですので、もっと活用しなければいけないと思っています。

この建物は単に歴史的に廻船問屋さんというだけではなく、もっと建築的に見ても非常に重要です。なぜかというと、新潟の商人の町の建物を町家というのですが、江戸時代の建物、住宅というのは、基本的に武家屋敷と町家と農家しかありません。どこでもそうです。まちの中は日本全部、どこでも町家というものがありました。今は、何となく町家というイメージを抱きますが、そうではありません。ごく当たり前で、町家しかありません。その町家は、まちによって形が違います。この町はこんな、この町はこんなと、先ほどの妻入り、平入りということも含めて、いろんな特徴があって、それが分かるとまち歩きが面白くなるのです。

新潟に来て、これまたびっくりしました。今まであまり見たことがない町家だったからです。妻入りでも平入りでもない。それまで新潟は平入りだと言われていました。平入りというのは、つまり、表から見ると三角形が横で、前は平らな軒が見えているから、平入りというのですが、よく見ると、確かに表は平入りだけど、裏は本来妻入りの建物ですよ。これを平入りと言ってしまっただけで、本質を外れてしまいます。つまり、これは、本当は妻入りなんだけれども、表は平入りに見せかけている建物です。

元々、その前が妻入りだったからということが関係しているそうですが、そういう新潟の典型的な形の町家で、その中でも一番状態がよく残っている。内部の間取りもよく残っているし、元々建物も立派ですから、そういう意味でもこれは非常に重要で、今は市の指定文化財ですが、国の重要文化財になるべきものだと私は思っています。なぜなら、この

タイプのものとしては、日本で一番いい建物だからです。

それを地元で名前がなかったのが、我々は「丁字型」と呼んでいます。丁字というのはT字のことで、T字を日本語でいうと丁字になりますが、上から見ると軒がこっちとこっちでT字になっているわけです。何か名前を付けなければいけないので、「T字型町家」と呼んでいます。

それだけではなくて、この「高窓付き雨戸」といって、窓に見えるけど雨戸です。窓と雨戸の違いは何かというと、単線レールです。基本的に全部開けるか全部閉めるしかできません。だからここに戸袋がついています。つまり、これは窓ではなくて雨戸です。私、これまたびっくりしました。雨戸というのは、東京や福岡に住んだ人間からすると、いつ閉めるか。夜の防犯対策か、台風の際の暴風対策です。だから、ガラスでは意味がないのです。なのに、何でガラスなんだろうか。

つまり、雨戸を閉めつつ明かりを採りたいということは昼間にも雨戸を閉めるということの意味しています。これも北陸地方、東北地方はわりと多く、西日本には少ないので、このエリアの地域的な特徴の1つになります。

それから、「張出し二階」と呼んでいます。二階がちょっと出っ張っているのです。これがまた典型的な新潟の町家の形です。

それから板が横張りではなくて、縦張りなのです。横張りの方がどちらかというと多いと思いますが、縦張りなのです。こういうものが下町の辺りにたくさんあるのですが、それを凝縮している建物が旧小澤家住宅です。建築学的に見ても歴史的に見ても、超一級の重要な建物です。

下町界限には、それ以外にも片桐邸は網元のお屋敷ですから、やはり新潟のシンボルですし、いろんなお店がたくさんあります。新潟まち遺産の会で作っている町家マップに書いてありますが、たくさんあります。

### 3. 洋風のお屋敷町「旭町・西大畑町」

ここはガラッと変わって洋風のお屋敷町です。これも新潟の歴史、開港5都市であり、西洋文化も入った一般の日本人が思うお米というイメージからだいぶ違うハイカラな新潟の証拠です。

新潟大学の医学部の門の跡です。旧制新潟医科大学の門と塀は、昔のとおりです。残念ながら建物は全部なくなりましたが、門と塀は残っていて、国の登録文化財になっています。この医学部があったということも新潟が重要な都市だった証拠です。

私も新潟大学に赴任するまで知らなかったのですが、大学の世界には「旧六」という言葉があります。文科省的には、帝国大学というのが一番上なわけですが、あとは東工大とか、一橋とかちょっと特別なものがありまして、その次のランクに旧六大学というのがいるのです。旧製の医科大学が6校、国内にあるのです。新潟、金沢、千葉、岡山、長崎、熊本です。これは文科省的には重要都市だった重要大学なのです。

つまり、戦前の大学は、特別なものを除いては帝国大学くらいしかなかったわけです。戦前は医科大学が6校あって、それが戦後の大学のもとになっていますが、6校しかなかったわけです。そういう意味では、新潟が重要な都市であったことの表れです。

ドッペリ坂の話をする、これまた時間が足りなくなりますが、旧制新潟高校がこの上にあつてという話をご存じだと思います。ここに通って、古町の花柳界に入り浸りすぎると落第しますよと。落第というのは、今ダブると言いますが、ダブるをドイツ語で言うとドッペルンです。だから、ドッペリ坂なわけで、階段数は及第点に1つ足りない59段。誰が考えたのか分かりませんが、偶然なのか数えるとちゃんと59段です。

それから、このカトリック教会、昭和初期の建物の立派な洋館もありまして、しかも異

人池というものがあって、これも絵本があります。異人というのはつまり、このカトリック教会の司祭さんが異人さんだったからということらしいのですが、昔はここに池がありました。戦後、埋め立てられて消滅しましたが、その記憶が昔の新潟の人にとっては大事だったらしく、今でも「異人池」と名前がついたマンションがたくさんあります。だから、池はないのにそれはちゃんとストーリーとして引き継がれていて、つまり、このエリアのブランドになっているわけです。これもなかなか面白い話ですし、1つの重要な資源だと思います。ハイカラな新潟ですね。

この「白壁通り」も有名です。ここは、ハイカラとは若干違いますが、やはり西大畑がお屋敷町として発展した1つの重要なシンボルで、景観が非常にいいです。白壁の土蔵が並んでいるから白壁通りと言われるようになったと思いますが、正式名称は別にあります。

この界限は、これもいろいろなストーリーがあります。近郷の豪農の家の方とかが、子どもさんを新潟小学校に通わせるためにわざわざ別荘をつくったという話も伝わっています。これも江戸時代になかったエリアですが、明治時代以降に開発されて、そのハイカラな新潟のシンボルです。この中に旧齋藤家があります。これも廻船問屋さんの、旧齋藤家の夏の別荘ですから、みなとまち新潟の大事な資源です。何と言っても、建物ももちろん立派ですが、このお庭がすごいですよね。国の登録名勝になっています。

これも幸い、市民運動の結果、市に買い取っていただきまして、人気があるようです。新潟は城下町ではないので、新発田のように大名庭園はないのですが、その代わりに、市民の町、町人のまちとして、廻船問屋さんの庭園があるというのも、重要なストーリーだと思います。福岡にも黒田の殿様という小さい大名の別荘の庭園がありますが、それに匹敵するくらい立派です。

お隣には元禄時代から続く料亭の行形亭（いきなりや）さんがありまして、これも国の登録文化財です。こういう明治時代の洋館もあるし、石油の財閥としての、新潟が石油で栄えた証拠である新津さんのお屋敷の記念館もあります。皆さんご存じだと思いますが、アラブのお客さんをもてなすための迎賓館としての立派な洋館を造ったということです。

旧日銀支店長役宅が残ってしまっていて、これも砂丘館ということで文化施設になっています。全国で昔の日銀の支店長の役宅が残っているのは、新潟と福島だけだと伺っていますから、これも全国級に重要な建物ということになります。

それから、篠田さんはお住まいではないけど市長公舎です。旧市長公舎、大正11年。これが建築学的には面白くて、こういうのを「洋館付き和風住宅」といいます。母屋は和風。ここは実は洋風なのです。今はペンキを塗ってしまって分かりませんが、こちらは和風の外観にすべきで、こちらは洋風のペンキでいいのです。次に塗り直すときは、ちゃんと元に戻していただかないといけません。

つまり、ここは見かけも洋風、中も洋風です。窓が縦に長いし、板張りが横なので洋風ということが分かります。これは明治時代ぐらいから昭和初期にかけて日本全国で流行りました。昭和初期の洋館住宅は、全国あちこちに残っています。新潟でも大都市以外、村上や新発田、高田にもありますが、大正11年というのはわりと古いのです。大正時代の洋館付き住宅には、そう簡単にお目にかかれませんが、これも貴重で今は坂口安吾関係の展示館になっています。

それともう1つ、この旧副知事公舎が、近くにあります。これも同じく洋館付き和風住宅で、表にこういう洋館がついていて、裏は和風の母屋です。こちらが1年さらに早い大正11年。野坂昭如さんが、お父さんが副知事だったころに青春時代を過ごしたという逸話

もありますし、今、レストランとしてかなりにぎわって活用されています。中のお座敷には、この境界の昔の写真なども飾ってありますので、ぜひ行ったことがない方は見ていただきたいです。西大畑も大変魅力的です。

#### 4. 花街「古町」

最後に古町花街。「古町花街の会」というのが、一昨年にできまして、私はそれにも関わっています。新潟が日本全国に誇れる資源です。なぜ花街か、そもそも花街とは何だということもあります。花街（はなまち）とも言われます。ここに最近、力を入れてやっているのはなぜかという、確実に新潟がよそに勝てる資源だからです。

何が勝てるのか？ですが、上から見るとこんな感じで、古町8番、9番町が花街になります。これは鍋茶屋さんという料亭さんで、雑居ビルとも混ざっているのですが、パッと見、すごくきれいな街並みというわけではないのですが、よく見ると昔の木造の花柳界の建物がずらっと結構残っています。平均して3割くらいは、戦前の建物が残っています。平均3割というのは、全国的にみてもかなり高い割合になります。

この座敷で「柳都さん」と呼ばれる芸者さんを選んで、お座敷をやることができるまちなわけです。今、日本全国花柳界と言うと、一般市民には縁遠い、関係ないようなことになってしまいましたが、旧制高校の学生さんも行っていたぐらいですから、昔はもっと身近なものだったということが分かります。

シンボルの話の1つとして、昭和初期にできた『四季の新潟』という歌があります。新潟では第2の市民歌とも言われているそうです。昔は旧制新潟高校の方々は、今でもそれを歌い継いでいるということで、寮歌的な意味合いもあったそうです。それは今でも花柳界で引き継いでいますから、そういうことでも市民の花柳界のつながりを感じます。

私も福岡、東京と過ごして、新潟に来るまでお座敷は一度も体験したことがありませんでしたから、新潟に来なかつたら多分、一生関わらずに終わったと思いますが、幸い新潟に赴任したことで人生が変わりました。

最初、お座敷に連れて行かれた時の印象は、「現代の日本にまだこんな世界があったのか」と思いました。よく考えると、実はそれは、ちょっとおかしく、自分が日本人ではなくなっていたということです。つまり、現代の日本が日本ではなくなっていたので、本来の日本がめずらしく見えるわけです。そういうことに気づいて、しかも、全国これがどんどん衰退して、消滅の危機になっているところもたくさんあります。

以前だったら、花柳界なんてお金持ちが行くところだろうとか、時代の流れから言えば無くなって当然だろうという感覚が一般的でしょうし、私もそう思っていました。知れば知るほど、そうではない、そう言っているはいけないと思うようになりました。それに気づいて以来、ここ6年間くらい、全国の花街を、ほかの全国の先生と一緒に共同研究チームをつくって調べています。

そもそも、私は花街（かがい）というのですが、なぜ花街かという、これは元々が中国の、唐の時代の漢詩などにも出てくる漢語『花街柳巷』から来ているということなので、正式に言えば花街。だけど、別にそれを花街（はなまち）と江戸時代には呼んでいることもありました。特に昭和に入ってから流行歌が幾つかありまして、『花街の母』とか流行歌があったので、今生きている我々としては、花街という言葉のほうが身近になったわけです。私、一応、学問的に見て花街（かがい）と呼んでいます。

この花街と「花柳界」という言葉もあるのでごっちゃになるのですが、花柳界も結局、『花街柳巷』から来っていて語源は同じです。意味もほとんど同じですが、使い分けるとす

れば、場所は花街、業界は花柳界というのと分かりやすいと言われています。

実際問題、地元の方は使い分けを意識していませんし、そもそも、地元のお姉さんの話では、昔は古町といえば花柳界と決まってて、場所とか古町エリアのこととか商店街ではなく、古町と言っただけで花柳界だと分かったそうです。

今でも、東京では、一般の都民は新橋といえば新橋駅を思い浮かべるでしょうけど、花柳界の世界でいえば新橋といえば新橋花柳界に決まっているわけで、それと同じです。

元をたどれば、江戸期の遊所吉原があって、文化流行発信地だったという話は、今も木曜日の夜にNHKでやっていますが、その頃は、芸者さんと遊女が同じ場所、同じ店にいたりしたので、今とは全然違います。元をたどれば、そこにつながっていないこともないのですが、今の花街と昔の吉原は全く別物です。

それは明治時代から、近代以降、芸妓の花街と娼妓の遊郭を分けてきたからです。江戸時代はそれが入り混じっていましたが、明治時代からはそれを分けています。これもよく混同されます。花街（はなまち）という、つい遊郭的なものも含まれますので、花街（かがい）という言葉なるべく使うようにしています。遊郭と花街は別物です。

戦後までは全国各都市にありました。今は何となく特殊なものというイメージがあるので、花街がどうして新潟で栄えたのか。それは港町だったからですか？とよく聞かれるのですが、そうではありません。花街は都市にとっては必要なものです。どんなまちにもありました。新潟が港町として栄えた。つまり、新潟が栄えていたから花柳界も栄えた。でも、それは港町だからではありません。京都は都で栄えました。よそのまちは城下町だから栄えて、だから花街が栄えました。つまり、都市が栄えれば花街も栄える。今でも大きなまちへ行けば歓楽街が栄えているのと同じです。

つまり、どこの都市にもある当たり前のもので、新潟でも県内に限らず、もちろん長岡も高田も三条も村上也、どこでもあったものです。それが今、なくなってしまったので、何となくめずらしいもののように見えているだけのことで、さっきの町家と同じです。

この花街ですが、昔は日本全部、日本文化で生きていた時代は、ある意味特殊な場所です。宴会をやったり接待をする場所です。ところが、現代はどうなったかという、昔は当たり前だった日本文化を我々は捨ててしまいました。捨てざるを得なくなったので、ほとんど日本の生活を我々はやっていないわけです。食べ物も洋風、着る物も洋服、髪型も洋風、音楽も西洋音楽なんですが、花柳界は期せずして、日本文化を唯一残しているのです。しかも、あらゆる日本の伝統文化を包括的に継承しているというところがポイントだと、この研究を始めたときに京都の先生から教わりました。

それは日本建築、数寄屋といわれるものが多いのですが、日本庭園、日本舞踊、邦楽。邦楽も、今、CD屋さんに行くと邦楽は日本のポップ・ミュージックになっていますけれども、それと区別するためにわざと純邦楽と言ったりします。それから和楽器、和服、日本髪。京都の舞妓さんは、日本髪がかつらではなくて、地毛です。ほんとに自分の髪で結んでいます。ですから、これは毎日ほどくわけにはいきません。夜はまげを結ったまま時代劇に出てくるような高い箱枕で寝るわけですから、大変です。それだけで、私は1日でギブアップすると思いますけど、舞妓さんは日々修行をしているわけです。本人の意識と関わらず、結果的に日本人を代表して日本文化を残すために、毎日、箱枕で寝て修行をしているわけです。だから、「日本人は全員舞妓さんをお座敷で呼ぶ義務がある」と京都の人に言われ、いやいや、あながちうそではないなと思ったわけです。

「男に例えれば、お相撲さんが一番近いかな」と京都の人に言われ、なるほどと思ったわけです。部屋に入って修行をしようと。何となく華やかで、何となくはんまりみたいな、わりと楽なイメージを我々はつい抱いてしまいましたが、そうではなくて、修行をしているので大変なのです。

それから日本料理。和食が今、世界無形文化遺産になりました。日本料理に、日本酒、ビールは出ますけど、コーヒーは出ませんし。伝統の食器も地元の食器とか、それこそ新潟漆器とかいろいろあります。それから、骨董品があって、日本画が飾ってあり、書が飾ってあり、茶道があって、華道があって、香道がある。京都の舞妓さんは、全員、お茶も必修ですから、お茶も点てられるわけです。

別な言葉で考えると、花街は最後の純和風空間と言えるのではないかと思います。ほかにそういう場所がなくなってしまった。お寺も和風といえば和風ですが、普通の人は入れませんし、そこで他のいろんなものが全部そろっているわけではありません。そういう意味では、最後の純和風空間になってしまった。

かつ、地元の文化でもあるわけです。方言、民謡、地元作家の書画、地元料理、お祭り等々。純粹に日本文化というだけではありません。芸妓さん職能は、伝統、技芸、おもてなしという今はやりのものです。

京都に行くと「都をどり」という舞踊公演があって、まち全体が盛り上がるのです。新潟は、毎年6月に「ふるまち新潟をどり」をやっていますが、なかなか席が埋まらず盛り上がりがないので、これも何とかしないとけないなと考えています。つまり、ちゃんと、正式な日本舞踊公演は、新潟ではほとんどこれくらいしかないわけです。日本舞踊公演に出るということが芸者さんたちの1つの誇りであり義務であり、それを見ても単に宴会だけやっているわけではないというのを分かっていたかだと思います。お祭りでもこう



やって出ていらっしやいます。

全国に現役の花街の数は、正式には難しいのですが、一定規模だと40くらいです。京都には5カ所、東京に6カ所、金沢3カ所ありまして、それ以外にもあります。新潟も最近三大花街という言葉が時々出て来ますが、それは言い過ぎです。10本の指に入ることは確実で、6位か7位くらいに数えられています。なぜなら、京都に5つもありますから。

祇園もこんな感じですし、金沢もこんな感じで、いずれも観光客があふれていて、すごいことになっています。新潟の古町はこんなで、観光客はちらほらです。京都、金沢は、先ほどの話にもあったように戦災を免れています。ただし、京都、金沢は御茶屋さんの花街です。茶屋街です。新潟は東京と同じく料亭の花街で料亭街ですから、戦前の料亭の花街では新潟が日本一と言えそうです。次は山形か長崎くらいです。ここは自慢できます。

先ほどの話したようによそに勝てるというのは、例えば仙台の花柳界はほとんどなくなっていますし、こんな風景が東新道というところにありまして、数寄屋造りの立派な建築があります。ここに鍋茶屋さんがいます。鍋茶屋さんは3階に200畳の大広間があるのです。これはすごいことです。これは全国、よそを見てもこういうものはありません。私、大げさかもしれませんが、国宝級と言わせていただいております。これも今は国の登録文化財ですけども、もっとそれ以上の価値があります。

それから行形亭さんです。これも元禄からで2,000坪です。これも街中で2,000坪の料亭さんは、よそでは見たことがありません。この行形亭と鍋茶屋さんを見ただけでも、古町の花街というのは、全国有数のものだということが分かります。

まちの特徴は、さっきお話ししたとおり、「へやなかさ」と言われる路地もあったり、

これも非常に面白いので大事な資源だと思います。東京の方をご案内すると、皆さん、一様に感激してくださいます。

花柳界も頑張っていて、地元化市山流という家元がありますし、柳都振興という会社をつくっていらっしやって、若手を継続的に輩出しているわけです。これも日本で若手をちゃんと、これだけしっかり出しているのは、京都と新潟くらいです。それを山形が新潟に習って同じようなことをやっていらっしやいますが、そういう意味でも貴重です。本当にこれは重要な資源です。お稽古発表会もやっていらっしやいます。

ただ残念ながら、今パッと見てすごくいい景観ではありませんので、整備していかなければなりません。新潟市の「なじらね協定」というのを使わせていただきまして、エアコンを見えないようにしたり、アルミサッシのところを木に戻したり、道路を石畳みにしたり、こんなことをやっていこうとしていますが、今の事業予算だと、ちょっと追いつかないのです。事業規模が、補助金が最大75万円、2分の1持ち出し、全体で150万円としたら、大したことができないのです。見積もりを取ると300万円くらいは掛かってしまうのです。なので、ぜひ、もうちょっと全国の事業の拡充をお願いしたいところです。

最近、中央区さんのおかげで、新道は石畳みになりましたし、カトウ・サインさんという会社の100年記念の寄付で、右のような道標もできました。これを頑張って地道に進めていけば多くの方に見てもらえる貴重な資源になると思っています。

新潟まつりに、今年も頑張って芸者さんたちが出ておりました。ぜひ皆さんで応援していただいて、新潟を盛り上げていただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## ■講演録

### パネルディスカッション

# 「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」

#### <出演者>

- パネリスト 田代 雅春 氏（北前船の時代館 旧小澤家住宅 館長）  
野内 隆裕 氏（路地連新潟メンバー・にいがた観光カリスマ）  
明間 博隆 氏（早川堀通り周辺まちづくりを考える会 理事長）  
篠田 昭 氏（新潟市長）
- コメンテーター 岡崎 篤行 氏（新潟大学工学部教授）
- コーディネーター 藤田 孝一 （中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」座長）

●藤田 それでは、ただいまよりパネルディスカッションを始めます。

私は自治協議会の委員であり、「水辺とみなとのまち部会」の座長をした関係からコーディネーターをやらざるを得なかった藤田孝一と申します。パネリストの皆さんを含めてどうぞよろしくお願ひいたします。

今日のテーマは「北前船をシンボルとした未来のまちづくり」ということでお話を進めていきたいと思ひます。

パネルディスカッションの前半は、4人のパネリストの皆さんから、それぞれの立場で「これまで活動してきた貴重な経験」を語っていただきます。後半は、その体験を踏まえて北前船時代をどうやって活かしていくか。「未来のみなと新潟のまちづくり」について、忌憚のないご意見をそれぞれお話しいただこうと考えています。

最初に田代館長さん、北前船の時代館として、大変最近脚光を浴びてきました。旧小澤家住宅の館長として、小澤家の歴史と、その当時の街の様子、それから最近何か子どもたちのために文化遺産を継承したいために教育を寝泊まりしてやっていると聞きました。そのような話を含めて、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### これまで活動してきた貴重な経験

●田代氏 旧小澤家住宅、北前船時代館館長の田代です。どうぞよろしくお願ひします。

岡崎先生からお話ありましたように、重要な建物ということで、江戸の19世紀の初めに、小澤さんが新潟の街中に住まわれたという、非常に古い歴史があります。スクリーンを見ていただきながら進めたいと思ひます。

これは、少しでも新潟が天高く飛べということで、鯉のぼりを掲げています。5月はどうぞご覧になりに来てください。また雪が降って大変積もったりすると、木造建築なので寒い、そういうところです。

小澤家の歴史と合わせて、現在、旧小澤家住宅で「みなと新潟と文化遺産の継承」のために、どのような企画を実施しているのかを中心に、少し横道にそれるかもしれませんが、お話しさせていただきたいと思ひます。

これが新潟島にある歴史的建造物の1つ、旧小澤家住宅です。岡崎先生の写真とちょっと違います。実は1階は上げ戸になっております。これは後でお話ししますけれども、当時の一番古い時代のときに合わせて整備をされております。こちらの塀が上大川前通で、ここが北側の小路になっております。

小澤家は幕末から経営の規模を大きくして

きました。1850年、1865年、1877年と、帳簿がございまして、これらの古文書が残っております。また、小澤七三郎さんは、幸運丸という模型を奉納しておりまして、明治11年ごろ、商売がさらに繁盛していくことになります。これは新潟町の廻船問屋をやっている方々も同様のことです。

そして、先ほど出て来た、この建物が小澤家の昔の建物です。昭和の頃に残っていたものは直して、これを原型に今も整備、上げ戸などを直しているところです。

小澤家は廻船問屋、回船業、米穀委託販売ということで、明治26年、「引き札」という年賀状相当のものを出しました。大新潟湊展の展示で加賀市の資料館からお借りして展示したところです。

皆さまのお手元にある旧小澤家住宅のリーフレットをご覧くださいますと、「小澤家住宅の建物について」「小澤家とは」、そして「庭園について」ということが書いてありますので、これを読んでいただきたいと思います。

庭園コンサートの会場です。非常に古き重要な豪商の建物でしたけれども、ここをうまく利用して垣根の低く、皆さまから気軽に来ていただけるような庭園コンサートなどをやって、いろいろな運営に努めています。

旧小澤家住宅について簡単にまとめたものです。米穀商、回船業、廻船問屋等、数々の商いの繁栄をもって現在の敷地になっていて約500坪ございまして。母屋、土蔵、その他一連施設も、ほぼ町家の典型をじかに見ることができます。岡崎先生がおっしゃったとおりで約260坪ございまして。そして建造物7棟と庭を含む全ての敷地が指定されております。

先ほどありました、子どもたちが道具蔵の中を見えています。道具蔵の上には、平山先生が、火事の、この辺のところに焼けた跡がありまして、この建物は明治13年の建物とおっしゃっていましたが、実は、先週、このところに「安政4年巳年6月」というものが出

てきまして、この鍵をここに合わせたところ、ぴったりと合いました。そのようなことで、今まで道具蔵につきましては、明治13年以前の建物と発表していたのですが、今日から江戸時代の幕末の建物、幕末に建てられた建物と変えさせていただきたいと思います。来年の子どもたちの宿泊体験には訂正をしたいと思っております。

なぜ分かったかということ、9月6日から、錠前と鍵展ということで、この道具蔵の展覧会をやるために油できれいに拭いていたところ、よく見えてきて、さらに錠前を合わせて分かったということです。どうぞ、皆さん、ご来館をお待ちしております。

さて、この北前船の明治22年のころの資料ですが、実は新潟には貴重な新潟漆器という伝統工芸品があります。新潟仏壇と合わせて新潟市に指定された2つです。先ほども話が出たように、新潟のこの漆に関する商いの店が、先ほどあった町家のところにずっと並んでいました。繁栄が伺えるかと思えます。

先ほど見ていた子どもたちです。子どもたちは26名。第1回目をやったとき、これだけの人数がいた人たちが、全部泊まっていたら、後ろがスタッフです。実は、子どもに「走るな」と言うと走り出して大変でしたが、宿泊してお化け大会をやったら大変怖がって、私の布団の中に入ってきて寝る人とか、そういうことがありましたが、無事、元気で楽しい顔をして、成長して帰っていかれました。

この子どもたちも含めてですが、もう一度、岡崎先生の話にもありましたが、かつての新潟町というものを知ってみたいと思います。ちょっと復習になります。ここが信濃川です。一番下のところから一本、大川通り、上大川前通です。本町通、東堀、そして古町、西堀、そこには川が2つ流れている。一番のところが、一番堀、二番堀、三番堀、四番堀、五番堀ということで御祭堀。小澤家はちょうどこの辺になります。

この頃は、1698年ですので、小澤さんは来ておりません。このころは、鳥屋野潟付近の長潟に住んでおられて、その後、こちらに移ってきます。

これは1823年のことですが、ここに小路の名前が書いてあります。「茂作小路」「思案小路」ちょうどここが小澤さんのところになります。このように、新潟の街並みは、今の姿、そっくりそのままになっています。そして、これを今度、今の新潟と合わせて見てみたいと思います。

実は、私が言いたいことは、この中に宝が山ほどあるということです。新潟の旧税関がここです。西湊町通をまっすぐ上っていくと信号が一切なく、東堀につながります。そして川が青いところです。昭和の時期も、私の住んでいた子どもの時代にも、こういう川がまだ残っておりました。そして、ここが上大川前通、ここが本町通、東堀、古町、西堀です。こういうまちの構成がそっくりそのままあり、昔の佐渡汽船はテレビ21というところにあったわけです。

そして、入船町通から湊町という幹線道路があつて、榎谷小路に来るという郷土資料館の郷土資料県道です。ここに碑があつて、ここから京都へ幾つと、何キロ、何里というのが今も残っております。

旧小澤家住宅はここにありまして、旧税関がここです。今日、早川堀関係の明間さんのお話が出るころはこの部分です。そして野内さんはこちらの日和山。東堀からまっすぐ上っていくと最後は海に出る。その途中です。そして洋館関係のある、大畑の別荘である旧齋藤家別邸がこのようにあるわけです。新潟奉行があつたころは、今のNEXT21、この場所でございます。

そのようなことで、私たちはこれから旧小澤家住宅について、みなとぴあ、旧税関、そして早川堀を通じて、この旧小澤家住宅のところ、それから、旧齋藤家別邸とつながる関

係を構築していけたらと思っています。

明治14年ですから、1881年、この頃はまだ萬代橋はございません。小澤はここにいたわけです。現在はどうなっているかを昔の地図と合わせて見てみますと、こういう関係かと思えます。

みなとぴあがあり、ウォーターフロントがそろい、みなとオアシスがあり、そして早川堀が整備され、旧小澤家住宅、日和山ゾーン、そして旧齋藤家別邸のゾーン、そして、花街、りゅーとぴあゾーン。さらにはBRTとか、対岸にはメディアシップ、朱鷺メッセというようなまちの整備が進んでいるわけです。私たちの歴史は、この古い歴史と今というものを比較しながら考えていくことが1つの大切なことではないかと思えます。

旧小澤家住宅を振り返りますと、旧小澤家住宅は商家小澤家の店舗兼住宅。かつての新潟町における町家の典型例であり、一連の施設がほぼそのまま残されています。新潟のみなとまち新潟の歴史文化を垣間見ることができる。また、かつての新潟町、旧新潟町ですが、これも江戸時代に都市計画化されたみなとのまちであるということも、岡崎先生からあつたとおりです。

ところが、この新潟町は、文化資源が徐々に失われながらも、まだ残っている貴重なゾーンであるということも、今一度、皆さんでまちづくりをする上で大切なキーワードになるのではないかと思います。

これは旧小澤家住宅、新潟大学の学生と一緒にやった「来なせやしもまち」という景観ライティングの実験です。「おいでよしもまち」ということで平成26年2月2日の日曜日、いろいろ茶の湯どころをつくりながらやったところです。ただ、「おいでよしもまち」というと大学生にとっては分かりやすいのですが、おいでよというと生意気だということで、皆さんの名前の批判もあり、「来なせやしもまち」に変わっております。

廻船問屋、北前船の繁栄の裏には、みなとぴあでも述べていたと思いますが、蒲原平野、西会津、信州などの内水面の豊かな基盤があったからこそ港としての発展がある。それは、再認識としては、北前船、内陸、内水面ゾーンイコールみなとまち新潟ゾーンであって、北前船の意味する範囲というのはとても大きいのだと、それをあらためてまちづくりに際して考えていく必要があると思います。

それをイメージしたものが、今、私たち、旧小澤家住宅を通じて、みなとまち文化景観ゾーンの都市軸として、今、下町を見ております。この下町の背景としては、豊かな田園文化景観ゾーンの都市軸があり、そして水と土の自然力、そして治水の能力、そうした田畑ができ内水面地域の繁栄があればこそ、みなとまち新潟は繁栄できたということをしつかり頭に入れ、しかも、遠く越後山脈の自然の力の恩恵を受けながら、水と土と、水と共に戦い、水と共に繁栄してきたみなとまち。この大きな新潟市域こそが、みなとまち新潟だという視点で、まちづくりを考えていく基軸ネットワークがとても重要ではないかと考えております。

子どもたちが、そうした日本和風建築の歴史と文化を知ることです。元々小澤家は何屋さんでしたか、八百屋さんですか、お米屋さんですか、魚屋さんですかと聞きながらクイズを出す、三択で選んでいただくような体験をしながら、新座敷の建築、庭の見学をしたり、新潟漆器のお膳を使って夕ご飯をみんなで一緒に食べたり、からくり人形の熱演をやったり、そしてからくり人形の「きつね変身回り灯籠」。これですが、この灯籠がぐるぐる回って、人間がいつの間にかキツネに変わるということで、恐がりながら見て、そして蚊帳の中はなぜか楽しそうでございます。

そしていよいよ肝試しです。怖かった、でも楽しい、そんな一瞬でございます。そして下町界限の早朝散歩ということで、日和山へ

行きまして学芸員の説明でまちの話をし、最後、公民館でコミュニケーションをやって、他校の子どもたちとの交流を図るというようなことをしました。

これは皆さんと、今年の8月18日に撮ったものですが、後ろのメンバーが3回目になりますので、非常に増えて、スタッフがだいたい同数くらいいるようになって、何とかこれが続けていければ、子どもたち20人から26人くらい、このメンバーが10年たてば、200人、日本文化を知った子どもたちが育つ。そんな活動を通じて、歴史、文化、そして新潟ふるさととは何か。そんなことをしつかりつかんでもらえるものをつづけていきたいと考えております。以上でございます。

●藤田 素晴らしい。10数分で新潟市の町がどのようにできてきたかも含めて、子どもたちの教育と、初めてのお話を豊富にさせていただきまして、ありがとうございました。

次は野内さん。野内さん、知っている人は知っているのですが、新潟のまちづくり、あるいは新潟の小路を研究なされています。皆さんのお手元にある「小路めぐり八景」のマップ。新潟の下町歩きとか、こういうものが載っています。こういうことを数年前から研究して、それをちゃんとしてつくって、デザイン賞をもらっているということです。

その活動の、やってきた新潟の小路めぐりシリーズの中で、日和山のこと、再生を考え出して、今一生懸命やっています。その体験談をこれから、新潟の面白さということで、お話をお願いいたします。

●野内氏 よろしくお願ひいたします。私は昭和43年生まれの人間ですので、まだ若輩者でございます。昔は魅力的だった新潟、昔の新潟は魅力的だったねという言葉もよく聞くのですが、そんな昔のことはよく分からないわけです。それよりも、今現在、自分が自分

のまちを見ているときに、結構いいものとか、これは大事にしたほうがいいなと思うものがあるのです。ですから、ここ何年間ずっとやってきたということは、何々が魅力的な新潟、そういうものを前面に発信していければなど、そういうものを大事にしていきたいと思って活動しておりました。その1つが小路めぐりだったわけです。

実は小路めぐりよりも、もっと前からやっていたのが日和山です。今日はその日和山の話をおもわせていただくので非常にうれしいのですが、この何年間かの、日和山の変遷を皆さんに見ていただきたいと思います。

「みなとまち新潟日和山、進化する日和山物語」と、たいそうな題をつけていますが。左側の写真が2000年、14年前の日和山です。右側が2014年、つい2週間くらい前の日和山です。ずいぶん変わりました。こんなふうになって、まだ日和山。日和山展望台とか、日和山海水浴場で泳いだことがある人っているのですが、日和山に行ったことがないという人が結構いらっしゃるんです。

この日和山というのは、新潟だけにあるわけじゃなくて、北前船、千石船、いろんな船が帆船の、港町に結構あるのです。これは日本海側だけではなくて、太平洋側にもあるわけです。だいたいその岬のところにある小高い山で、そこから船や港を見渡していた小高い山なのです。×印がいっぱい出ていますが、実はこれだけ、全国に日和山があるのです。

新潟の東堀通13番町の場所にあるのですが、もちろん水先案内の場所としてもにぎわっていたわけです。詳しい歴史は、お手元の「下町あるき」に書いてあるのですが、さまざまな新潟のまちの変化によって、人々から忘れ去られてしまいました。これは2006年の日和山です。上にお社があります。

ほんとに山頂の住吉神社があるのですが、荒廃していてシロアリだらけでぼろぼろになっています。ここに行く人もあまりいなかっ

たのです。よしんば、行ったとしても、とにかくネコやネコのウンチばかりで1回でもここで踏んだら、もう行きたくないという場所だったのです。

こちらでは、昭和42年から地元の開運稲荷神社の久我さんと、皆さんが、日和山の住吉祭を復活させようということで、ずっと7月19日、20日の海の記念日に住吉祭をやってくださっていました。僕、ほんとに、この下町の風景の中で一番好きな風景で、狭い日和山の上でやっているお祭りのこの風景が新潟の下町の資産だなと思っていて、すごく大事にしたいなど。そして、これを大事にされている方がいらっしゃるということをもっとたくさんの方に知ってもらいたいと、常々思っていたわけです。

そのようになっていっても、荒廃はどんどん進んで、岬案内発祥の地、下町に光を、それから、港を抱える上で欠かせない場所だということで、関わっている方は日和山の意味を知っていて、これを輝かせようとしていたのです。その一助になればと、私ももの好きな人間ですので、自作の地図みたいなものをつくって、このころ、2000年くらいからホームページで1997年からやっています。このように日和山の歴史的な面白さとか、そういうものを発信していったわけです。町歩きで日和山に登ったりとか。標高11メートルしかないのですが、日和山登山のしおりなんてつくっています。

こんなことで「ここ、いいね」と紹介していますと、「そこ、面白いね」ということで、協力してくれる方がどんどん出てくるわけです。2001年から昨年の2013年まで、12年間活動しておりました「にいがた寺町からの会」では、いろんなメンバーが集まってきてくれて、寺町談義なんていう講座をやって、実際に現地へ行こうなんていうので、こういうことをやったりとか。

それから、せっかくだから、日和山の住吉

祭以外に、春のチューリップを花絵か何かで、日和山をにぎやかにして、人に来てもらって、何か楽しそうなことをやっているな、ここ、と。そして、上がってみて、ここは何なんだろうという話から、いや、ここはこういう場所なんですよと、興味を持っていただいて、その歴史に触れていただくような仕掛けをずっとやっていたのです。

花絵で北前船をつくったり、方角石をこのように注目してもらうように飾ったりして、これを何年か続けていたところ、地元の方々にも協力していただきまして、宮司さんにも協力してもらって、夏の祭りではないのですが、ここで皆さん、手づくりのお祭りをやったりして、だんだん、まち歩きの拠点になってきたところですよ。

ここでは長岡造形大の方々とか、新潟大学の岩佐研の学生さんとかに手伝っていただきまして、このように盛り上げていきました。少しずつ、そういう形で日和山を盛り上げようという気運が高まってきて、やはり発信していくところで大きくなっていくのでしょうか。

2007年に新潟市さんから、小路めぐりと一緒に、時間はかかるけれど、日和山の整備に、新潟市も取りかかろうということ、ここで、官民一体となって、どういう整備をするのがいいのかということで日和山委員会を立ち上げました。座長に新潟大学工学部の岩佐先生になっていただき、どういう整備が必要なのかを検討して計画をつくっていただきました。

江戸時代の絵師長谷川雪旦がこの山の上から新潟市を見渡していた、この眺望ですね。それから、山の上でやっていた祝祭。大黒舞とかえびす舞とか、お神楽の場所です。ですから、その眺望を確保する場所。それから、まちの祝祭をやる場所。まち歩きの歴史アーカイブの拠点として、こういうものを大事にしようというところで、まず一番最初にやっ

たのは、何を大事にすべきかということをはっきりさせた上で、次は眺望を確保するにはどうしたらいいかと。

当時、この日和山の上というのは、木で囲まれて、何も見えませんでした。全部切っちゃえばいいかということではなくて、全ての木の枝をチェックして、この枝を切ると西堀通が見える、この枝を切るとみなとびあが見えると、そこまでチェックした上で整備したのです。

山頂にあった石碑を7合目というところをつくって、そこに日和山の歴史アーカイブという形の案内板、それからこの石碑を移しまして、夜でもこの日和山がシンボルとして光り輝く夜の照明デザインなどにしたりしました。山頂からの眺めも、新潟の町が見られるような形になりまして、日和山の魅力を活かした整備がされたわけです。こういうものが完了して、山頂にある神社は市が整備するわけにはいきませんので、かなりのお金だったのですが、地元の人たちがお金を出し合って何とか集めてやったわけです。

これも歴史的文化的価値を損なわない設計に気をつけてやりましたので、今度ぜひ、日和山の山頂に上がったら見てください。住吉神社は、例えば、こういう梁の部分とかは、昔の材をそのまま同じ場所に使ったりとか。色が濃いところが昔の材です。このような形で作りまして、地元の人たちで力を合わせ、行政がやってくれるところはやり、今度は民間でやれるところは民間が力を出してつくったというのがこの住吉神社だったわけです。そのような形で、数多くの人々の熱意によって日和山が再建されたというわけです。

ここまでが再生の物語なのですが、その後もそれで再生して、はい、おしまいということではなくて、それが活用されてなんぼだということで、2010年からはまち歩きの拠点としてどんどん進化させようということで、ハードの整備は終わったわけですから、今度は



ソフトとしての整備として、今日、お手元にある「日和山登山のしおり」というものをつくったり、紙のペーパーだけではなくて、新潟にはシティガイドさんという方がいらっしやあって、そういう養成にも関わらせていただきました。

今はみなとぴあから、この日和山までを、その北前船、みなとに関係ある名所、点を線で結んで、最後に日和山に上がり、そこから下本町市場におり、旧小澤家住宅に行って早川堀も通って、またみなとぴあに戻るというコースが、今一番の人気のコースになったりしているわけです。また、もの好きな有志がいるもので、日和山の5合目に歩いてきた人をもてなすような、そして日和山を眺められるような場所をつくろうと、今5合目がつくられております。

こんな形で手づくりなのですが、長い時間、かかりましたけれども進化してきた、再生して、そして進化し続けている日和山が新潟にあるわけです。

先ほどの岡崎先生や皆さんのところで地図がいろいろ出てくると思いますが、では、日和山は新潟のまちでどの辺の位置なのか。それは知っているよという方もいらっしやいますが、この動画を見ながらだいたい位置を見ていただければと思います。

これはほんとに日和山の山頂です。日和山と言っても11メートルしかないわけですが。先ほどの寺町の先に日和山があるわけです。ここに西堀の寺がずらっと並んでいて、この突き当たりに日和山があるわけです。このように高いところから、これはなかなか見られない場所ですけれども、きちんと新潟のまちが整備してつくられているのが分かるわけです。

日和山といたら、皆さんが知っている日和山浜、日和山展望台がこちらになるわけです。東堀通13番町からずっと道をまっすぐ行くとこの展望台に行く。その道の途中に日和

山があるわけです。そして、昔は日和山の前くらいまでが港だったわけです。ここから新潟の下町エリアがあるわけです。今度、ここが日和山小学校という名前になるわけです。このくらいの距離だということです。

先ほどの西堀や本町通りと違って、この辺は道があちこちに向いているわけですが、これにもきちんと意味があるわけです。全国の中で、日和山から海が見えない場所というのは、たかだかないわけです。新潟の日和山でなぜ海が見えなくなってきたか。それは、シティガイドさんが日和山に来て、その話をするだけでも新潟の歴史に触れられる場所なのです。海が見られないから価値がないかということ、そんなことはなくて、だからこそ、新潟の歴史が語れる場所、それが新潟の日和山ということです。

こういうことで、皆さんの力を合わせて、何とかここまで来た日和山なのですが、こんな形で官民の協力のもとに、いろいろできてきた日和山です。ぜひ、まち歩きの際に寄っていただけたらと思います。以上です。

●藤田 素晴らしい。日和山に湯引きをやって、新たに建て替えたという実践の話を詳しくお話ししていただきました。

話す予定の原稿は全部あるのですが、時間が押している関係から、次へということで進めさせていただきます。

今、下町の話になっているのですが、下はやはり貴重な文化遺産が点在している。今、少子化・高齢化から、もろにそれを受けているのですが、人口減が著しい下町で、そして高齢化ということも知っていますね。その中で、下町の再生、活性に意気盛んに取り組んでこられた町民の皆さんがいらっしやるわけです。それは早川堀通り周辺のまちづくりで、活性化のために町を考える会をつくって、8年間頑張ってきた理事長の明間さんからそれまでの話の経過や特徴点など、ちょっとお話

ししていただこうと思います。

明間さん、よろしくお願いいたします。

●明間氏 よろしくお祈いします。私たちは新潟市より、早川堀沿線自治町内会と下町の有志の方に、この整備計画を事前に話をいただきました。なぜ、こういうことを新潟市さんがしたかという、この話が入る前の、約10年前に同じような話がありました。それは行政主導のもとで、早川堀再生をしようという考え方があって、ある程度、設計図そのものもできていました。それが結局、地域住民の反対があった。なぜ反対されたかという、昔の早川堀というのは、汚い、臭いというイメージが強すぎたために、全ての町内会が反対したのです。中の住民たちには、賛成される方もいたのですが、総意を取ると反対されたために、計画が飛んでしまったことがございます。

そこで、まず住民に話し掛ける前に、自治会長及び有志の方に十分な市からの説明がございました。1カ月、2カ月という時間の間に、何十回という市との話し合いを終えて、これで大丈夫だという時点で地域の方にお話を下ろしていきました。

下ろす前に、まず、この地域に対して、私どもも住んでいるのですが、ここに何かあるかまるで分からないのです。あったとしても、翌日建物が壊されると、これは何だったんだろうというの分からないために、地域をみんなで知ろうということになった。これは、8畳くらいの地図をつくって、ここに何かある、ここに何かあるというのを再確認しました。

そして、新潟市へ提言書を出すと。こういう町をつくってくださいというのを市長に提言書を出すときに、こういうことを私たちは考えてお祈いしたと。第一に人中心の道路として計画してくださいと。下町情緒あふれる町に計画してください。沿線住民、若者が集

える場を計画してください。やすらぎある水辺空間を計画してください。四季を感じる緑を計画してください。

沿線住民から一番問題になったのは、市の土地に各自が勝手に食い込んできていたのです。それを計画する時点において元に戻してくれと言われると、それも逆に反対だという話がありました。それは現状維持ということで、今後、直すときには引っ込みますという条件つきで、市に納得していただきました。

この計画の工事に入る前に、先進事例を勉強しました。なぜかという、ただこういうものはつくればいいというものではなく、いや、先進事例でもいいところはあるし、悪いところもあるというのを、何十というまちづくり学校の先生方や講師から勉強させていただき、また、私どもも現実的に勉強していきました。

今度は設計者から、図面上の話と、その模型をつくって現実的に、ペーパーの上で見るより、模型でちゃんと、ここで何々をつくり、ここに何々があります、ここに高い建物がございませと。ここには駐車スペースをつくりませと、逐一、設計者からこういうふうになりますよというのを、とにかく納得するまで話していただきました。

つくる以上、歩道もレンガを敷き詰めたほうがきれいだよと言いながらも、ではレンガを敷くにしても歩道と自転車道はどういう色合いにしたほうがいいのか。また防犯灯、街路灯はどの色がいいのか。どの高さがいいのか。植栽に対しても、今までは早川堀といえはツツジ。では高木（こうぼく）はどうするか。新潟は柳だ。柳かね。柳だっただれれば、おめさん、通って歩けば目がぶつかったらどうするんだとか、いろいろなことを話し合っ、1つ1つクリアしていきました。

これは、早川堀に植えてあったイヌエンジュの木なのですが、大きくなったイヌエンジュを伐採して、これをベンチとして使おう

ではないかと、早川堀には20基ベンチがございますが、15個のイヌエンジュの原木でつくっております。

これは、受注業者が工事を市から請け負ったときの説明会です。ただ説明会をするだけではなくて、要するに工事が何月何日から始まるという事前の説明会をしたうちに、なおかつ、今度は地先の人間、自分の家の前が工事に入るときは、あらためて、その工事関係者から一軒一軒にお断りしていただき、それで納得した日でやってもらう。そういうことは慎重に、また丁寧に工事をやっていただきました。

これは第1回の定期総会を開催した模様です。このときに初めて、前に考える会の設立総会はしていたのですが、今後、この道路の維持管理も考えて、この団体をちゃんとした組織にしていかなければいけないということで、この定期総会というものを、会則から全てのものを決めて、正式な会として発足させていただきました。

工事についての説明はこれで終わりですが、工事に関しては、小さなことでも何でもいからみんなで話し合いをし、「あんた、何言ってるの」という話だけはやめましょうと。全てのことをみんなとにかく聞いて、お互いに納得した上で工事を始めると。絶対に、住民を置き去りにしたり、悔いを残すような工事はしたくないというのが私たちの考えのため、この8年間で333回の会合を開きました。

それと、アンケートというのが非常に悩ましいもので、アンケートを採ればいいものだと考えられますが、アンケートというのは、意外と独り歩きしてしまう場合があるので、それを十分に踏まえてアンケート調査を発表していかないといけないのではないかと考えております。

工事に関しては終わりますが、新生早川堀ということで、これがつつじ祭りの前夜祭です。これはテープカットです。

このように、できあがれば、ものすごく人がにぎわいます。これからは、私たちの活動もどうしていくかというのが、本当のこれからの課題だと思っています。まだ正念場だと思っておりますので、今後とも皆さま方のお力を借りて、この早川堀、下町を繁栄していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

●藤田 ありがとうございました。大変な苦労話で、一人のご意見を大事にする。一步一步進んできた苦労話をありがとうございました。できた後の祭りも素晴らしかったと思います。

それでは市長さん、ここで3人のパネリストのお話を聞いたところで、どうでしょうか、北前船が果たした新潟の役割について、あるいはパネラーのことについて、ご感想、ご意見など、よろしくお願いいたします。

●篠田市長 まずは、今回のフォーラム、中央区の自治協議会から主催いただいています。鳥屋野潟に次いで2回目でしょうか。本当に、自治協からこういうフォーラムをやってもらうというのは、本当にありがたいと思っております。

そして、今、3人の方から素晴らしい取り組みのお話があって、あの下町、日和山のエリアだけでも、この素晴らしい3つの取り組みがある。やはりこういうまちづくりの最前線で、住民の声をしっかり聞きながら、住民と共に頑張っているリーダー、牽引役がいることが、まちづくりの大きなポイントだなとあらためて感じておりました。

冒頭に岡崎先生から新潟のまちについてのお話があり、私も新潟のまちは、江戸時代で最も北前船で栄えたみなとまちですが、その、みなとまちということが、今の新潟に伝わってこないということを残念に思っている一人

です。

新潟は、昔は、本当に新潟に行ってみないと、行ってみたいまち、ということだったようです。幕末のころは、例えば吉田松陰とか、清河八郎、当時の勤王の志士のスタークラスが続々と新潟みなとに訪れていたということだったようです。これは新潟みなとが、まさに繁華のみなとということで、全国に知られていたことが一番大きいわけです。勤王の思想的なイデオログの一人であった、竹内式部（たけうちしきぶ・たけのうちしきぶ）がいて、竹内式部先生が生まれた新潟に行って、学んでからまた勤王の道に進んでいくんだということが、勤王の志士たちの言い訳だったようです。本当は日本一繁華のみなとと言われた新潟みなとで遊んでみたいということも、一面の真実だったようです。

明治時代、大正時代、昭和の初めまで、新潟は文人墨客、新潟はいろんな文化人が、新潟に呼ばれなければ一流の文化人になっていないということだというくらい、新潟の評価は高かった。それが、昭和10年代、あのブルーノ・タウトというドイツの建築家が新潟のまちを訪れて、そのとき彼が言った言葉が「日本一俗悪なまち新潟」だったようです。

この変化がどうして起きてきたのか。しかし、ブルーノ・タウトというのはまじめなドイツの建築家ですので、そのブルーノ・タウトが日本一俗悪なまちと言った新潟は、実は日本一面白いまちだったのかもしれないという感じもしています。

そのブルーノ・タウトの言葉にかちんとして、坂口安吾が『日本文化私観』という中でブルーノ・タウトをコテンパンにやっつけている。我々は日本人なので、日本人本来の良さというのは自然と分かるのだと、あんな宇治の平等院のような形式美を崇め奉っている外国の人間と我々は違うと書かれていて、私はあの『日本文化私観』が大好きなのですけれども。

そういう面白い作家を出した新潟のまちが、昭和30年代以降、どんどんリトル東京化し、ミニ東京化していったのではないかと思ひ、それが決定的だったのは、昭和39年の新潟国体、またその後の新潟地震があったことだと。新潟国体の前までに、新潟の堀は全て埋められたわけです。あれが、もう10年後に新潟国体だったら、きっと新潟の堀を全部埋めるという判断はなくて、何本かは活かしておこうということになったのかなと。ちょうど高度成長期で、まさにどんどん変わっていくことはいいことなのだ。モータリゼーションに一番、ある意味では安直に、またある意味では一番手っ取り早くモータリゼーションの道を歩めたのは堀を埋めた新潟だったということです。

どうしてあのとき、当時の県庁前まで延びていた電鉄を西堀、東堀に延ばさなかったのかなと。あのスペースは十分にあったわけです。新潟の人間は、新しもの好きで、どんどん変わるのはいいことだと、当時思われたのではないかと感じています。

私は昭和47年、1972年に新聞記事になって、新潟のまちを新聞記者として見てきたわけです。昭和40年代、50年代、あるいは昭和の時代、申し訳ないのですが、当時の新潟市役所は一刻も早く、ミニ東京になりたい、この古い嫌な新潟の要素をなくしたいという思いが大変強い感じがしました。

屋台をなくそうと、私の大好きなラーメンの屋台はみんななくなってしまい、今の本町のところの人情横町ですけれども、あれは不法建築なので、あれはなくさなければ駄目だと。そのときの新潟市役所の幹部が私に「日報さん、あの東北電力の建物が違法建築だということを知っていますか」と言うから、「いや、何のことだか分かりません」と言ったら、「あれは人情横町をつぶすことを前提にあの建坪率が認められているので、人情横町があると、あの東北電力の建物は違法建築なんだと。こ

それは大きなニュースではないですか」と言われたのだけれども、結局、その人は、それをニュースにさせて人情横町をつぶすために使いたかったのだらうと思うのです。私はあの人情横町が大好きだったので、そういう記事は書きませんでした。

そのくらい、新潟の古い要素、昔の要素を消していきたいというのが、昭和のころまでの行政の姿だったのではないか。それが平成になるころから、早川堀通、一度は堀を再生しようという話が平成5、6年にあった。その辺りから、やっぱりこれからは、歴史を大事にした昔の新潟というのは、こういうものだった、それが今もこうなっているということを伝える個性的なまちづくりをしなければ駄目なのだと変わってきたのが平成辺りかなと感じています。

私もこういう立場になるときに、いろいろ考えて、やっぱり新潟は見るところがない、新潟なんか案内するところはありませんとタクシーの運転手さんがおっしゃっていたり、経済界の偉い人もそんなことを言っている。しかし、それは見るところがないのではなくて、あなたたちが、知らないだけなんじゃないかと。

新潟はこんなに面白いところがいっぱいあり、見るところがあるのに、それを見る目がないのが今の新潟人なんじゃないかと感じて、あるもの探し、あるものをどんどん探して、あるものをどんどん磨きをかけましょうと最初の選挙に出たときに、1つのキャッチコピーに掲げさせてもらいました。

本当に新潟を見るといいものがすごくあるのですが、ちょっと分かりにくい部分も間違いなくある。やはりこれは案内人が必要だということで、シティガイドを7、8年前から養成することにしたら、当時の経済界の結構な立場の人が、「市長さん、やめとけ。新潟なんか見るところないよ」と、まだそうおっしゃっていたわけです。

そのシティガイドがあれだけ育ち、野内さんのさっきの話ではないですけど、日和山がなぜこういう日和山になっているか。シティガイドさんがいないと面白くないわけです。これ、偽物の日和山かなんてことを数年前までは言っていたわけですので。

そういう面で、案内人がいたら、こんなに面白い新潟、あるものを探せば面白いものがいっぱいある新潟というのがよく分かってきた。あとは、新潟の欠点として、いろんなものがあるのですが、点になって散らばっているんですよね。もう点でばらばらということで、これを何とかラインにし、ゾーニングにすると面白くなるんだよねと。

それが今、早川堀というラインができあがり、そしてみなとびあと旧小澤家住宅がそのラインによって結ばれてきた。ゾーニングも西大畑、そして花街、そして下町ということでもうできつつあります。新潟は行ってみたいらしい町だったのですが、行ってみたいまち新潟にするためにはどうしたらいいかというのが、これからの新潟の大きな課題で、その辺りで、岡崎先生の今日のお話で非常にいいヒントをいっぱいいただきました。

さらに、もう少しヒントと実践を重ねていくと、3年後、5年後、新潟は行ってみたいまちになれるのではないかと。こういう取り組みをやっていたらいい方がいらっしやるので、絶対になれると今日は感じました。どうもありがとうございました。

●藤田 さすが市長さんですね。大変よくご存じでありまして、明るい新潟の未来をちょっと語っていただきました。ありがとうございました。前半の最後は、先ほどご講演いただいた岡崎教授からコメントーターとして、少し気づいたことを一言お願いします。どうぞ。

●岡崎教授 やはりアピールというのは大事だと思うのです。今、篠田市長がおっしゃったように、我々市民がまず、よく認識して、それを言わなければいけないと思うのです。私、福岡出身ですが福岡も同じです。昔から観光資源がない、太宰府くらいしかないと言われていて、地元の間が何も無い、何も無いと言うのです。

ただ、福岡は地元の間が何も無いと言うのですが、よその人が「いやいや、あるじゃないか」と言ってくれるのです。屋台もあるし、いろいろあるじゃないかと言ってくれるんです。新潟はまだちょっと、そこまで、外にイメージが出ていけませんので、そこをどうやって出していか。さっきの花街、花柳界のことを1つ取っても、一生懸命やっているつもりではあるのですが、なかなか浸透しないのです。

さっき1つ言い忘れたのですが、皆さんの手元にお配りしたチラシがありますが、これは古町花街をテーマにしたシンポジウムを今年6回目になりますが、これも参加者が伸び悩んでおりますので、ぜひお運びいただければありがたいです。

今年は先斗町という京都のまちの方に来ていただきます。先斗町も花柳界があるのですが、狭い路地が長く続いていて、大変魅力的なまちです。京都は、金沢もそうですけれども、国の予算等も投入しながら、こういうまちを地道に整備してきました。祇園なんかはすでにもうばっちり、国の保存地区になっておりますが、先斗町は今までそういうゾーニングがなかったのですが、今、まさにこちらと似ておまして、地元協議会の下に部会をつくって、皆さん、地元の方とその話をたくさんやって、広告物の整理を自主的にやり、市のゾーニングをこれから受けようと、まさに頑張っているところです。その皆さんの話を伺いますので、ぜひお越しいただければと思います。

京都の花柳界は、京都市がつくった無形文化遺産に京都の五花街をしました。文化遺産として全面的に押し出していくということが進んでおります。将来的には世界遺産を目指すという話も出ております。何かアピールするためには、市民の方に地道に働きかけていくことも必要ですし、全国的に言えば、何らかの国の事業等を入れていくことが大事かなと思います。京都も金沢も数えられないほどの国の事業、新しいものが出れば全部やるくらいの勢いでやっています。

残念ながら、新潟のこの景観に関しては国の事業が、一切と言うと語弊がありますが、あまり入っておりませんので、そこら辺、導入できるように頑張りたいと思っているだけです。

●藤田 やはり新潟にもよく見てみると、いいものがちゃんとあるんだと、そういう認識、また見る目、そういうものが大事だと言いながら、例えば京都や金沢の花街の事例などを出していただいて、新潟にも誇れるものがあるという話をさせていただきました。どうもありがとうございます。

前半をこれで終わらせていただいて、早速後半に移っていきたくと思います。

## 未来のみなと新潟のまちづくり

●藤田 岡崎教授のアドバイスや、市長さんのお考えなどを聞きながら、今度はパネリスト一人一人から、「北前船の遺産を、現代、未来に向かってどのように活かしていくか」、それぞれのお立場で、お願いしたいと思います。

また、パネラー同士でご意見の違いがあったり、意見があったら途中から手を挙げてお話ししても結構ですので、お願いします。

旧小澤家住宅の館長の田代さん、ひとつ、どうですか。

●田代氏 パネルを用意しましたので、少し、飛ばすところがあると思いますが見ていただきたいと思います。

北前船の遺産を現在、未来に向かってどのように活かしていくのか。大変興味深いテーマではないかと思います。先ほどからお話が出ている新潟島という中で、文化財がいろいろあって、下町を中心として見ますと、旧小澤家住宅がここにあります。そして、税関がここで、みなとびあがある。そして、萬代橋がある。距離的に見ると、トライアングル式になっています。さらに、今回、早川堀の整理ということで、ここがつながりました。新潟駅がここです、新潟駅から歩いて来ても、25分くらいで来る。そして、循環バスが今、旧小澤家住宅の前に停まりますので、そこから新潟へ行ける。また、歩いて行くにも、こういうところを散策しながら、さらに日和山に行って海を見る。あるいは、下町の歴史的建造物のせがい造りやいろんな平入りの建物などを見ながら路地を歩いて、堀があると思って想像して通りを歩いて行く。

そして美術館、さらには旧齋藤家別邸、いろいろなところへ行きながら、さらには、海のほうに砂丘館等、いろいろなところへ行く。さらに、この道の流れそのものが、白山神社の一番堀とつながっていく。このラインを1つの大きな軸として、道1つ1つ、そこに住む市民一人一人が、1つずつつながらないと、ゾーン化はできてもなかなかつながらない。それを私たちは心掛けていく必要があるなと思います。

そうだとしますと、1つ1つ、今の歴史というものをもう一度しっかり見直す必要がある。私たちは新潟の歴史というと、意外に知っているようで知らない。みなとまちであるということの誇りと文化を実は捨てている。下町には、非常に幅広い心の文化が残っているわけで、人情豊かなまち。そうしたものを、開港150周年が4年後、あるいは5年後にな

るか分かりませんが、北前船をシンボルとして、現代、未来に向けたまちづくりに活かす。それはいろいろなところと連携していく。

新潟には、旧小澤家住宅も含めてボランティアの活躍が大変大きいです。このボランティアの人たちと、いかに地域に貢献するかという素晴らしい活動を一緒になって結んでいく。このことがとても大事なことではないかと思います。

そして、今ほどテーマにあった歴史的建造物と、現代の建物をマッチさせる観光のまちづくりに必要な視点というのはどういうものだろうかと、私なりに整理しますと、話すすと4分で終わりませんので一言にします。

一言にしますと、ここにある現代の建築と歴史的建造物の対比を明らかにして互いに質の高い魅力をマッチングさせること。そして互い共有する建造物等で、時代、時代がありますので、それを表現し、整備された観光まちづくりにするということがいいのではないかと。そのように思います。

ただ、今ある文化財の資源が、少子高齢化に伴ってどんどんなくなっていきます。下町も危機的状況に近くなっていると、私は思っています。せっかくこんないいものがあると言いながら、実は私たちは壊している。そんな姿というのはやはりよくない事態だと思います。そうしたことを、もう一度原点に戻って、文化資財を失わず掘り起こして活用すること。そしてそれは、早川堀のように、市民が主体となることではないかと考えます。

究極は至福の時間を自然に過ごせるまちにすること。私たちの心の文化を豊かにする、楽しむ。そのことこそが、まちづくりの原点ではないかと思います。

そんなことで、まず行動しようということで、私たちには時間がありません。どんどん、歴史的建造物は壊され、さらに駐車場になり建物はなくなっていきます。こんなことでは、せっかく新潟が歴史的にみなとまちと



して古くから歴史を持っているのにもかかわらずに失われている。そんなことで志のある有志で旧小澤家住宅周辺の歴史的まちなみを考える会というのを、8月に設立して、設立総会をしました。9月6日に旧小澤家住宅において、この会の趣旨とこれから、できるところからやっ払いこうと。私たちは、さっきは大きなことを言いましたけれども、小さなところからいいからまず始めよう。そんな活動を始めたいと思います。

旧小澤家住宅も中だけではなくて、外との連携もつなげていきたい。そんなふうを考えています。そしてそのエリアというのは、本当に小さいです。上大川前通に小澤さんがあって、この建物ももう壊されました。残念ながら、大正11年の建物で、新潟まつりのときはここを歩いて、写真を見るとこの2階で、みんなが群がって新潟まつりを見ていました。ところが、それはなくなりました。

こちらが昭和の建物です。非常に長屋で貴重です。お金持ちの建物もある反面、この下町の昭和の昔からの建物が残っている。こうした交差点のゾーンをまずしっかり整備し、あるいは外側だけでも整備をする。そういう景観を考える。そんなことを官民、そして大学、いろいろな方々と力を合わせてやっていきたい。そんなことを始めたいと思います。そして、このエリアの人たちがその会員になり、それに全部が賛成にならないと思いますが、有志の方々と、まずできるところから始めていこう。そんなことを始めたいと思っています。

そして、今ほどありました、今言ったこの旧小澤家住宅の周辺の景観を考えるまちづくりが進むことを通じて、また早川堀のこの景観が変わっていくこと、そして各々の関係する歴史的通りがみんな変わっていく。さらには、こちらの歴史的な道があらためて、みんなの心に入っていく。それが実は新潟のまちのベースであるということが、みんなが知

り合うことを通じて、本当にまちが誇れるまちになってくるのではないかと思います。

先ほど言いましたつながり、基軸のネットワークが今、この地域でやるのだけれども、私たちはまちづくりをする上で、大きな新潟町、新潟政令指定都市そのものをしっかり考えて、都市軸の基盤ネットワークを篠田市長のもとで、今構築されているわけですから、さらにそれを構築して行ってやっていく。そして新潟にはキーワードである北前船が生んだ新潟市の伝統工芸品がございます。それは先ほど言いました新潟漆器であり、新潟仏壇であります。

私たちもこの商品を買う、あるいは育てる。そしてそれを支えるような地域になっていく。そのことが本当に誇れるみなとまち新潟になっていくのではないかと思います。

そして、私から最後になりますが、県内外にみなとまち新潟、北前船のふるさととして、観光デビューする秘策はいかに、ということで、ぜひ皆さんから、せっかくのパネル討議でございますので、聞かせていただければ。そして、秘策はないけれども、こんなことをすればいいんじゃないかということやぜひ聞かせていただき、4年もしくは5年後の、新潟開港150年祭のおまつりを機会にして、持続可能な観光シンボルの整備を行って、県内外にみなとまち新潟、北前船のふるさととして観光デビューするような秘策、あるいは何かないものか会場の皆さんのご意見を伺いたいと思います。また一緒に考えていきたいと思っています。

これからもどうぞ、旧小澤家住宅、そして周辺みんなで頑張りますので、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。よろしく申し上げます。

●藤田 北前船を将来どうやって活かすかということで、旧小澤家住宅の周り、周辺を考えて、新たな出発をまたしていくということです。将来は、4、5年後に迫った、開港150周年に向けて、市民の心を1つにして、歴史的建造物を大事にしてこれからやっていきたいと思いますという話をされたと思います。ありがとうございました。

野内さん、あなたも観光カリスマみたいな人で、大変勉強して実践しておられますが、あなたの考えは、未来はどう考えていますか。

●野内氏 観光カリスマはやめたいのですが…、秘策という話です。秘策の策というと何かやるべきことみたいな感じです。それはもちろん考えていかなければいけないことですが、私は今、この時間で話したいのは、やっていることを大事にしてほしいなということです。

それは何かというと、もちろん、これから新しいことにチャレンジしていかなければいけないと思いますが、方向性を定めて始めたのであれば、それはある程度、やはり継続していかなければいけないと思います。

さっき篠田市長も言われたように、ほんとにこの新潟には何もないというネガティブな思考との戦いというのは、この10何年間かの行動であるわけで、本当になにくそと思って、そこで文句を言うだけではなくて、まずそういうものがあるなら、自らやってみようと思ってやってきた活動です。そこにいろんな方の協力があって、今ここに結実しているのが先ほどの日和山もそうですし、西堀の寺町についている案内板、それから各小路についている案内板、それからシティガイドの存在、個々の旧小澤家住宅、早川堀というハードができてきているわけです。

そこを結びつけるものとして、今日のこの、みなとぴあから日和山であれば、日和山登山のしおり、白山神社から日和山であれば本町

編、古町への小路めぐり、そして、西大畑、白山神社から西大畑を通過して日和山へ行く坂道めぐりという地図ができたり、沼垂も去年地図ができましたし、今年はその間を結ぶ流作場の地図ができて、これをちゃんと結んでくださっているシティガイドさんの活躍があるのです。

何が言いたいかというと、その都度、その都度何か仕掛けて、そこで花火を上げて終わるのではなくて、そういう方向性を決めて進めていることであれば、これを継続していくということも実は大事で、意外とそういうところが忘れられてしまうような感じがするのです。

内々の話で申し訳ないのですが、例えば、こういう地図であれば、毎年、予算の関係上、来年印刷されるのかどうなのか、どきどきしているような感じだったわけですが、これは本当に総合学習でかなりの数、使ってくさってしまっていて、毎年5年生が使えるわけです。ですから、こういうものを続けていくことがすごく大事なのかなと思います。

秘策的なものはないのですが、私がこうなったらいいなと思うのは、先ほどの岡崎先生の歴史、私もあらためて岡崎先生の話聞いたとき、やはりそれがすごく大事だなと。それは常々思っているのですが、ここでやってきたことというのは、そういう大事なものを、例えばそれをもっと、今日皆さん、関心を持ってここに集まって来てくださっているわけですが、ここに来ない人たち、例えば、まちで商売をしている人たち、子どもたちに、興味を持って、そういう人たちに新潟を感じてもらうことが一番大事なことなのだと思います。

それには、やはり難しい話を難しく伝えるのではなくて、ごめんなさい、岡崎先生の話が難しいということではなくて、ああいう話を子どもが興味を持てるように、工夫を加えて伝えることが大事なのです。そういう趣旨

でつくったのが、この一連の地図だったわけです。

その中で、私が非常にありがたいと思っていたのが、今日の『市報にいがた』にも出ている秋のえんでこがありますが、また続いているということです。それから、今日が最終日ですけれども新潟市・沼垂合併 100 周年のスタンプラリー。これは地域課の方々と、私、皆さんでつくらせていただきました。これは大変だったと思うのですが、沼垂と新潟のまちの、こういうみなどに関係のあるようなポイントを親子でめぐってもらいたいということで、夏休みの期間中やっていたのです。

夏休みの期間中、親子連れでこれを持って新潟のまちを歩いてくださる方たちがいかに多かったか。やはりこういう町を体験する機会というのを、行政だけではなくて、民間もやれるところがやりつつも、行政も的を射た支援をしていただきながらも、それを続けていただくというのが大事なのではないかと考えております。

発信がすごく大事ななというところで、全然なにもないということではなくて、例えば今日、うちへ帰ったらネットで「小路」と調べると全国たくさん的小路が出てくると「小路めぐり」と入れてください。ぶっちぎりで新潟がどっさり出てくるのです。そういう発信の仕方もあります。

それから、実は何年前までは、「日和山」と入れると、新潟の日和山がたくさん検索に引っかかっていた。ただし、震災以降は、石巻とか宮城の日和山がかなり出るのですが、その中でも新潟の日和山というのは、すごく大事な部分であるわけです。こういう部分でもやはり発信していく。路地会では、新潟はかなり有名ですし、そういうまちづくりがされているということで有名ですので、そういうところでもどんどん売っていただけたらと思いますし、町を楽しそうに案内する仕掛け、そしてガイドがいる新潟というものを、1つ

の新潟の町の資産として、活かしていただける支援をしていただけたらと思っております。

●藤田 やっぱり含蓄がありましたね。実践をしている人の発言だと思いました。継続は力なりと、そういうことをちゃんと継続してやっていくということが大事だと。

例えば、総合学習で使われている小路めぐりのパンフレット。どきどきして、来年つくってくれるのかどうか心配じゃなくて、安心せよと。ずっとつくってくれるぞという官民一体の感じ、そういうものを大事にしていこうと。えんでこなんか、今日も出ていたけど、そういうものを大事にしながら、新潟のまちをあらためて歩いてみて、そしてどんな人が来てもしゃべられるようなということが、気さくではなくて、当たり前のことという形でお話しできたと思います。ありがとうございました。

それでは、早川堀周辺を、まちづくりを考える会で頑張った明間さんは今どんなことを考えていますか。

●明間氏 私ども、毎月第2、第4日曜日に、維持管理の関係で早川堀を清掃しております。今月の第2日曜日、地域の方が50名くらいボランティアで来てくれました。最初のころは、それこそ、堀なんて水辺なんてと、何だかんだと言っていました。できればかわいいもので、毎日、ほんとに地先の方々が1時間から30分かけて草抜きをしてくれています。

私も毎日のように水路の点検に行くのです。そうすると、私、西湊町の自治会長をしているので、「あ、会長さんが来たすけ、しょらすけ、俺、引っ込もう」なんて言って、新潟の人は親切というか、奥深いというか。本当にごみ袋に3つ、4つ、取ってくれるんです。本当にありがたいと思っております。

そういうふうには地域からちゃんとした形で上がってくるものを、これからも大事にして

いかなければいけないと思います。私はこれから先、この早川堀をどういう活用法を考えているかという、いろいろ秘策は考えていますが、なかなかそれも思うようではない。今現在、これというのを考えついていませんが、今後とも皆さんと協力しながら、それこそまちづくりを、景観も含めて考えていきたいと思っています。

それは、私たちが勧める考えを提示する前に、側の人が、「あそこ、ちょっと直したいんだけど、どうすればいいの」と言う。それはちゃんとそういう制度があるからやりましょうよと。それだったら、みんなで集まって相談しましょうと。その相談するのも明日明日できるわけではないのです。何十年というスパンで考えていかなければいけないのですが、やっていけば、その街並みがちゃんとよくなると私は考えています。

今後とも、皆さんと協力し合って、早川堀通を整備していくために、もっとよりよい整備をしていくために、勉強会を開きながら、地域の住民とお話ししながら、考えていきたいと考えております。以上です。

●藤田 早川堀ができてから、毎日見学者が来るような形で変化が現れてきている。さらに、それを力にして、新たに住民皆さんとよく話し合って、これからも早川堀をよくしていきたいという話でした。どうもありがとうございました。

市長さん、いよいよ最終なので話が上手で長い人であるのですが、長くても短くてもいいのでご感想をどうぞ。

●篠田市長 今、3人からお話があって、やはり地域を知ることから、愛することが始まるというのは、本当にそのとおりだなと。これを学習に活かしていく、子どもたちの教育に活かしていくというのは、我々常に意識していく必要があると。今、東京への流出とい

うのが、地方では大変大きな問題になっているわけです。やはり子どもは、小学校の子どもたちに、地域の歴史、地域の良さ、地域の取り組み、そういうことを総合学習などで知ってもらおうというのは、すごく大事だと思うのです。

それに加えて、新潟は大農業都市でもあるので、農業体験もやってもらおうと。全ての子どもたちに。これも農業とまちが繋がっていて、北前船の繁栄があったわけなので、これからの新潟はみんな農業体験で、街中の子どももというのも、当然いいことだと思っています。

中学校になったら、どんな大人になりたいのか。そして、大人として暮らす場所はどこなのだと。「私は新潟です」ということをもっともっていいと思います。そして新潟で暮らすことと東京で暮らすこと、いろんなデータをもっと集めて比較して、どちらが21世紀の生き方に合っているかということも、積極的に我々はアピールしていく必要がある。

今、空白ゾーンのようにになっているのが高校生だと思います。県立高校でどういう教育をしているか、どういう進路進学のやり方をやっているのか、私もよく分からない。少なくとも、私の子どもが高校生だったころ、「新潟はいいところだよ」「新潟は初任給が安くてもこんな暮らしのいいところがあるからね」と言っている進路進学の先生はいなかったようです。

そういうことでこれからもいいのかなと。今後は、やはり地方で暮らす素晴らしさを高校生にもしっかり伝えていく。そして新潟大学で学んで、新潟で就職する、新潟で暮らししていく。こういう中小企業でも、すごい会社がいっぱいあるじゃないかということを、我々はもっともっと掘り起こしてアピールしていく必要があるのかなと、一番感じていました。

そして、新潟は小路めぐりの人たちなんか

は、新潟の取り組み、意識が高い人、あるいは全国の取り組みを知っている人は、「新潟はすごい」と。それは田代さんのところも、そしてまた、明間さんの、こんなまちと水がこんな関わり方をして環境の美化にも役立っていると、すごい取り組みをしていることを、分かっている人は分かっているのです。これは大いに継続していく必要がある。

しかし、行政のリーダーとしては、分かりやすさというのも一方では求めなければ駄目だと。そうすると、新潟の歴史を感じるまちはどこにあるのか。これは花街が一番の早道かなと、今は思っています。花街新潟の、江戸時代からの繁華のまちといわれたもの。ここを歩けば一発で分かりますよというところも必要なのかなと。

そして新潟は、日本酒というのがイメージとして強いので、花街の中に古町ぶらり酒のソフトがあると。これは突き詰めていくと、日本酒通り、本酒通りみたいなものになれば、一番、最高かもしれません。取りあえず花街の面影が色濃く出て、そこにぶらり酒を楽しむ人たちがいるというだけでも新潟のイメージを手っ取り早く伝えられるのではないかと。

あとは光の演出でしょうか。今日もライティングの話が幾つか出ていました。我々も萬代橋をちょっとLEDで、あれは萬代橋を浮かび上がらせるというよりは、信濃川を照らすというやり方でやっています。萬代橋が一番美しいのはアーチなので、このアーチを浮かび上がらせることを考えるかどうか。萬代橋にプロジェクションマッピングを、新潟JCの人がやってくれて、やすらぎ堤は大変な人出でした。

これをみなとぴあでやって、早川堀にも水と光の演出をしていただいて、小澤邸へ行ったら、また違った光の演出があるということをやっていくと、なんとなく新潟の暗い夜のイメージというのが、ずいぶん変えられるのではないかと。この光のページェントを、本

当にけやき通りで頑張ってくれて、それに刺激を受けたのか、今度はいくとぴあ食花では20万球のLEDで田園風景、花の風景は、夜、こんなに美しいのだということをやっていたら、これも相当イメージを変えてくれます。今後は、鳥屋野潟を中心に、潟を焦点化しようと。

昔は潟が水路で、そして堀になって新潟のまちにつながっていて、これが農村部と街中のいい交流になっていて、これを北前船文化として発信していたということです。この辺りも、土台はかなりできてきているので、もう少し、また岡崎先生のお知恵をお借りして、ちょっと分かりやすさ、見やすさみたいなものも、古町芸妓さんはここに行けば申し込みをしなくても踊りをしているところ、あるいは踊りの稽古が見られますということになるとすごくいいのかなと。この辺りは、行政ももう少し前へ出ていいのかなと。

継続というのが、本当に行政は必要なんですけれども、分かりやすさ、演出、そんな面も行政が知恵を出す必要があるかなと今聞いていて感じました。ありがとうございました。

●藤田 すごかったですね。子どもたちには新潟の学校を出て新潟に就職して、新潟に住んでもらうとか、あるいは萬代橋の事例が出ましたが、素晴らしいものをライトアップする。ぶらり酒、これもすごいです。そういうことも大事にする。古町芸妓を大事にする。鳥屋野潟についても、多岐にわたっているようなアドバイスを言っていました。ありがとうございました。

では、最後にまた岡崎先生、ひとつ、コメントーターとして感じたことをちょっと話していただければありがたいです。どうぞ。

●岡崎教授 今、篠田市長から古町花街のことを言っていました。冒頭からお話しさせていただいたように、あれだけの資源は、

なかなかよそにはないものですから、何とかアピールの材料として磨きをかけなければいけないと思っています。我々も古町花街の会をつくってやっております。

まずは、景観の整備ということで、建物を直したり、いろんなビルとか混ざっていますから、全体として整えていかなければいけないというのが1つあります。やはり、今、結構観光客が増えているのです。昔はなかったのですが、今は観光ガイドブックに古町花街がちゃんと出ているのです。ですから、そういう意味ではいいのです。

ですから、我々がつくっているマップを持って歩いているような方もちらほら見掛けます。シティガイドも案内してくださっていますし。ただ、昼間に行って入るところが問題です。先日も、昼間に入れた貴重だったお店がお昼の営業をやめたのです。ですから、そういう意味でいつでも入れる場所、篠田さんもおっしゃったような芸妓さんの踊りを見られる場所が必要です。

実は、三業会館という建物があるのですが、皆さんご存じでしょうか。たぶん、タクシーの運転手さんでも分かるかどうか。三業会館というと、いわゆるインダストリーの産業を思い浮かべてしまうと思うのですが、そうではなくて花柳界のことを別名三業地ともいまして、その三業の本部である三業会館という立派な建物があります。

これも全国に誇れるもので、1つのまちであれだけの大きな施設を持っているのも、そうそうありません。今は何に使っているかというと、そこで芸者さんたちのお稽古をやっているし、事務所があってということで、我々のシンポジウムはいつもあそこを使わせていただいています。今度の9月28日のシンポジウムもそこでやります。なにせ老朽化しております、一般の方がぱっと入れる状況ではないのです。

ですから、そこに観光のインフォメーショ

ンであったり、おみやげものがあったり、そこで芸妓さんの踊りを定期的に見られるようなことができれば、西大畑とか下も含めた1つのセンターになるのではないかとということで、いろいろ勉強してまいりました。

実は先日も市長さんのところに、行政も一緒にご検討をお願いするようお願いしてきたところ。それは大きな、大事な1つの要因かなと思っています。

あとは、アクセスですね。特に下のほうは、アクセスがなかなか。昔からいらっしゃる方は特にご不便を感じていないのかもしれませんが、例えば、うちの大学、さっきの旧小澤家住宅をずっと一緒にやらせていただいている、学生を旧小澤家住宅に連れて行くのが大変なのです。車だったら30分で着きますが、バスを乗り継いでいくと、下手すると1時間半くらいかかるし、交通費も片道1,000円くらいかかって、往復2,000円ということになると、普通に考えてそれはもう嫌だという話になるわけです。ですから、BRTと絡めてそこら辺が改善されるなり。

それから、ちょっと気になっていることがあります。これも簡単に勝手なことを申し上げて申し訳ないのですが、空港リムジンが古町を通らないのです。速達性の問題とか、いろんな路線の問題とかご検討の結果、県のご判断で古町は通らず新潟駅の南口に着くようになっていると思いますが、外から普通に考えると空港リムジンが古町を通らないということは、古町は新潟にとって大事ではないというアピールになってしまう面があるのではないかという気がするのです。実際問題、古町のホテルは今、非常に苦戦しています。基本的に駅でないと泊まれないという状況になりつつあります。ですから、そのアクセスの問題も一緒に考えていかなければいけないと思います。

それと、さっき、国の事業を入れたほうがいいのかというお話をしましたが、

いろいろ新しい制度ができています。文化財という固いイメージがあるかもしれませんが、今の文化財の発想はもっと柔らかくて、活用していこうということなのです。

例えば、重要文化的景観というのができていますし、「歴史まちづくり法」という法律もできまして、京都、金沢などは、これを全部使って、いろいろやっているわけです。そういうことをやることで、また新潟の知名度が上がる面もあると思います。やることがたくさんあって、なかなか我々の会は人手が足りずに苦戦しておりますので、いろんな会の方と連携したり、新しくいろんな方にご参加いただいて盛り上げていければと思っています。

●藤田 ありがとうございます。

せっかくあるいろんな歴史的建造物やいい所が、アクセスが悪くて行きにくいところがある。これは整理する必要があるとか。あるいは、芸妓が、皆さん、庶民の中に見られるような施設を造り替えてもらったりすべきだというお話を話していただきました。

これでいったん、このパネリストによるディスカッションを終わらして、これからはフロアの皆さんから質問やご意見を求めたいと思います。

質問したい方には手を挙げていただきまして、大勢いらっしゃったら、順番をつけて、残り時間の逆算で決めさせていただきたいと思います。では、質問や意見のある方は挙手をしてください。

## 質疑応答

●会場①（有明台在住） 本日は皆さん、大変いいお話を聞かせていただきました。特に皆さんの話が大変上品に聞こえたのです。といますのは、私ども、観光地に行きますと、観光地は喧噪でございます。そして、その中で一番、私ども人間、物欲があつて、ああい

うところであんなおいしいものが食べたいとか、こんなおみやげを買いたいということ満足させてくれるところが結構ございます。私もいろんなところで満たしてきました。

本日のお話は、そういうものを抜きにした感じで、ご自分のそれぞれの関係するところを大変上品な説明をしてくださいました。そういう点ではありがたいのですが、やはり岡崎先生からありましたように、花街に行って昼間から芸者さんをあげるわけにいかない部分もあるかもしれませんが、せっかくそういうところへ行ったら、新潟でおいしいものを食べたい、日本酒を飲みたいというようなお店を開いていただきたい。

あるいは、旧小澤家住宅に行ったときには、そこで北前船がどういう役割をしたのか、北あるいは南の物産をそこで集めて、お土産として買っていただけるような場面もあってもいいのではないかと思います。

沖縄へ行きますと昆布を使った料理が有名です。しかし、沖縄では昆布ができないのです。これは北海道から薩摩藩が昆布を入れて、大陸にその昆布を輸出したということがあります。大陸では、そういう海藻類が採れないということで、甲状腺に効くところのヨードを供給するというので、大変その交流が盛んになりました。でも、大陸にやるのはいい品物で、それ以外のB級、C級品は沖縄に留め置いた。それを沖縄の人たちが食べて、今沖縄でも大変昆布料理が有名であるということになっています。

ぜひ、新潟にも、北の物産、南の物産を集めて、北前船がこういうものを運んできたんだよというようなこともお示しいただければという気がいたします。少し長くなりました。

●藤田 ありがとうございます。今のはご指摘で、参考までにご意見として承っております。次の方、どうぞ。



●会場②（中央区在住・新潟漆器組合）

実は、今日、私、クロスパル新潟、中央公民館で親子 20 組、約 43 名の若いお父さんとお母さん、そして小学生の子どもたちに新潟漆器の体験を午前中 3 時間やって参ったのです。先ほど、岡崎先生、篠田市長さん、各パネリストの話聞きまして、市長さんのあるもの探し、これは私の大好きな言葉なのです。本当に新潟の方々、ないものばかりねだっていた。その結果が今日、マイナス面に出てきた。あるものは、まだまだいっぱいあります。その中で花街、これは当然よろしゅうございます。篠田市長から、花街があつて、そこで踊りだ、お酒だと。お酒の次に来るのはやはりお料理です。お料理とくれば器なのです。

新潟漆器も、今日、子どもたちに言ったのですが、新潟県は京都府に次いで伝統工芸品や古いものが伝わっている。大事な手づくりの産業が、京都は 17 品目、新潟県は 1 つ少ない 16 品目で、東京は 10 くらい、石川県、富山県もまだ一桁。新潟は京都に次いで 1 つ少ない。なぜかという、新潟はみなとまちがあつて、北前船でいろんなものが青森県から津軽塗、石川県から輪島塗、遠くは沖縄から琉球塗が、当然、東京から江戸漆器と、いろんなものが新潟に集まった。

そして新潟町には昭和の初めまで、そして江戸後期には新潟町で塗りの職人だけで 300 人、そのほかに蒔絵を付けたり生地をつくったりで、1,000 人くらいの人たちが産業なんか何もなかったのか、新潟の漆器というのが、新潟町のいわゆる廻船問屋、鍋茶屋さん、料理屋さんに続いて、旅館もあつたりして、新潟の職人が新潟市にいっぱい税金を納めていたのだと、だからこんにちの新潟市があるのだという話をしたら「へええ」なんて驚いていたんです。

だから、よき、頑張った昔の新潟をあまりにも今の人たち、若いお父さん、お母さんには知らなすぎるのです。市長、そうですね。

市長さんから、その辺のところをぜひひとつ、あるもの探しを市長が先頭になって、これから掘り下げてもらいたい。大学もぜひ応援してください。大学生は何も知りません。新潟に漆器があつたなんて。ぜひ、よろしく願いいたします。ちょっと市長さんからご意見を賜ればありがたいです。田代館長は新潟漆器の素晴らしい応援者ですので、ぜひ 1 つ、市長さんお願いします。

●篠田市長 ありがとうございます。今、お話、ご指摘があつたように、新潟県は伝統工芸産地で、これも京都に次ぐということです。今、文化庁で長官になられた青柳先生が以前から国立デザイン美術館をつくろうということを提唱なさっていました。

私どもは、そこに工芸も入れて、デザイン工芸美術館みたいなものをぜひ実現してほしいと。そのときは、ぜひ新潟をお忘れなくと、青柳長官にお話しさせていただいて、青柳さんも新しい箱物をどんと造るとするのは、今、はやらないだろうと。むしろネットワーク型の工芸デザイン美術館の計画を詰めているというお話だったので、そういうときには新潟市はもちろんですが、新潟県内の伝統工芸産地、そしてデザインでは何と言っても亀倉雄策デザインカリスマが新潟県出身ということもあるわけですので、こういう分野でも新潟は相当アピールできるのではないかと、今、サトウさんの話を聞いて感じていました。

またセキカワさんのおみやげも非常に大事で、何か行って得したねというのは、おみやげで相当左右されます。我々は食、おみやげ、新潟はよかったとなつてもらふように、ここは分かりやすさが必要だと思いますので、その専門家と共におみやげを磨くことも重要だと聞かせていただきました。ありがとうございます。

### ●会場③（鑑西在住・日本民家再生協会）

今日、それぞれのパネリストの方から、新潟下町にこんなにたくさんスポットが、今光が当てられて、点と点が結び線となって、やがて面となってと、いろんなゾーンの話も含めて大変興味深く聞かせていただきました。

ただ、全国的な流れで見ますと、こういった伝統的な街並み景観も含め、またその構成要素となる建物を守るという気運が高まっている一方で、建築行政的には耐震診断で、古い建物をややもすると既存不適格と、耐震性に劣っているということで、壊す動きが出てきている。あと、最近よくニュースでも出ている空き家条例が施行されていく中で、空き家の建物をいい形で残していく、保全継承していくという動きであればいいのですけれども、ややもすると解体撤去して整理してしまえ、ということが条例化として動いていることもあります。

県内でもすでに住まなくなったところを、場合によっては、行政の手によって、代執行によって解体していくという動きも一部の自治体で出てきています。

その中で、こういったものづくり、あるいは街並みをどう守るかということがかき消されることがないように、その制度の一貫性といえますか、縦割りではなくて、いろんなところのつながりを、連携を保ちながら、この街並み保全に活かしていってもらえればということのお願いです。

新潟には、秋葉区に新津工業高校がありまして、日本建築科という古い木造建築の技術を現代においても継承していこうという若い子が、150人くらいいるのでしょうか。各学年で50人くらいいると思います。そういった意志の高い、しかも全国的に見ても特色の高い学部を持っているという状況もあります。

昨日は、金沢でものづくりコンテストがあって、そこでは新潟の大工さん、その高校生が1等、2等を取ったと。3位までだと独占な

のですが、そういう明るいニュースを聞いております。そういった子どもたちが、新潟の街並みを守るというところに素直に向かっていけるように、そういう意味を含めて、耐震化というのは建て替えをしたらという耐震化ではなくて、古い建物を守るということの手法に活かされる形で施策、運営が成されればいいなと篠田市長にお願いしたいයි。

●藤田 ありがとうございます。今、歴史的建造物、耐震構造について、あるいは空き家について、市がどういうふうを考えているか、その答えを聞きたいと受け取っていいですか。

### ●会場③（鑑西在住・日本民家再生協会）

はい。やがて、そういった、まだ新潟市は空き家対策条例というのは、出てきてないと思いますが、そういうものを考える中で、ややもすると一掃してクリーンにしていくと。つまり更地化して、その後は、次の手でという形の制度になりつつあるような自治体もある中で、ぜひそこら辺でせつかくいいものができてきたのでミスリードのないようにということです。

●篠田市長 ありがとうございます。県内でも空き家条例をすでに制定し、それに沿って対応しているところも出てきているというのはご存じのとおりです。やはり県内は豪雪地帯も多くて、危険家屋というのが相当、空き家条例を迅速にやらなければ駄目だという要素の1つになっていると。新潟市は、そういう意味では、あまり雪の重みは、山間地よりは軽いと。そして私どもは、むしろ、空き家は使いようで財産なんだよねということを特に新潟の下町とか、そういうところではうまく活用し、あるいは権利関係を整理して再生するほうをやっていきたいと思っています。

どうしようもない、本当に老朽化して危な

いというものについては、取り壊すということはあるかもしれませんが、それが主眼ではないと考えています。

●会場③（鎧西在住・日本民家再生協会）

あともう1つ。今、耐震化ということで、建て替えをしたら幾らという補助金の制度も出てきて3年になります。これも徐々に、実態に即した形になっていくと思いますけれども、ややもすると壊すための耐震診断になっているようなところも、一部で見聞きしておりますし、私も耐震診断士の資格を持って、幾つか、ああ、これを壊すのという状況に立ち会ったこともありますので、それも合わせて。京都に行きますと、京町家を一生懸命直して、街並み景観を何とか古き良き時代に戻そうという取り組みをしている工務店、あるいはNPOもあるので、そういったところを育てるような動きになればと思います。ありがとうございます。

●藤田 分かりました。ぜひ私どもにご指導ください。よろしく願いいたします。

●会場④（新潟工科大学工学部建築学科都市デザイン研究室所属学生）

はじめまして。本日の講演、本当に役立つものばかりで、ありがとうございます。

単純な質問なのですが、皆さん、素晴らしい活動をしている中で、少子高齢化という問題で、そういった活動を受け継ぐ人がいなくなれば、いずれその素晴らしい活動がなくなると考えているのですが、そういった中で若者をうまく取り入れるというもので、どのような活動をされているかお答えください。お願いします。

●田代氏 大変重要なことだと思っています。歴史というと、構成を見るとだいたい年配の方が多いのです。その1つのきっかけが、宿

泊体験といって、24時間、旧小澤家住宅に泊まってもらう。そういう人たちから知ってもらって、その人がお父さん、お母さんの若い人たちに話をする。僕たちこんなことをしているんだよと。旧小澤家住宅のあの蔵というのは、なんで幕末だとか、明治13年のというと、実は桝木があるからだよって。その桝木の意味を教えるとか、そんなことを通じて子どもたちの中に歴史がすぽっと入っていく。

そういう活動が必要だし、ほかのところもそうなのですが、旧小澤家住宅は6月に夏至祭りをやりました。かき氷をみんなでカリカリ食べて、全部戸を開けて、夏至が一番長い日だから、季節に合わせてみんなで見ようと言ってかき氷をやったところ、若いお母さんと若いお父さんがペアでよく来るようになりました。やっぱり企画によって変わってくるんだなということも分かりましたので、ぜひ、これからの少子高齢化に合わせて、若い人たちにもふるさとの良さを知ってもらう活動も必要だと思います。どうもありがとうございます。

●野内氏 まさしくそのとおりでして、先ほどのスタンプラリーもそうですけれども、この30カ所、子ども一人で全部回れるわけではないのですよね。小学生さんの親御さんというのが、ある程度、20代後半くらいから30代の方がいらっしゃるわけです。

実際、その年代が、このエリアを行事があつてめぐることがないので。子どもさんの、これは中央区全校に配られたわけですが、これにつられて、子どもと一緒にこの夏を過ごすという経験から、やはりその親御さんにも、まちに関心を持ってもらうきっかけになればと思います。そういう点では子どもと親というもの。

ですが、本当言えば、20代初めとかのその間の若者です。こういう人たちはどう関心を持ってもらえるかというのは確かに課題です

ので、逆にそれは、今度若者からこういうものがあると、俺たち、もっとまちに興味を持てるんだよとか、そういうものを提案するだけではなくて、実践してちょっと見せてもらえたらうれしいなと思っています。以上です。

●藤田 ありがとうございます。90分という与えられた時間でずっと過ごしてまいりまして、フロアからのご発言を聞いて、これで全て、今日のフォーラムは終わることになりました。

## まとめ

●藤田 最後に私から今日のフォーラムの内容について、簡単なまとめを話したいと思います。これは、まだ決まったことではなくて、今後私たち、水辺とみなとのまち部会は、12月までの間に、今日のフォーラムを兼ねて新潟市に対する提言をつくっていく。そのちょうど中間の結節点ということになりますので、不十分かもしれませんが、簡潔に言いたいと思います。

まず1つ目、アンケートでも本日のパネルディスカッションでも、北前船が新潟の発展に大きな影響を与えたことを、パネリストの皆さん、あるいは市長さんから、あるいは大事な岡崎教授からのご講演ではっきりと分かりました。学ぶことができました。まだまだそういうことで、北前船の果たしたことを知らない市民が多いなということも感じたことではないでしょうか。

2つ目は、これからも北前船の交易がもたらした新潟市の文化遺産を大切に活かして、将来のみなと新潟のシンボルに育てていくことも大切ではないかということ、今日の成果に挙げていいのではないかと思います。

3つ目に、残念ながら今日は全国の北前船寄港地の事例紹介、これは私が本来、紹介するために用意していたのですが、なかなか時

間がなくてできませんでした。言いたいのは、北前船寄港地、全国40調査活動をやったのですが、その中でも金沢とか加賀とかいろんなところが手を挙げて答えを出してくれました。そういうところへも、今後は交流を深めて学習をしていきたいと思いました。

4つ目に、下町だけでも十幾つある、いわゆるまちおこし、あるいはまちづくり。趣味の会、そういう団体がたくさんあります。個々の活動は、私から見たらとても素晴らしいのですが、横の連携プレーがちょっと弱いのではないかと思います。従って、そういう団体が情報交換の場を今後設定して、行政も入って、切磋琢磨してこれからも北前船時代の街並みづくりに頑張っていこうと、こう思います。

その1つの大事な点が、4~5年後に迫った開港150年祭です。これを、私たち、市民の手で大成功させる。こういうことをここで、みんなで誓い合おうと思います。そうやって、新潟まつりに次いで、北前船まつりなんか、ネーミングをカッコよくして、1つの祭りをこれからつくっていききたいと思いました。

大変多くの意見とアドバイスを承りまして、ありがとうございます。

最後にもうちょっと言わせていただくと、今日のフォーラムに参加していただき、長い時間ありがとうございました。皆さん、新潟市のこれからの発展のために、まちづくりにご活躍しているそれぞれの諸団体の皆さん、それから行政に関わっている皆さん、それから篠田市長をはじめ、パネリストの皆さん、これからもお互いに手を携えて、私たちのふるさと新潟に夢とロマンを持ち、素晴らしいみなと新潟の建設に力を合わせてまい進しようではないかということ、この場で皆さんに心から呼びかけて、本日のフォーラムを終わりたいと思います。

ありがとうございました。

(終了)

■アンケート結果（原文）

# 新潟みなと北前船フォーラム アンケート結果

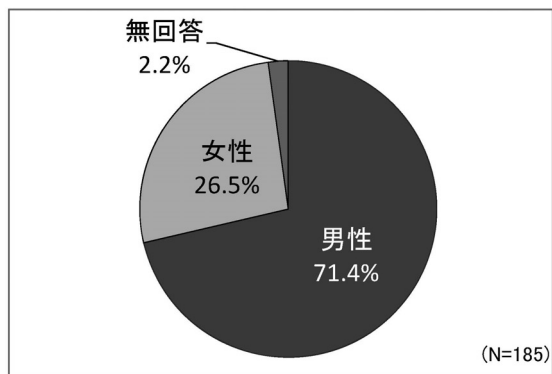
- 実施日 平成26年8月31日(日)
- 対象 新潟みなと北前船フォーラムの一般参加者
- 配布数 232 通
- 回答数 185 通
- 回収率 79.7 %

■ あなたご自身のことについて、おたずねします。（それぞれ1つだけに○）

## 1. 性別

「男性」が約71%、「女性」が約27%であった。

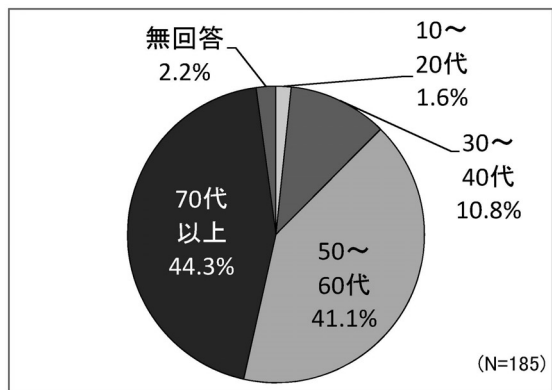
	件数	割合
① 男性	132	71.4%
② 女性	49	26.5%
無回答	4	2.2%
計	185	100.0%



## 2. 年代

「70代以上」が約44%で最も多く、次いで「50～60代」が約41%、「30～40代」が約11%であった。

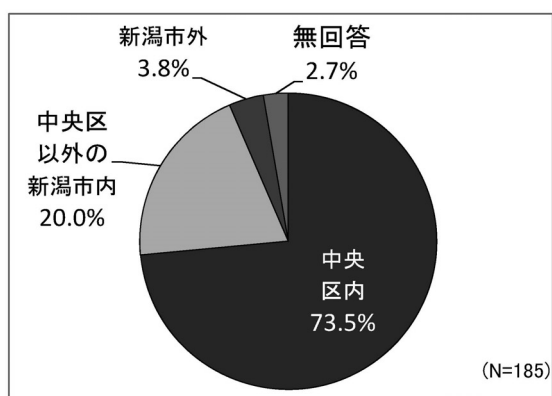
	件数	割合
① 10～20代	3	1.6%
② 30～40代	20	10.8%
③ 50～60代	76	41.1%
④ 70代以上	82	44.3%
無回答	4	2.2%
計	185	100.0%



## 3. 住まい

「中央区内」が約74%で最も多く、「中央区以外の新潟市内」が20%、「新潟市外」が約4%であった。

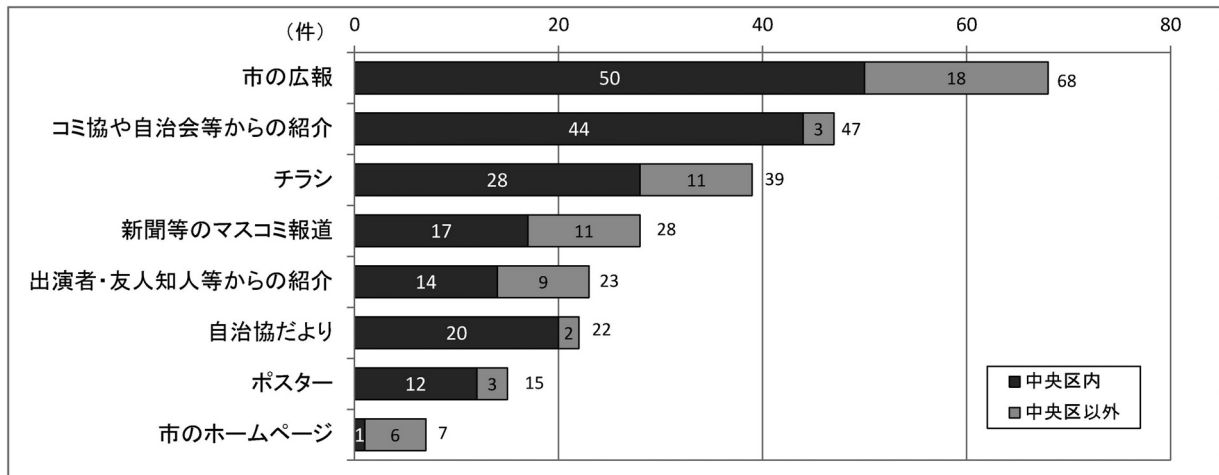
	件数	割合
① 中央区内	136	73.5%
② 中央区以外の新潟市内	37	20.0%
③ 新潟市外	7	3.8%
無回答	5	2.7%
計	185	100.0%



**(1) 当フォーラムを何で知りましたか？（該当するすべてに○）**

「市の広報」が68件で最も多く、「コミ協や自治会等からの紹介」が47件、「チラシ」が39件であった。  
 住まい別で差が見られた項目は「中央区内」では「コミ協や自治会等からの紹介」と「自治協だより」、  
 「中央区以外」では「出演者・友人知人等からの紹介」「新聞等のマスコミ報道」「市のホームページ」であった。

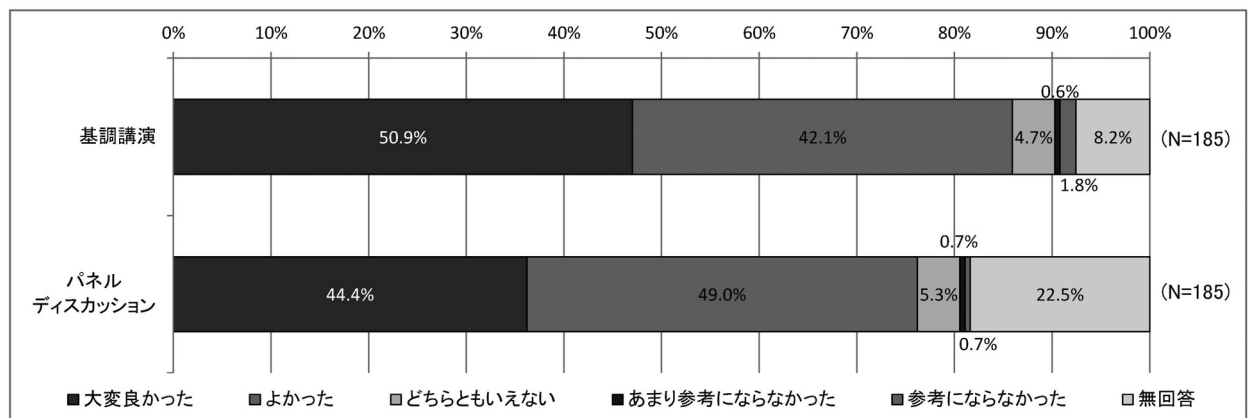
	件数	選択率	住まい別選択率	
			中央区内	中央区以外
① 市の広報	68	36.8%	36.8%	36.7%
② コミ協や自治会等からの紹介	47	25.4%	32.4%	6.1%
③ チラシ	39	21.1%	20.6%	22.4%
④ 出演者・友人知人等からの紹介	28	15.1%	12.5%	22.4%
⑤ 新聞等のマスコミ報道	23	12.4%	10.3%	18.4%
⑥ 自治協だより	22	11.9%	14.7%	4.1%
⑦ ポスター	15	8.1%	8.8%	6.1%
⑧ 市のホームページ	7	3.8%	0.7%	12.2%
無回答	1	0.5%	0.0%	2.0%
計	250			



**(2) 本日参加された感想をお聞かせください（それぞれ1つだけに○）**

基調講演は、「大変よかった」が約51%で最も多く、「よかった」が約42%であった。  
 パネルディスカッションは、「よかった」が49%で最も多く、「大変よかった」が約44%であった。

	基調講演		パネルディスカッション	
	件数	割合	件数	割合
① 大変よかった	87	47.0%	67	36.2%
② よかった	72	38.9%	74	40.0%
③ どちらともいえない	8	4.3%	8	4.3%
④ あまり参考にならなかった	1	0.5%	1	0.5%
⑤ 参考にならなかった	3	1.6%	1	0.5%
無回答	14	7.6%	34	18.4%
	185	100.0%	185	100.0%



**(3) これからの“みなと新潟”のまちづくりのあり方、望むことなど、  
ご自由にお書き下さい。**

**<提 案>**

**～関心・意識（自覚）・誇り・愛着の醸成、教育・継続の重要性～**

- 新潟市はシンボルになる城がないので、県外の人を案内する時、細切れになってしまう。湊町新潟の歴史を知ると、いかに日本にとって重要な町であったかが解り、とても魅力を感じる。住んでいる私たちが知らなければよさを発信できない。子どもころから新潟の歴史をもっと知ってもらい、自分の住んでいるところの魅力を知り、愛する気持ちを育ててほしい。
- 新潟は素晴らしい歴史的背景、北前船の副産物としての建造物があるにもかかわらず、若者の興味が薄く、年配の来場者が多いのが残念でした。興味付けをする施策を考えてほしいです。
- 昔からあるものを大切に、保存していくことが今の時代大切のような気がします。たくさんの観光ポイントがあるということを市民が知り、興味を持ってもらえるようになればいいと思います。
- 住民市民が誇りを持って愛するまちになるよう努力する。新聞、テレビ、市報等に継続して特集などで紹介する（PR、イベントなどの紹介）。地域学として学習する機会をもつ（公民館等）。
- 住民（商売人、公務員、サラリーマン、OL、学生）の意識改革を徹底的に。
- 若い親子がイベントなどを通じて新潟の町に関心を持つことが重要と思った。
- まちの価値への理解を深めるための子どもの頃からの教育、外部からの評価が高まることで持てるまちへの誇り、そのための外部へのアピール、その両輪を地道に愚直に継続していくこと。
- 触れることで興味がわくと考えています。ご面倒でもそんな機会をつくってください。
- 子どもたちが新潟の歴史を勉強する場をもっと増えてほしいです。
- 歴史・文化に興味のない、特に若い世代にその良さを聞いてもらい、知らせることはとても難しいと思います。それを少しずつでも、発信して、魅力を伝え続けることで、多くの人に認識されるようになり、将来のまちづくりにつながると思います。関わる人それぞれに考え方は違い、まとまりにくいとは思いますが、長い年月をかけてでも地域ぐるみでまちづくりができるとうれしいと思います。
- 新潟の歴史を大切に、継続した取り組みが大事。市民が新潟を誇りに思い、新潟を自慢したくなるようにしていくことが重要。
- 子どもに説明できるような“みなと新潟”について、詳しく知りたいと思いました。子ども（歴史を知らない）に説明するのは難しい。
- 今回知らないことが多くあったこともわかった。一人一人がよく知ることも大切。郷土学習の場も（学校で）必要を感じた（次代の発展のためにも）。
- 新潟の歴史を大切に、継続した取り組みが大事。市民が新潟を誇りに思い、新潟を自慢したくなるようにしていくことが重要。
- 地道な取り組みを精一杯やられている皆さんに敬意を表したい。地道に若い人に伝え、官民協力して地域住民を巻き込んで取り組むことかなと思います。北前船... 沼垂、山の下が欠落していないでしょうか。

**～まちづくり・観光・PRについて～**

**■みなと～下町～古町全般のまちづくり・観光について**

- 歴史・文化を生かしたまちづくり。あるものさがしのまちづくりを！
- 観光バスがやってくる町にしたい。
- 食と連携して進める余地はあると思う。日常、下町、古町などで美味しく食事をする場所がない。
- 古町の地下街をもっと活用できないか。北前船のPRの場に！！芸妓のPRの場に！！
- 市内の町を案内する人たちをもっと多くして町歩きを発展させたらどうでしょう。
- イベントを多くして、まちづくりを楽しみながら考えたい。
- ハードは人によって生かされます。行ったらよかった所はどんどん増えています。これからはガイドさんや町の駅やお接待（おへんろ）（場所）が常時小路も含めあるとうれしい！！（アクセスがわかりにくい、バス不便）
- 歴史と文化を大切に、後世に残すために官ばかりでなく、民間の活力も加えて取り組むべきと思っている。情報の発信力を強めること（市内外にも外国にも）。



- 安心して生活できる中央区をみんなで話し合う。誰でも中央区で食事をして帰る新潟中央区を望む。
- 「みなと」としての発展は対露、対朝鮮貿易がポイントになる以外拡大しない。従って町づくりとしては独自の産業開発と佐渡とタイアップした観光都市作りを進めるべき。
- 旧沼垂町にも光を当ててもらいたい。寺町も市場も、発酵食品もある。
- 若者が中心部に戻れるようにしてほしい。
- 災害に強い町づくりも合わせてお願いします。
- 今の新潟の発展は下町の歴史が基になっていると感じた。今となると堀があった昔が懐かしいように思う。もう少し昔の懐かしい風景を残した新潟島を考えてほしかった。今また昔の部分もあったほうが良いと思っているが、これからは市政計画をゆっくりと考えたほうが良い。
- 文化と歴史の伝承に努めるべきである。ハードの整備は、お金と時間がかかるため。ソフト施策に力を注ぐべき。
- まちづくり、まちなみ保全の担い手、ハードとソフトともに育てていく環境づくり、街並み保全（エアコンのカバーを木で囲うなど小さなところからでも可）の補助金整備、人材育成。
- 新潟の町づくりは、何と遅いのだろう。町づくり怠ったために新潟市は仙台・金沢に大敗している。これから考えても遅い。急げ！至急。他を遅くしてもこれを第一として施政を行うべき。
- 古町の再開発と交通拠点としての古町の振興。西堀ローサの再開発。
- 古いものを壊すことなく、住みやすく見学しやすい街づくり 案内板などの設置を考える必要があると思った（有志の皆さんの活動に感心しました）。客席に若者が少ない。こういうフォーラムに若者を参加させる工夫が必要だと思った。
- みなと新潟をイメージするには花街や旧小澤家の景観など目に見えるものがわかりやすいと思う。景観整備とそれを生かしたソフト事業が必要。
- 新潟の発祥の地である水と港をもっと全市に PR すべき。下町が寂れていくのもよくわかる。
- 湊町の伝統を引き継ぐ遺産も重要だが、信濃川や西港を現代の港湾として生かすことが急がれる。クルーズ船の寄港やヨット・水上バス、屋形船が行き交う、人の集まる港にしてほしい。

#### ■港（湊）・川・堀・水辺について

- 堀と柳がなかなかイメージできない。倉敷までレベルアップできないか。
- 信濃川の景色、下流の美しさをもっと出し、遊覧船を乗りやすく。海・川が好きになるようにしたい。新潟が好きです。
- みなと新潟の次のスポットとして自然を生かした亀田郷を起点に水との戦いのシンボルである鳥屋野潟の整備が必要。
- 柳都として堀割に柳の復活を是非お願いします。資金とか地域的な問題を含めて取り組んでいただきたいものです。早川通を充実延長支援すべきと思いました。一日一日の積み重ねの努力を支えることを痛感しています。
- 信濃川の両岸、やすらぎ堤が年々整備され、魅力的な水中空間となってきました。欲を言えば水辺のカフェやレストランなどが整備されれば、もっと素晴らしい“水都新潟”になるのでは！！
- 早川堀について、なんで堀を復活する必要があったのか不明。説明不足。なんでも昔に戻せばいいのか。現在のままでいいのではないかと思う。
- 西堀に堀の復活を。花街に芸妓を増やし活気をつける。気軽に利用できるように。
- 中央部に堀を復活すべきと考えます。倉敷以上の名所になると思います。
- 新潟市・沼垂が合併 100 年、仲を取り持つ信濃川。年 2 回位、春と秋に信濃川の昭和橋～柳都橋位までレガッタ（ボートの競技大会）を開いたらいかがでしょう。

#### ■道路・歩道・駐車場の整備について

- 湊町通からみなとぴあへ行く道路の歩道を整備してもらいたい。
- 高齢者が外出し、自転車でも通行しても車道、歩道の段差があまりにもあり、危険極まりない歩道です。住みやすい町づくりは、まず足元から改革してください。
- 具体的なもので提案いたします。東新道の道路がほぼ改良され、古町花街が輝きを増してきました。今後、西新道も改良していただきたいと思います。また、旧小澤家のライトアップも素晴らしいものがあります。恒久的なライトアップも検討してください。
- 今は車社会。催し物近くの駐車場は無料開放にすればもっと人集めになる。
- 無料の駐車場を広くして使ってください。自信を持ちましょう。

## ■北前船関連について

- 北前船を建造し、寄港地の持ち回りでPRすべし。下町の空家を格安提供。外人の方にも提供。
- 実物大（100石船で）の北前船をみなとぴあに浮かべたらいいですね。
- 信濃川左岸は北前船を生かした新潟みなととした伝統的景観、信濃川右岸は日本海随一の商業施設、といった区分けが今の時代必要。魅力的なまちができるのではないかと思う。
- 北前船の寄港に新潟港から巡回する船を定期運航する遊ができるプラン。そして船上で講演をする。
- 北前船をシンボルとしたみなと新潟を市民でもっと考えたらと思う。時期としていい機会。
- 北前船の文化遺産として現在も現存している「新潟漆器」を生かしたまちづくりも含めて今後の「文化観光都市新潟」の中味の充実を！
- 北前船を新造して信濃川で乗船。昔のまちなみ等を映像にして教材化。旧税関旧小沢家住宅を中心に物産販売やイベント徒歩で探索。
- 新潟での売り物は水だと思う。海、信濃川、堀、港。しかし堀は今はない！佐渡の観光客も1/2！北前船を作るのが一番いいと思うが！小澤だけでは弱いかな！残った水と酒。食べものと結びつけた何か形を作れば！
- 北前船で運ばれた物品の販売、あるいは花街での昼食をとれるような場所の開設を望みます。
- 新潟の栄えた歴史～北前船、五港の1つ、回船問屋等、市民の生活の中に復活し、県外者等新潟へ来港人たちにも説明ができるように積極的に住民運動を展開していく必要ありと感じました。
- 再び「北前船」をつくって交流する。他の町とは違う大胆な展望。大通りを歩行者天国にして人力車で移動できるようにする（留学生とのコラボ）。駐車料は無料にする・信号を埋める（優先順位を決める）。車社会からどう向き合うか・効率化から距離を置くゆとり（若者の雇用）。ペロタクシーとシティガイドと人力車とのコラボ。非日常を味わう工夫・バスとタクシー会社との協議が必要。

## ■花街について

- 花街を前面に出して新潟を全国にアピール、賛成です。文化、食、器で感動を売り込みましょう。広報手段：マスメディア、JR、航空会社、民放を活用する。
- AKB48のように会いに行ける芸妓、その入れ物となる劇場等の整備。

## ■PR・企画について

- 新潟のよさを一般の人に少しずつ地道に知らせていくこと。
- 新潟に住みながら「柳都新潟みなとまち」知らなかった。歴史的な柳都をPRして行ってほしい。
- 関西ではまだ新潟のことを「知らない」人が多いです。新潟に訪問し、観光し、お酒を飲み、と一連の流れで旅行できるような観光、ワンストップでお土産を買える中央区の店があればと思います。
- 市民が改めて「みなと新潟の町」の歴史と良さを意識できるPR方法（幅広い層の方々に）。
- 湊町新潟の歴史を市民が知り、実感できる広報や企画が必要と思います。
- もっと情報が詰まったもの（本など）があると良いなと思います。
- 定期的にフォーラムを実施するとよい。
- 中央区だけでなく他区にもやってほしいです（中央区のPRを）。
- もっとPRを。えんでこの継続。
- 多方面で種々の人が活動していますが、何か基本的な軸となるテーマ・ストーリーを決めてイメージ構成活動をしてほしい。
- 今回のような企画を何回か行ってほしい。場所的に、多くの市民にかかわってほしい。集まりやすい（気軽に）買い物でたらにちょっと寄れる企画です。
- 聞いて、よく理解できました。知らない事（人）が多すぎました。これからは若い層の参加を促し、企画にも参加してもらったらと思います。
- 新潟のよさを皆で知ることの大切さを感じました（地域を知ることの大事）。シティガイドを設置したことは、よかったですと思いました（継続する事）。市民が主体となり、活動することが大事。子ども達も参加できるものを。
- 岡崎先生のお話により、新潟の良さを再認識できた。この様な話を市民に広めるべきである。
- 会場を見渡しても若い世代が少ない。再生ではなく、新しいものを作り出すことも必要。そのためには若い世代からの発信が生かされるし、共感を生むのでは。全国みなと町シンポジウムを新潟で開催・主催する等のアクションがキッカケになるのでは。

- 自治協としてこれから何をするのか、私達にできることは何か、さらに議論を深めていきましょう！

## <感想>

- 県外からきて早 37 年、今やっと勉強できる歳になり、とてもうれしいです。街歩きに参加していきたいと思っています。
- 新潟に住んで 30 年経て、改めて新潟の歴史を知りました。下町をはじめ、これからの街歩きしたいと思います。
- 新潟のよさがとてもよくわかり、また町歩きをしたくなりました。
- 新潟の町が少しわかってきました。
- 今迄あまり聞くことのできなかつた話が聞け、本当によかつた。これからもずっと残していく大切なものが多いことを知ることができた。これからも参加していく。
- まちづくりに関して、市外に住む若者を取り込むことで新たなアイデアが生まれると思います。今回の講演を大学の研究に大いに役立てたいと思います。
- 新潟の下町あるきをぜひ体験してみたいと思いました。岡崎先生のお話をもっと深くお聞きしたかったです。日和山へぜひ登ってみたいと思います。
- 継続的にまちづくりに参加できるよう頑張ります。
- 大変勉強させて頂きました。新潟の魅力をさらに知りたいと実感しました。
- 北前船についてあまりにも知らないことを思った。今後も機会を見つけてお話をお聴かせ頂きたい。
- 基調講演が特に良かつた。外から見た新潟市の歴史が更に理解できた！今後も外部講師を望む！
- 非常に参考になる面白い話がたくさんあつた。今後の色々なイベントや資料につないでほしい。
- 新潟のよさを再確認した。下町を散策してみたい意欲が出てきた。古い街並みを残すのも大切。下町の人口増を期待したい。
- 生まれ育つた、この下町も日頃、わざわざ足を運んだり、考えることに疎かつた。1年に1回は新潟の成り立ちに親しみ、愛着のあるものにしたいと思いました。
- 市長さんの話にあつた、行ってみたい街づくりを。岡崎先生の花街についてのお話はいい勉強になつた。北前船をシンボルとした未来のまちづくり、ぜひお願いします。
- 北前船が残したものと同連が分らなかつた。
- 商都市、コンベンションシティの創生とあわせて歴史を守る意味合いでも、遺産を守り抜くことは重要であると感じた。
- 北前船がもたらした役割をもう少し具体的に事例を挙げて、文化の伝承が示された内容があると面白いと思う。
- 今日は北前船印象があまり感じられなかつた。新潟のイメージを膨らませられよかつた。
- 新潟市の町づくりのあり方は市民より県外の方から聞いた方がより良い話が聞けると思う。今住んでいる人は、自分の周りがよく見えないのでは。
- 基調講演で歴史的に重要なもの、新潟市で「ほこるべき」ものは再確認したが、現実的に考えて花街、港町で“まちづくり”の中心としていくには疑問である。経済的基盤の無い“町づくり”は続かない。廻船問屋が栄えたから花街ができた。花街を大事にすれば新潟市が栄えるわけではない。
- 将来の展望について、パネリストの発言に具体的な提言が感じられなかつた。私は、「みなとまち新潟」を捨ててしまった反省に立つて、入舟地区の港湾計画を実現させて、「みなとまち」の回復を図る必要があると考える。
- 花街を前面にアピールすることに遊郭で名の知られた歴史と関わりがあると思うと女性として、抵抗があります。でもここにあらゆる日本の伝統が詰まっているという岡崎さんの話でなるほどという部分がありましたが、やはり女性のもてなしが売りに？と釈然としないものがあります。
- 歴史好きは新潟に来るのか？建築物好きは新潟に来るのか？おそらく別の場所に行くのではないのか？新潟は観光都市にならなければならないのか？「至福の時間」は人が押し寄せる場所では得られない。景観は維持するだけで少なからずお金が必要。教育の重要性は大事だと思う。どうバランスを取るかが大切。
- 私は鳥屋野地区に居住していますが、「みなと新潟」は他人事でした。知識もなく興味もありませんでしたが、今回のフォーラムで考えが変わりました。ありがとうございます。
- 新潟に住んでいて、今日お聞きしたことはほとんど知らなかつたのですが、とても興味を持ちました。新潟にこんな宝物があつたことに感動しました。

■新潟市中央区自治協議会

水辺とみなとのまち部会 委員名簿

藤田	孝一	(座長)
戸川	芳孝	(副座長)
阿部	洋一	
榮森	征行	
大堀	隆夫	
鹿島	興二	
川崎	健輔	
小島	良子	
鈴木	喬	
大坂	昌子	
豊嶋	直美	
深井	俊輔	
山口	浩二	

みなと新潟 北前船フォーラム 報告書

■制作

平成27年1月

■編集

新潟市中央区自治協議会 水辺とみなとのまち部会

■発行・お問い合わせ先

新潟市中央区自治協議会事務局 (中央区地域課)

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1

TEL. 025-223-7023 (直通) / FAX. 025-223-3660